

紫友同窓会会報

紫友同窓会の事業と活動（2024～2025）
特集「五中・小石川と戦争」

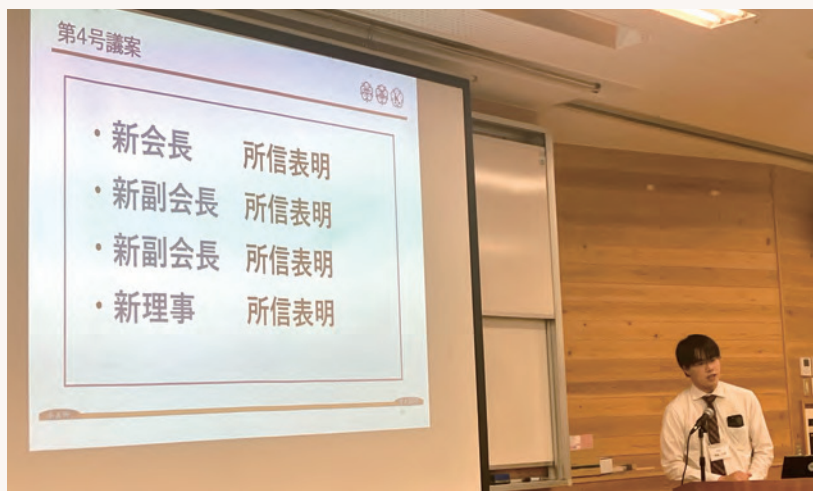


紫友同窓会 新会長に鈴木善博さん (029C) が就任

5月24日(土)に開催された2025年度紫友同窓会評議委員会において、3期6年を務めた戸叶司武郎会長(027C)の任期満了に伴う役員選挙は、役員(会長)推薦委員会より推薦された鈴木善博理事(029C)以外の立候補者がいなかったため選挙を実施せず、信任審査となりました。

その結果、満場一致で鈴木さんが信任され、新会長に選出、就任いたしました。あわせて、副会長候補として立候補した富田晴彦理事(032I)、渡邊和真理事(064B)の両名が信任され、新たな役員構成による新体制がスタートしました。鈴木新会長の挨拶とプロフィール及び新役員名簿は3ページと17ページに掲載しました。

戸叶前会長並びに退任された役員の皆様には長い間同窓会運営と活動にご尽力くださり大変ご苦勞様でした。引き続き「紫友同窓会」へのご支援賜りますようお願い申し上げます。



会長、副会長の所信表明



鈴木善博 新会長 (029C)

CONTENTS

▶目次

- | | | | | | |
|----|--------------------|----|-------------------|----|------------------|
| 2 | 評議委員会(新役員選出) | 19 | 1. 少年たちの4月13日 | 42 | 旧教職員日より |
| 3 | 会長挨拶 鈴木善博(029C) | 21 | 2. 青年たちの8月15日 | | ①五味亜希子先生 ②小川一美先生 |
| 4 | 校長挨拶 小林正基校長 | 23 | 3. 同窓生訪問 | | ③山崎悠賀先生 |
| 5 | 副校長挨拶 宮山高之後期課程副校長 | | ①戦時下の「開拓」発行と五中の青春 | 44 | 大学合格者一覧 |
| 6 | 同窓会の事業と活動(2024~25) | | 中村稔さん(旧G21D) | 45 | クラス会・同期会 |
| | 2025年度評議委員会報告 | 29 | ②満州からの引揚げ・離別・再会 | 51 | クラブつながり |
| 15 | 2024年度決算報告 | | 成田攻さん(014H) | | ①軽音研リトルストーンズ |
| 16 | 2025年度予算案(承認) | 34 | 同窓生訪問インタビューを終えて | | ②茶道部 ③紫友美術会 |
| 17 | 役員一覧 | 35 | 先生お元気ですか 三浦真智先生 | 54 | 小石川つながり |
| 18 | 特集「五中・小石川と戦争」 | 36 | 吾が校友の精神を | | ①紫友まち歩き |
| | | | ①「何とかなるぞ。ぼ〜ん!」 | 56 | ②紫友経済人交流会(第六回) |
| | | | 高松晃子さん(034G) | 58 | ③中村さんと岡田さんの対話 |
| | | | ②進む道を「創作」する | 60 | 事務局日より |
| | | | 藤原(野村)なつみさん(053G) | 62 | 逝去者一覧 |
| | | | 特別寄稿 ピーター・ケイブさん | 63 | 表紙の言葉(内山懋さん011) |
| | | | (マンチェスター大学准教授) | | 編集後記 |
| | | 41 | 「今学校で」PTA活動報告 | | |
| | | | PTA会長 村上雅彦さん | | |

会長挨拶

「安定した次世代の紫友同窓会を目指して」

紫友同窓会 会長 鈴木 善博 (029C)



皆様、こんにちは。紫友同窓会の新会長に就任いたしました029Cの鈴木善博でございます。歴史あるこの同窓会の重要な役割を担うことになり、非常に大きな責任を感じております。私たちの母校小石川は、私たちに学び舎を提供するのみならず、たった3年間（中等教育学校卒業生では6年間）の期間であったにもかかわらずその後の人生における貴重な経験も与えてくれました。その恩返しとして、母校との強い絆を築き、共に未来を見据えた活動を展開してまいりたいと考えております。また、私たちの同窓会は、多くの先輩方が築かれた活動と伝統に支えられています。この貴重な資産をしっかりと継承し、さらなる発展を目指してまいり所存です。

私は2年前に同窓会活動に参加し、まだ経験の浅い2年生ではありますが、このたび同窓会会長という大役をお引き受けすることとなりました。初心者だからこそ、従来の固定概念や慣習にとらわれず、これまで築かれてきた歴史と伝統を大切にしながら、次世代にふさわしい新しい組織運営に挑戦してまいります。

戸叶前会長がコロナ禍において運営に尽力されたことや母校との関係強化に向けた努力を思い起こし、私たちも新たな連携を模索して参ります。母校との強固な関係を築くことで、教育環境の充実や次世代への支援をより効果的に行い、同窓生と母校が共に成長できる基盤を作り上げていくことが私たちの目標です。

具体的には、同窓生同士の交流を促進するため、イベントや活動を充実させていく所存です。例えば、定期的な交流会やセミナーを開催し、知識や経験を共有する場を提供いたします。また、現役の在校生支援を重視し、教育環境の充実やキャリア支援にも一層力を入れてまいります。「同窓会の善き姿」を次世代にふさわしい形で共に築いていけるよう、皆様とともに歩んでいければと考えております。

府立五中、小石川高校、小石川中等教育学校は、創立110周年を間もなく迎えます。中等教育学校設立から20年が経ち、中等教育学校卒の同窓生も着実に増加しております。そうした中で今回の新役員に中等教育学校卒業生から副会長と理事をお迎えし、次世代の同窓会の在り方も追求していく所存です。

運営面におきましては、会長、副会長、事務局長によるグループ運営を実施し、相互チェック体制を導入

することでガバナンスの向上を図ってまいります。局や局員にとらわれず、クロスファンクションの推進や、局長不在時の上位代行体制、副理事の明示化なども行い、透明性のある運営を心掛けます。私たちの活動は、皆様からいただく会費やご寄付など皆様の支えがあってこそ成り立つものですので、その期待にお応えすべく、誠心誠意運営していく所存です。また、身の丈にあった活動を進めつつ、基金の拡充にも努めてまいります。これにより、より多くの同窓生が活動へ参加しやすくなり、私たちのコミュニティが一層強固になることを目指します。基金の活用方法についても透明性を持ち、皆様に逐次ご報告させていただきます。

私たちの同窓会は、単なる卒業生の集まりではなく、互いに支え合い、共に成長するコミュニティであります。これまでの活動を振り返ると、多くの先輩方が道を示し支えてくれたおかげで、今日の紫友同窓会があることを痛感いたします。その精神を忘れず、私たちも次の世代へ責任を持って伝えていくことが求められています。

私からのお願いを申し上げますと、皆様には少しの間隙時間を母校小石川の為に、私ども同窓会の活動にご参加いただけますと幸いです。ちょっとしたお手伝いでも大歓迎です。皆様のご協力があってこそ、同窓会はより身近な存在となり、活気に満ちた活動を展開できると信じております。また、皆様の貴重な意見やアイデアも大切に、より良い同窓会を共に作り上げていければと考えております。

最後に、私自身の経歴を簡単に紹介させていただきます。1958年生まれ、1982年に中央大学物理学科を卒業いたしました。その後、中堅の半導体メーカーに入社し、技術職としてキャリアを積んだ後、2001年より米国子会社の経営に携わることとなり、2020年には米国ナスダック市場への上場を達成することができました。2022年に親会社を退任した後も、米国では取締役会会長を務めております。

新たな挑戦に向けて、私たちの同窓会が一層の発展を遂げられますよう、皆様と共に力を合わせてまいります。多くの皆様と共に素晴らしい紫友同窓会を築いて参りたいと願っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

校長挨拶

着任のご挨拶

都立小石川中等教育学校 校長 小林 正基



本年度、本校の校長に着任いたしました小林正基と申します。紫友同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対し、多大なるご支援とご協力を賜っておりますこと、心より感謝申し上げます。鳥屋尾前校長からバトンを受け継ぎ、小石川中等教育学校のさらなる発展のため、全力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年度は、学校全体に活気が満ち溢れ、生徒たちの力が存分に発揮された一年でした。特筆すべきは、「科学の甲子園全国大会」での都立学校初の総合優勝です。この快挙を成し遂げたチームは、本年5月にアメリカで開催される国際大会に参加します。また、「モデルロケット甲子園」全国大会優勝の物理研究会ロケット班はフランスで開催の国際大会へ、そして「花いけバトル全国大会」優勝の華道部は全国選抜大会に出場するなど、生徒たちは国内外の舞台で輝かしい成果を収めました。これらをはじめとする、様々な分野での成果は、生徒たちのたゆまぬ努力、教職員の情熱、そして何よりも同窓会の皆様からの温かいご理解とご支援あってこそ実現したものです。校内における部活動や自治活動の充実に向けたご支援はもちろん、全国・世界を舞台に挑戦する生徒たちの活動に対し、様々な形で力強いご支援をいただいていること、心より厚く御礼申し上げます。

本年4月の始業式は、数年ぶりに体育館アリーナでの対面実施となり、生徒たちの元気な校歌斉唱が響き渡りました。また、中等教育学校として節目となる20期生を新入生として迎え入れて在校生による対面

式や部活動紹介も賑やかに行われるなど、学校全体が活気に満ち溢れていました。今年度も、これまでの勢いをさらに加速させ、生徒たちが個々の可能性を最大限に引き出せるよう、教育環境の充実に努め、本校の教育活動の三本柱である「小石川教養主義」「理数教育」「国際理解教育」を力強く推進するとともに、9月の行事週間をはじめとする生徒の主体的な活動を支え、生徒たちが充実した学校生活を送り、大きく成長する教育活動を展開してまいります。

私は、学校には「3つのC」が不可欠だと考え、これまでも学校経営に取り組んでまいりました。「3つのC」とは、Chance（様々な機会）、Challenge（思い切り挑戦できる環境）、そしてChange（経験を通しての変容）です。本校の教育は、創立以来受け継がれてきた「立志・開拓・創作」という揺るぎない教育理念に深く根差しており、3つのCがたくさんある学校です。中高一貫教育校として、また、スーパーサイエンスハイスクールとしてのメリットを最大限に活かした教育課程を編成・実施する中で、生徒たちの知的好奇心をさらに刺激し、深い学びへと導くことが期待されています。今年度も教職員一同、力を合わせ、生徒たちの可能性を最大限に引き出すべく、教育活動に邁進してまいります。小石川中等教育学校の生徒たちが、未来の社会を創作する「真の知性」と「豊かな人間性」を兼ね備えた人材へと成長できるよう、精一杯努めてまいります。これまでと同様、皆様からの温かいご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

副校長挨拶

同窓生と共に歩む小石川の未来

後期課程副校長 宮山 尚之



紫友同窓会の皆様、こんにちは。後期課程副校長の宮山です。今年で副校長として3年目を迎えました。皆様と共に歩んできた日々を振り返りながら、感謝の念を込めてこの会報を書かせていただきます。

まず、私が副校長に就任した当初、新たな環境に適応することが急務でした。しかし、教職員や生徒たちに助けられ、円滑に業務を遂行することができました。特に、紫友同窓会会長からのご支援には心より感謝申し上げます。

小石川は都立の最先端を走る学校として常に進化しています。教育カリキュラムの見直しや、ICT機器の活用、教職員のライフワークバランスを考えた働き方改革など、未来を見据えた取り組みを進めています。これらの取り組みにより、生徒たちの学びをより豊かにし、彼らの可能性を広げています。

しかし、教育理念が揺らぐことはありません。小石川教養主義に基づく教育方針のもと、幅広い教養を身につけることを重視しています。広く深く、興味関心のまま学ぶことにより、生徒たちは多角的な視点から物事を考える力を養い、社会で活躍するための基盤を築いています。また、国際理解教育にも力を入れており、異文化交流や語学教育を通じて、生徒たちがグローバルな視野を持つことができるよう努めています。これにより、生徒たちは国際社会でのコミュニケーション能力を高め、世界に貢献できる人材へと成長しています。さらにSSH指定校として理数教育の強化にも取り組んでおり、最新の教材や設備を導入することで、生徒たちの科学的探究心を育てています。生徒たちは論理的思考力や問題解決能力を身につけ、将来の科学技術分野での活躍が期待されています。

さらに多大なる教育支援のおかげで国内外の大会やコンテストに参加することが可能となり、大きな成果を上げています。生徒が希望する大会に向けての取り組みをさらに充実させることができました。これにより、生徒たちはより質の高い教育を受けることがで

き、学習意欲も向上しています。

部活動支援においても、同窓会の皆様のご協力により、多くのクラブが希望する練習器具を購入することが可能となり充実した活動を行うことができました。部活動委員会活動支援により学校全体の活気も増えています。昨年度の芸能祭や創作展では、生徒たちの努力と成果が見事に発揮され、感動的な瞬間が数多くありました。

さらに、人的支援においても、同窓会の皆様からのご紹介のご協力により、優秀な講師を迎えることができました。そのため文化系部活の専門的な指導や小石川セミナーを実施することができました。」生徒たちは多様な視点から学ぶ機会を得ることができ、より広い視野を持つことができるようになりました。このような成果を挙げることができたのも、紫友同窓会の皆様のご支援とご協力のおかげです。皆様のご支援により、私たちは同窓生としての誇りを持ち続けることができています。

近年、私立高校の授業料無償化と少子化の影響を受け、都立一貫校の人気に陰りが見え始めており、小石川中等教育学校も例外ではありません。募集対策が喫緊の課題となっています。これに対応するため、学校の魅力をさらに高め広める施策を講じる必要があります。同窓会で支援していただいている教育支援や人的支援を広報活動で伝え、学校の魅力を学校外に広めることが重要です。紫友同窓会の皆様にも、小石川の宣伝をお願いしたいと考えております。これからも、都立学校の先頭を走る学校として、同窓生に愛される学校へと成長し続けるために、学校の魅力を伝えるため力をお貸しください。

今後も、学校の発展と生徒たちの成長を支えるために、努力を惜しまず邁進してまいります。同窓会の皆様には、引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。最後に、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

紫友同窓会の事業と活動（2024～2025）

— 「同窓生交流と現役生支援」の成果と課題—

2025 年度評議委員会開催報告

5月24日(土)、母校の多目的教室において各クラス選出の評議委員及び同窓会役員計53名の出席の下、2025年度評議委員会が開催されました。会議では各クラスから指名選出された評議委員の皆様、同窓会が進める各事業と決算の報告、2025年度予算の審議、承認をいただきました。次に任期満了に伴う会長、副会長の選任及び退任を提案し、満場一致で承認を得るとともに、当会の活動全般について貴重なご意見をいただきました。

本会議に参集された評議委員の皆様、お忙しい中、大変ありがとうございました。

会議は戸叶紫友同窓会会長の挨拶の後、母校の新校長として着任された小林正基先生からご挨拶を賜り、同窓会との学校側窓口である宮山副校長先生、野本経営企画室長（4月着任）よりご挨拶がありました。

その後、戸叶会長を議長として以下の報告、議案についての審議・承認を行いました。

- ◎ 2024 年度 各局・委員会活動報告
 - ◎ 1号議案 決算報告・監査報告
 - ◎ 3号議案 予算案
 - ◎ 役員選任・退任の提案
 - ◎ その他質疑応答・提案説明
- 結果、各報告・議案ともに承認されました。

◎ 2024 年度 活動報告

* 記載の担当役職名は 2024 年度のものです

交流局の活動

交流局長 戸叶司武郎 (027C)
村上克己 (027B) 鈴木善博 (029C) 河村英敏 (035D)
松田圭子 (036D) 山川神太浪 (049D)

◆交流活動支援企画

昨年8月に初めての企画として、芸能祭りハーサル見学会を開催しました。学校にPA機器・照明機器を貸与したことをきっかけに、放送委員会などと連携して卒業生が見学できる体制を作りました。主に卒業1年から3年目の同窓生が参加しました。

例年、創作展最終日に開催するホームカミングデーは約20名が参加しました。またzoomでのオンラインクラス会の開催を支援しています。交流局アカウントでzoom会議を設定し、参加方法を電話などでサポートします。現在は09Aクラス会が利用されています。



2024 年度事業報告
(戸叶会長)



小林校長先生挨拶

◆紫友スタジオ運用管理

2018年度に開設した紫友スタジオは、2019年度120回、コロナ期間中の2020、2021年は56回、92回、でした。2022年度は125回、2023年度は171回の利用がありました。2024年度は140回でした。

主な利用の目的は、同窓生は合唱やバンドの練習、クラス会や学年同期会の幹事会。PTA・教職員・生徒は「こいしかわら版」編集会議や「親時の会」、モデルロケット製作作業など。理事会としては植樹祭、伊藤長七研究会、交流局打合せなどがあります。特に紫友オンラインセミナーでは配信基地&撮影スタジオとして重要な役割を担っています。スタジオの認知度が上がるにしたがって、土日の予約は重複が多くなっており調整に応じてくださった皆様に御礼申し上げます。

今年度活動方針は運用マニュアルの改訂、認知度向上です。スタジオは地下1階で電子ピアノ、ミキサー

とスピーカー、50型モニター、A3プリンター、WiFi環境などがそろっており、Web会議やバンド練習、舞台稽古などに最適です。経費削減のため常駐スタッフはおらず、備品管理やスタジオ利用における課題も残っていますが、皆様のご利用をお待ちしております。申込み方法は下記をご参照ください。

<https://www.shiyu-dousoukai.jp/100shuunen/studio/stdio-manual.pdf>



◆紫友オンラインセミナー開催

「小石川ダイバーシティ」を体現されている、さまざまな分野で活躍する同窓生を毎回講師に迎えました。小石川の伝統である「リベラルアーツ」を中心に今年度は第18～22回の計4回実施しました。PTAや現役生の視聴者も増え、また見逃し配信も期間限定で提供しており、毎回100名前後の参加申し込みがあります。

(過去の概要については、会報第48～52号をご覧ください)

実績報告

第18回：4月28日(日)

児玉晃一さん(037E)／弁護士、全国難民弁護団連絡会議 世話人、マイルストーン総合法律事務所 代表
「日本にも難民が来ているってご存じですか？」

～入管・難民問題と人権～

第19回：6月1日(土)

三浦(土屋)南海子さん(023A)／パーソナルカラーリスト、一般社団法人彩色ケア色カルタ研究所代表理事、NPO法人日本パーソナルカラー協会理事
「医療・介護・福祉の現場でも使われています！」

色を利用したコミュニケーションツール

『色カルタクオリアゲーム ©』の紹介と体験

※以上の2回は、会報52号8ページに報告

第20回：9月28日(土)

富永源太郎さん(049A)／Frich(フリッチ)株式会社代表取締役

「『保険業界のドン・キホーテ』が『支えあい』を語る理由」

概要

旧態依然とした構造や商慣習が残り、情報の非対称性による収益構造、政治との強いつながりも持つ保険業界。その盤石な構造に対して、「支えあい」＝「ホケンの民主化」を切り口に業



富永源太郎さん(049A)

界の革新を目指して起業された富永さんの奮闘の数々、そして多くの課題に対して人々のためと矜持を持って取り組むスタートアップ経営者たちの思いを重ねて、縦横に語られました。

第21回：3月1日(土)

濱門麻美子さん(039H)／株式会社 岩波書店 自然科学書編集部 編集長

「科学の本をつくって届ける一書籍編集者の仕事」

概要

テレビ・映画・漫画などで登場する主人公の仕事が週刊誌の編集者だったりすることがありますが、実は、「編集者」とはどんな仕事をされるのか、あまり私たちに馴染みがありません。今回は仕事のやりがいや出版業界のリアルな一面を紹介されました。

また、仕事の仕方をみても週刊誌と書籍、漫画と自然科学書では大きく異なります。一般にあまり知られていない自然科学書の編集について、濱門さんがはまったきっかけや企画を立てる際のアンテナの上げ方、依頼する執筆者の見つけ方など、裏方仕事の楽しさを語られました。



濱門麻美子さん(039H)

第22回：4月26日(土)

渡邊和真さん(064B・中等1期)／情報処理安全確保支援士

「知らぬ間に迫る脅威から身を守る」

「いまこそ知っておきたいサイバーセキュリティ」

概要

中等卒業生として新しく同窓会の副会長になられた渡邊さんは、情報処理のスペシャリストとして同窓会の情報発信と役員間の情報共有など、新旧世代をつないで多方面に力を発揮しています。デジタル社会の今、私たちが知らないうちに危険にさらされるサイバー攻撃の種類や実例を紹介し、どのように攻撃者から狙われているのか、さらに、AIの普及がもたらす新たな課題と、効果的な対策法について最新の情報が紹介されました。私たちの大切な情報と財産を守るための日頃の心構えとともに、わかりやすく伝えてもらいました。



渡邊和真さん(064B・中等1期)

番外

PTA が年に1回主催するセミナーで2024年12月15日、建畠哲さん(018I)／埼玉県立近代美術館館長、元多摩美術大学学長、京都市立芸術大学名誉教授が、「リベラルアーツとしての美術」を学校の大会議室で講演しました。

美術館の仕事とは？
visual thinking とは？
美術大学とは？デザイン工学とは？などをテーマに人生にはリベラルアーツがいかに楽しく重要なのかを美術の事例を元に解説しました。美術に興味を持つ保護者がたくさん受



建畠哲さん (018I)

講し、深い質問に答える建畠さんの見識に会場は大いに感銘を受けていました。

活動方針

2025年度は4回+PTA主催セミナー支援で年間5回を計画しています。幅広い層での講師を発掘することを活動方針とします。クラスやクラブのお知り合いにお薦めいただくとともに、素敵な活動をされている方がいらっしゃいましたら、ぜひ、交流局担当者までご紹介ください。

◆紫友まち歩き会

2024年度は5回のまち歩きが開催されました。

1) 第102回(2024年5月18日)

：地下神殿龍Q館と首都河川・治水の歴史
錦糸町駅 → 貸切りバス移動 → 龍Q館・地下神殿 → 東京都慰霊堂 → 懇親会

2) 第103回(2024年6月1日)

：相模野に蛍を求めて
事前環境調査(報告者のみ) → 緑園都市駅そばのバーミヤン集合、懇親 → 約20分ゆっくりのまち歩き → 名瀬川源流の小川で蛍観察 → 解散。

3) 第104回(2024年12月1日~3日)

：京都・比叡山巡り／「光る君」と横川の僧都を巡る旅

一日目：平等院ほか源氏物語を辿る

二日目：坂本・比叡山方面、最澄の足跡を辿る

三日目：辰年に縁のある寺社を巡る

4) 第105回(2024年12月21日)

：渋谷区公共トイレ巡り

公共トイレ巡りその1 代々木駅前からバスと歩行

で6カ所を巡る。設計者は安藤忠雄・坂茂・隈研吾など。

5) 第106回(2025年1月25日)

：超高層のあけぼのからスーパートールへ
霞が関ビル → 金刀比羅宮 → 虎ノ門ヒルズステーションタワー → 虎ノ門ヒルズ森タワー → 麻布台ヒルズ森ビルJPタワー → 外務省外交史料館展示室 → 新年会「魚亀」麻布十番。

過去の活動内容は下記ページをご覧ください。

https://www.shiyu-dousoukai.jp/archives/a_dousousei/a_hito_koto/machi/index.html



◆紫友経済人交流会

2024年度は会の開催はありませんでしたが、2025年度に入り6月14日(土)に第6回交流会を東銀座のJJK会館で開催しました。経済人交流会に登録している同窓生は約100人で小石川OBの世代を超えた新しいネットワークを構築し、今後同窓会における有力な経済人OB・現役の交流の場として広がることを目指しています。活動にご興味のある方は、是非、経済人交流局担当者までお問い合わせください。

※紫友経済人交流会ホームページ

<https://shiyu-keiei.com/>



◆Global懇談会、紫友会地域・職域支部、等

Global懇談会は同窓生の世界での活躍や苦労をゆるく語り合うサロンです。前半にゲストによる基調講演を設け、その後は自由に語り合う時間を設けます。昨年度は3回開催しました。

1) 第3回：2024年6月2日：澤田和哉さん(032B)
／俳優・元ソニーフランス社長

「50代で役者の道を選ぶ」

—海外勤務時代や役者になってからの話—

2) 第4回：2024年11月2日：境大学さん(023C)
／日本技術士会 資源工学部会 顧問

「中央アジア(キルギス)は通過点！」

—体験談を織り交ぜて—

3) 第5回：2024年3月8日：川村宣人さん(045B)
／メキシコ・アグアスカリエンテス在住

「メキシコで暮らすということ」

2025年5月3日には第6回の講師を川村さんに引き続きお願いしました。波乱に富んだ人生と海外での生活についてご紹介いただきフリートークでさらに盛り上がりしました。

地域・職域支部については2022年度の医療紫友会

以降、新しい発足はありませんでした。今年度の方針は、支部・サテライトのオンライン活動の支援です。国内各地の「ご当地紫友会」や、企業・業界内の「職域紫友会」の新規登録をお待ちしています。

教育支援局の活動

教育支援局 局長 大場賢一(O34E)
局員 木村 薫(O27C)

※(部活動支援)

部活後援局局长 富田晴彦(O32I)
交流局 局員 鈴木善博(O29C)

「一般財団法人 紫友会」とともに、教育活動(SSH含む)・クラブ活動・学校生活活動それぞれへの支援を合計約275万円(財団からの支援を含めると約327万円)、以下のとおり実施しました。

2024年度も世界各地での紛争の影響に伴い、各種研修会や大会遠征の回数は例年より少なめでしたが、学校からの要望には概ね対応できました。また2025年度現役生から要望のあった学校予算では調達が難しい物品について、宮山副校長(O45B)にとりまとめていただき、一部を納品しました。学校との情報共有の密度をさらに高めて支援を継続してまいります。

◆教育支援活動

●海外研修支援

カーディフ大学の夏期研修は2023年夏で終了となったため2024年度は研修がありませんでした。2025年度からは米国シアトル市の州立ワシントン大学への夏期短期研修プログラムが開始され、参加者の渡航費用の一部を支援する予定です。

●SSH(スーパーサイエンスハイスクール)支援

昨年度はSSH第4期5年間の3年目にあたり、学校全体の研究開発課題は、『「小石川リサーチラーニング」による、世界の科学技術を牽引する人材の育成』です。その中で在校生が6年間取り組む「小石川フィロソフィー」は木村薫理事(O27C)を含む5人のSSH運営指導委員がサポートしています。

また、「サイエンスカフェ」「小石川セミナー」では第一線で活躍する研究者や大学生の同窓生などを講師に迎えて講演会を開催しました。2024年11月の「研究室訪問」では訪問先の1カ所が同窓生の研究室でしたし、12月の「分野別大学模擬講義」でも5名の同窓生(大学教授・講師)が登壇しました。このように

今後も諸先輩の知見や経験・人脈による支援を継続していきます。

2024年度実績

- ・「伊豆大島生物研修」の講師旅費等を助成
- ・「パソコン甲子園2024」参加旅費等助成
- ・「第19回全国高校生英語ディベート大会 in 岡山」講師旅費等助成

◆部活動支援活動

主に各クラブ活動における備品類の貸与と全国大会等への遠征費の助成を行いました。具体的な貸与物品名につきましては、『紫友同窓会ホームページ』トップページ右下にあります、「クラブ活動備品支援」の「貸与品のリスト」をご覧ください。2024~25年度は特にモデルロケット世界大会への出場支援が大きなテーマとなりました。

<https://www.shiyu-dousoukai.jp/100shuunen/rental/rental-list.html>



●音楽系クラブ

- ・楽器系スピーカー類貸与：フォークソング研究会
- ・楽器類の修理(一般財団法人紫友会)
：吹奏楽部・小石川フィルハーモニー貸与備品

●文化系クラブ

- ・「ロボカップジュニアオープン2024名古屋大会レスキューライン」参加費助成：物理研
- ・「花生けバトル全国大会」遠征費助成：華道部

●理科系クラブ

- ・ロケット甲子園全国大会(福島県南相馬市)の準備(予備打ち上げ・火薬取扱い講習)支援：物理研

※上記支援の成果により、物理研ロケット班は2025年2月の全国大会で優勝し、去る6月にパリ航空宇宙ショー内で開催された世界大会(世界一決定戦)に出場しました。12名の参加に必要な費用(ロケットエンジンと燃料購入・運搬費用等)は総額概算でおよそ1,200万円と見込まれ、東京都からの助成金、宇宙航空業界企業からの協賛、保護者負担だけでは賅いきれないため、一般向けに4月にクラウドファンディングを立ち上げ、約740万円を集めました。また、同窓生からは、同窓会の紫友みらい基金へのご寄付として多大な支援をいただきました。皆様のご厚情に感謝いたします。



物理研ロケット班 世界大会出場社行会

●運動系クラブ

- ・投手防球フェンス貸与：軟式野球部
- ・大型扇風機貸与：剣道部※・柔道部※・体操部※
- ※剣道・柔道場（体操部・音楽系クラブ利用含む）に夏から秋までの5か月間、工場用の大型扇風機をレンタル手配して貸与しています。道場の空調施設が整備されるまで、レンタルを継続する予定です。



野球部防球フェンス



大型扇風機

◆学校生活支援活動

●音響(PA)機器・照明機材貸与：放送・文化委員会

校内での演奏会・講演会・光庭ライブなどでは音響と照明を放送委員会と文化委員会が担当しています。また、現役の頃に芸能祭や各種セミナー、研究発表会、運動場や光庭でのライブなどの音響(PA)や照明・映像配信で、放送委員会と文化委員会に助けもらった若い同窓生も多いことと思います。

こうした中で、現在使用している学校のPA機器、照明機材は15年以上経過して老朽化し、芸能祭では毎年外部の舞台設営会社から機材のレンタルとオペレーター派遣を受けていました。しかし毎年の外注費用が高額なこと、オペレーターが高品質なPA環境を構築するために委員会生徒に補助作業をさせていたこ

となどから、学校は機器の更新を決定し、2024年度の学校予算で賄えない部分について同窓会に支援要請がありました。

同窓会は放送と文化の両委員会から熱意溢れる緻密な購入希望のプレゼンを受け、活動は現役生にとって小石川ならではの学校生活の一環であることを鑑み、部活動に準じるものとして支援することとしました。

その後、両委員会と購入備品検討会議を重ね、希望する機器についてひとつずつ性能と適性を吟味しました。またPA機器の選定については、同窓生が経営するクロスワ楽器(038A黒澤友広さん)の助言も受けて最終的に191万円分の機器を購入し貸与しました。

舞台や演奏会における音響と照明・撮影の担当は、効果と効率と品質・全体進行の把握・設営と撤収のロジスティックス・配線の設計・動線と安全の確保…等々、プロジェクトマネジメントに必須な多くの経験を得ることにつながります。両委員会の委員諸君が将来、さまざまな分野で優秀なプロジェクトマネージャーとして活躍することを期待しています。



音響機器の貸与

●同窓生有志による FRC 参加応援

(HIBANA Technology YABUSAME team)

昨年に続き、現役5年生(2024年度)の石塚さんを中心とするYABUSAME teamが、米国で人気の世界最大のロボット&STEM教育活動コンテストであるFRC(“FIRST” Robotics Competition)に挑戦しました。他校生徒を含む学校横断型の中高生団体のため同窓会として直接の支援はしませんでした。木村薫理事(027C)と鈴木善博理事(029C)を中心に同窓生有志がチームを支援しました。ロボット工作の場として今回も東大本郷キャンパスの「メカノデザイン工房」を使用でき、また寄付活動やクラウドファンディング立ち上げも同窓生が手伝って200万円以上の活動資金を獲得できました。

2025年3月中旬にハワイ地区でのFRC予選に出場しましたが、残念ながら本選通過とはなりません。5月11日には文京シビックセンターで報告会が開催されました。

環境企画局の活動

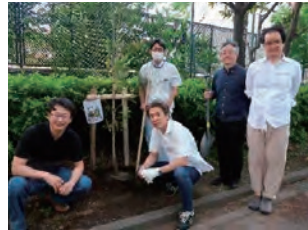
環境企画局 局長 岡村幸二(O21A)

◆ 2024 年度環境企画局の取組み

第8回目を迎えた「小石川の杜プロジェクト」植樹祭は昨年5月11日(土)、主に校舎の一番奥の駕籠町小学校寄りにおいて、中等教育学校と紫友同窓会の主催で実施されました。2年生4クラスのチーム、先生チームと同窓会チームのほか、保護者(PTA)チームとして4名の参加がありました。今回、生物科の先生からは具体的な生物教材の対象として、クスギ、ミズナラ、タブノキなどの樹種を要望されたため、それらを植栽樹種に取り入れるように調整しました。



先生チーム



PTA チーム

9月の創作展では、今回初めて1階の多目的教室において「伊藤長七展」及び「小石川の杜プロジェクト」が開催され、1600人を超える見学者がありました。また、創作展までに全生徒・教職員に「小石川の杜」小冊子(2023年9月版)を配布しました。会場の場所に恵まれて、PTAの参加者も多く、同窓会の主要事業についての動画上映とパネル展示によって、広く関係者の目に止まったと思います。



創作展会場スタッフ



展示会場の様子

アーカイブ

「小石川の杜プロジェクト」の記録

母校創立100周年記念事業の一つとして2017年5月の試験植樹からスタートした「小石川の杜プロジェクト」は、同窓会、現役生、教職員、PTAの皆さんとの協力により進められてきました。以下、過去7回植樹祭までの歩みを振り返ります。

<https://www.shiyu-dousoukai.jp/100shuunen/mori-pro/mori-site.html>

◎ 2017.5.13 試験植 (第1回)

学校正門わき、校名板に沿った植え込みに草花を、また、校舎東側の自転車置場の先、隣地との境界沿いにヤマザクラ、ヤマモミジ等の樹木6本を植樹しました。



オオシマザクラ



◎ 2018.11.23 百周年記念植樹

正門向かって右側のグリーンベルト内にコブシ、サルスベリなど11本を植樹しました。



ヤマザクラ



◎ 2019.5.11 植樹祭 第3回

校舎東南側の隣地境界に果実の成る木としてオリーブ、夏ミカン、ビワなど7本を植樹しました。

紫友同窓会の事業と活動 (2024~2025)

◎ 2021.11.20 植樹祭 第4・5回

2020年度はコロナの為に延期され、21年度にヤマボウシ、コブシ、アオダモなど計8本を校舎南側に植樹しました。

◎ 2022.5.14 植樹祭 第6回

校舎東側の自転車置き場横に低木の寄せ植えを2ブロック、他に成長すると実の成る木6本を植樹しました。



ムクゲ、ドウダンツツジなどの寄せ植え

◎ 2023.5.13 植樹祭 第7回

昨年度に続いて低木の寄せ植えを2ブロック、サトザクラ、ハナミズキなど6本を校舎南側の隣地沿いに植樹しました。

基金局の活動

基金局 局長 杉淵 武(O22D)

◆「紫友みらい基金」の実績と予算

基金は創立100周年後の10年間で1億円の寄付金を目指しております。2024年度は313名の方から総額404万円のご寄付をいただきました。前年度も400万円の実績でしたので横ばい、2019年度からの6年間の累計は3,000万円となりました。皆様からのご支援に改めて御礼申し上げます。

寄付金は同窓会会計にとって会費と並ぶ二本柱として確立したと考えておりますので、2025年度予算も引き続き昨年度と同額の600万円といたしました。

◆今後の募金活動について

10年間目標達成のための推進策として「寄付金への返礼品制度」を実施しており、返礼品の取得が同窓生の支援にも繋がります。この取り組みが会員と同窓

会の強い絆となり紫友同窓会の新しい伝統になることを目指したいと考えております。昨年度から特別キャンペーンとして書籍『我らは長七の教え子だった』をダブルプレゼント品として提供しています。2025年度は6月末まで現役生のモデルロケット世界大会出場支援のための寄付を特にお願ひしました。

みらい基金返礼品について

2022年度から「紫友みらい基金」活動の一環として、新たな返礼品の提供を同窓生に広く呼びかけております。一方、2024年度は本号61ページにも記載の返礼品を決定し、24年4月から25年3月まで86件の返礼品お申し込みがありました。寄付をなさっても返礼品の申し込みをされなかった方が同数いらっしゃいました。返礼品は、同窓会に寄付をくださる方への感謝の印とするため、また同窓生が関わっている商品・サービスなどを皆様にご紹介するための両方を目的とし、現在相談中のものも確定次第随時ご案内していきます。

返礼品を見ると、母校を思う気持ちまた返礼品を提供された同窓生の事業を応援したくなる気持ちが高まることを期待し、今年度も募集しております。2024年度は新たな返礼品の追加はありませんでしたが、返礼品のご提供にご協力いただける同窓生をご存じでしたら、ぜひ事務局までご連絡ください。

※特別キャンペーンを継続し、2万円以上寄付の方に、上記の紫友85周年会が上梓された『我らは長七の教え子だった』を通常返礼品とダブルでプレゼントします。(在庫がなくなり次第終了)

<紫友みらい基金返礼品一覧表>

※返礼品については、本号61ページ及び同窓会公式ホームページで詳細をご紹介します。

<https://www.shiyu-dousoukai.jp/100shuunen/index-henrei.html>

※寄付金額に対応する返礼品の区分は今後変更となる場合もあります。



我らは長七の教え子だった

その他の各局・委員会の活動

◎伊藤長七研究委員会

初代校長・伊藤長七の教育思想を研究・情報発信するため、諏訪寒水会とも連携して継続的に活動を行っています。また、小諸寒水会の立ち



古山理事の説明

上げに向けて活動中です。昨年8月6日には諏訪市教育会館で諏訪寒水会による伊藤長七フォーラム3が開催されました。伊藤博子さん（劇団民藝／伊藤長七翁の直孫）が長七米国滞在中に綴った手紙「プリマスの濱邊から」を朗読しました。この朗読については好評のためビデオ化を検討しています。

コロナ前まで毎年実施していた「PTA 日帰り研修」は、昨年復活し約40名が諏訪湖周辺を訪問しました。故俵同窓会会長のご尽力で2019年9月から始まった東洋英和女学院大学院との交流は今後も維持していきます。

◎部活後援局

各クラブのOB/OG会・代表者を横につなぐ活動を継続中です。昨年度より交流局と連携してクラブ周年行事開催を支援する「お祝い金」企画を開始し、サッカー部（100周年）、リトルストーンズ（軽音研OB/OG会：60周年）には各10万円を支給、茶道部（60周年）には六義園茶室レンタル費用を助成しました。

各クラブOB/OG会の情報や活動は部活後援局のfacebook上で展開していきますので、ぜひ、評議員の皆様から各クラスへのご紹介をお願いいたします。

<部活後援局 facebook URL >

<https://www.facebook.com/groups/146726977100448/>



◎広報局

◆会報グループ

会報52号の発行（印刷19,000部）：2024年8月に郵送配布しました。

（内容）

◎紫友同窓会の事業と活動（2023～2024）

・2024年度評議委員会報告

（5月25日母校多目的教室）

・同窓会各局の活動と学校関連行事を紹介、報告

・紫友オンラインセミナー開催報告

（第15回～第19回）

・五中小石川創立105周年記念総会及び祝賀パーティーの報告 テーマ「さらにつながる」

◎特集『我ら 小石川 農業人』

（地域に根を下ろし「農業」と関連の仕事に従事する同窓生を紹介）

・北杜市で野菜作り 菅原文子さん（012C）

・山梨で一念発起のワイン造り 中村良行さん（029F）

・長崎で手仕事の無肥料無農薬栽培を实践 高瀬創研さん（041H）

・三重県四日市の里山に暮らして 小川陸真さん（022E）

・新潟県胎内の夫婦で守りあゆむ米作り農家 安城守英さん（053F）・安城あゆみさん（058D）

◎同窓生訪問 鳩山友（由）紀夫さん（017H）

名門政治家一族に生まれて

—小石川の青春は…人知れず葛藤の中に？—

◎先生お元気ですか

坂之井不二雄先生（保健体育）1981.4～1994.3 在任

◎わが校友の精神を

①私の高野山紀行 蛭間マサ子さん（022C）

②植物学者・鈴木和雄君のこと 千葉邦彦さん（022D）

③「国際人になれ！小石川人であれ！」 澤田和哉さん（032B）

◎今、学校では

・国際理解教育について 梶田真里先生

・2023年度PTA活動報告 PTA会長 村上雅彦様

◎同期会・クラス会

・012Eクラス会 ・012Fクラス会 ・013Aクラス会
・015Gクラス会 ・019Eクラス会 ・021Gレディース
・021Hクラス会 ・022Bクラス会
・022Dクラス会 ・022Eクラス会 ・022Gクラス会
・022Hクラス会 ・026Cクラス会

・034Cクラス会 ・025学年同期会 ・064学年同期会
・074学年同期会

◆HPグループ

・毎月1日に公式ホームページを更新し、必要に応じて追加更新を行いました。

・会報グループと連携して、会報バックナンバーの掲載やクラス会・同期会の事前告知、各種イベントの紹介を行っています。

◎資料局

- 五中・小石川デジタルアーカイブ [以下、小石川 Wikipedia] (<https://koishikawa.wiki/>) の管理
 - ・「017D」「バレー部」といった記事を追加
 - ・学校要覧を入手する機会がなく、年度記事の本年度分の定型項目が未作成
- 在学中の資料や写真、OB/OG 会などの資料をお持ちの方はぜひ同窓会事務局までご連絡ください。
- 小石川 Wikipedia 編集に加わっていただける方を募集中です。興味のある方は同窓会事務局までご連絡ください。

◎事務局

2024 年度の主な活動報告は下記の通りです。

- 4 月 2023 年度決算報告作成、活動及び会計監査
- 5 月 評議委員会開催案内発送 (メール・郵送)、評議委員会開催
- 6 月 会報原稿作成 (学校情報・評議委員会報告・事務局だより・逝去者一覧等)
- 7 月 会報発行準備 (宛名台紙作成、発送先リスト作成等)
- 8 月 会員・客員への会報郵送
- 9 月 在校生・教職員への会報配布

- 9 月 新入会員 (6 年生) へ入会承諾確認票配布と説明
- 10 月 海外会員への会報郵送 (前年度会費納入者のみ)
- 10 月 新入会員 (6 年生) から入会承諾確認票回収
- 1 月 新入会員 (6 年生) への入会金・会費請求 (学年積立金から振替)
- 2 月 各局から 2025 年度予算の提出
- 3 月 2025 年度予算案編成

随時対応業務

- 郵便物等受取り
- 銀行・郵便局対応 (記帳、入出金)
- 会費・寄付等入金処理
- 各局・学校経費等支払い対応
- WEB 名簿更新 (住所判明・転居・改姓・逝去・退会)
- 問合せ対応 (メール・郵便・電話/留守電/FAX・来局)
- 会報原稿を受取り広報局長に転送 (メール・郵送等)
- 会報宛先不明戻り対応 (web 名簿住所不明処理・追跡メール送付・住所判明者に会報再送)
- 東洋文庫会員証発行
- 紫友文庫蔵書寄贈対応 (採番・配架・閲覧・貸出返却・HP 掲載依頼)
- HP 更新情報作成 (事務局担当分)
- 局長会開催 (資料作成・開催案内メール送付: 月 1 回)
- 理事会開催 (資料作成・開催案内メール送付・議事録作成と配布: 月 1 回)

同窓会からのお知らせ 【WEB 名簿の停止について】

ある同窓生から、従前行っていた紫友同窓会「WEB 名簿管理システム (略称: WEB 名簿)」の会員向け公開機能に対してご意見があったため、個人情報保護委員会に相談しました。その結果、同窓生への個人情報提供の事前同意がなく、このままでは個人情報保護法に抵触すると判断し、直ちに WEB 名簿の公開機能を停止しました。

同窓会事務局は、同窓生相互の交流支援が大きなミッションのひとつであるため、法遵守を前提にして同窓会事務局が仲介するなどの代替策を検討しています。詳細が決まりましたら同窓会ホームページ、紫友ニュースレター、同窓会報などでお知らせいたします。

展示会での プロモーション、 成果につながっていますか？

伝えたい“価値”を届けるために、展示会や販促物の訴求力を最大化するご提案をします。

- ・展示会メッセージ制作
- ・ブース装飾やレイアウト立案
- ・チラシ・パンフレット制作
- ・ノベルティー提案 等

訴求効果を実感したい

製品の強みを
もっと伝えたい

惹きつける
展示会にしたい

何を展示すべきか
定まらない

来場者数を
増やしたい



KIMOT
SEIBID

一人一人の脳みに寄り添う、
ものづくりのパートナーを目指して

株式会社 木元省美堂

<https://kimoto-sbd.co.jp/>

〒112-0011

東京都文京区千石2-44-5

TEL: 03-6240-0588



詳しくはこちらまで

1983年卒 (035) G組
木元哲也

●紫友同窓会 2024 年度決算報告ならびに監査報告

I. 2024 年度収支実績

2025 年 3 月 31 日

1. 収支総括

(単位: 円)

	2023 年度実績	2024 年度予算	2024 年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
前期繰越金 (A)	27,273,488	27,231,133	27,231,133	0	
当年度収入計 (B)	6,718,418	7,200,300	7,038,266	-162,034	
総収入合計 (C=A+B)	33,991,906	34,431,433	34,269,399	-162,034	
当年度支出計 (D)	6,760,773	7,342,000	6,279,373	-1,062,627	
次期繰越金 (E=C-D)	27,231,133	27,089,433	27,990,026	900,593	
当年度収支 (F=B-D)	-42,355	-141,700	758,893	900,593	

2. 収入

(単位: 円)

収入内訳	2023 年度実績	2024 年度予算	2024 年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
i) 年会費	5,536,000	6,000,000	5,928,000	-72,000	納入者 2964 名 (対象者約 18,000 名)
ii) 入会金	822,000	840,000	828,000	-12,000	077 回中等教育学校卒業生 138 名 (辞退者 12 名)
iii) 利息	418	300	12,266	11,966	
iv) 寄付	0	0	0	0	基金基金は基金事業特別会 計に計上
v) 広告料	360,000	360,000	270,000	-90,000	会報掲載広告
当年度収入計 (B)	6,718,418	7,200,300	7,038,266	-162,034	
前期繰越金 (A)	27,273,488	27,231,133	27,231,133	0	※ 2
総収入合計 (C=A+B)	33,991,906	34,431,433	34,269,399	-162,034	

3. 支出

(単位: 円)

支出内訳	2023 年度実績	2024 年度予算	2024 年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
局運営費					
部活後援局	0	60,000	0	-60,000	OB・OG 活動支援関連会議費等
広報局	61,823	43,000	43,793	793	会報制作関連交通費、消耗品費等
資料局	0	10,000	0	-10,000	資料室/デジタルアーカイブ維持管理 関連会議費等
事務局	1,865	10,000	8,772	-1,228	総務庶務、法務対応・資料作成等
小計 (d1)	63,688	123,000	52,565	-70,435	
事業費					
部活後援局	0	0	0	0	OB・OG 活動支援
広報局	1,870,000	1,940,000	1,870,000	-70,000	会報制作費
資料局	0	0	0	0	資料室/デジタルアーカイブ維持管理
事務局	593,555	600,000	603,455	3,455	名簿システム使用料
	161,600	150,000	150,380	380	卒業記念品 (校章入ふくさ)
	114,178	165,000	107,812	-57,188	プロバイダ・サーバー利用料、IT 環 境整備等
	80,000	180,000	60,000	-120,000	東洋文庫会費
小計 (d2)	2,819,333	3,035,000	2,791,647	-243,353	
事務運営費					
1. 人件費	756,277	850,000	651,529	-198,471	事務局員報酬 (常勤 2 名、返礼品作 業等増加)
2. 消耗品備品費	1,134,499	890,000	787,598	-102,402	会報発送関連、不明者一覧印刷、コ ピー機・プリンター等
3. 光熱費	51,634	50,000	49,722	-278	事務局電気料金
4. 郵送料	1,255,211	1,564,000	1,305,318	-258,682	会報発送、委員会案内状発送、切手 等
5. 電話代	72,351	70,000	53,719	-16,281	事務局電話料金
6. 振込手数料	526,633	600,000	508,366	-91,634	郵便振替、銀行振込、自動引落手数料 他
7. 会議費	79,200	65,000	75,884	10,884	評議員委員会懇親会費用補填、茶業等
8. 慶弔費	0	30,000	0	-30,000	弔電、供花
9. 交通費	572	5,000	0	-5,000	事務局員交通費
10. 雑費	1,375	10,000	3,025	-6,975	カード年会費等 (事務局)、トークン
小計 (d3)	3,877,752	4,134,000	3,435,161	-698,839	
予備費 (d4)	0	50,000	0	-50,000	
当年度支出合計 (D=d1+d2+d3+d4)	6,760,773	7,342,000	6,279,373	-1,062,627	
次期繰越金 (E=C-D)	27,231,133	27,089,433	27,990,026	900,593	※ 4
総収入合計 (C=D+E)	33,991,906	34,431,433	34,269,399	-162,034	
当年度収支 (F=E-A)	-42,355	-141,700	758,893	900,593	※ 3

II. 2024 年度貸借対照表

(単位: 円)

科目	金額	備考	科目	金額	備考
資産の部			負債・正味資産の部		
流動資産	43,438,759		流動負債	15,448,733	
現金預金	43,438,759		基金寄付預り金	15,448,733	
			正味資産		
			(前期正味資産)	27,231,133	※ 2
			(当期正味資産増減)	758,893	※ 3
			当期正味資産	27,990,026	※ 4
資産の部計	43,438,759	※ 1	負債・正味資産の部計	43,438,759	

当期正味資産 (次期繰越金) の内訳

(単位: 円)

内訳	金額
預金 みずほ銀行	40,668,567
内訳	
定期_1800459	11,000,000
普通_0520794	310,361
普通_0629241	27,637,624
普通_8062046	1,720,582
貯金 郵貯銀行	2,770,192
内訳	
貯金_67962181	829,070
振替_2-11869	1,941,122
預貯金合計	43,438,759
その他資産	
資産合計 (次期繰越金)	43,438,759

(注) この他に、紫友スタジオ分敷金 322,224 円がある。

2024 年度会計の原簿及び諸証拠書類を照合した結果、正確に処理されていることを認めます。

2025 年 4 月 29 日 監事 高橋 俊一 監事 伊藤 みどり
監事 月田 陽子

以上の通り報告いたします。

2025 年 4 月 29 日 会長 戸叶 司郎

● 2024 年度基金事業に関する決算報告書

I. 2024 年度収支実績

2025 年 3 月 31 日

1. 収支

(単位: 円)

収入内訳	2023 年度実績	2024 年度予算	2024 年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
寄付金	4,075,538	6,000,000	4,047,394	-1,952,606	
利息	92	100	5,139	5,039	紫友会寄付預り口座
収入計 (A)	4,075,630	6,000,100	4,052,533	-1,947,567	
前期繰越金 (B)	36,838,492	27,610,366	27,610,366	0	
収入総計 (A+B)=C	40,914,122	33,610,466	31,662,899	-1,947,567	

2. 支出

(単位: 円)

支出内訳	2023 年度実績	2024 年度予算	2024 年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
局運営費					
① 交流局	41,881	416,000	69,695	-346,305	紫友スタジオ消耗品、交通費等
② 教育支援局	0	15,000	9,875	-5,125	会議費、交通費、郵送料
③ 環境企画局	45,500	40,000	0	-40,000	小石川の杜資料作成、植樹祭反省会
④ 基金局	0	10,000	0	-10,000	会議費、交通費、郵送料
⑤ 伊藤長七研究 委員会	109,309	239,000	88,247	-150,753	講演茶水会、小講茶水会出張旅費
⑥ 105 周年事業	19,960	0	0	0	
小計	216,650	720,000	167,817	-552,183	
事業費					
① 交流局	4,049,284	3,022,000	2,056,243	-965,757	紫友スタジオ資料、電話代、備品等
② 教育支援局	3,530,490	5,400,000	2,891,563	-2,508,437	楽器購入・貸与 (償却) 他部活支援
③ 環境企画局	914,100	1,020,000	885,500	-134,500	小石川の杜 PJ
④ 基金局	105,770	1,300,000	132,360	-1,167,640	寄付返礼品代金
⑤ 伊藤長七研究 委員会	0	100,000	0	-100,000	
⑥ 105 周年事業	3,723,940	0	0	0	
小計	12,323,584	10,842,000	5,965,666	-4,876,334	
事務運営費					
1. 人件費	763,522	1,520,000	659,329	-860,671	事務局 1.5 人、交流室 (紫友スタジオ 管理) 1、アルバイト
2. OPP 封筒代	0	0	0	0	
3. 宛名古紙作成・ 印刷費	0	0	0	0	
4. 封入作業費	0	0	0	0	
5. 届出費用・ 郵送料	0	750,000	0	-750,000	DM 費用
6. その他経費	0	0	0	0	
小計	763,522	2,270,000	659,329	-1,610,671	
予備費	0	200,000	0	-200,000	
支出合計 (D)	13,303,756	14,032,000	6,792,812	-7,239,188	
次期繰越金 (C-D)=E	27,610,366	19,578,466	24,870,087	5,291,621	
再計 (D+E)	40,914,122	33,610,466	31,662,899	-1,947,567	
当年度収支 (A-D)	-9,228,126	-8,031,900	-2,740,279	5,291,621	

II. 2024 年度貸借対照表

(単位: 円)

科目	金額	備考	科目	金額	備考
資産の部			負債・正味資産の部		
流動資産	24,870,087		正味資産		
現金預金	9,421,354		普通預金: 寄付預り口座	27,610,366	
未収金	15,448,733		同意会預り分	-2,740,279	
			当期正味資産増減	24,870,087	
			当期正味資産	24,870,087	
資産の部計	24,870,087		負債・正味資産の部計	24,870,087	

当期正味資産 (次期繰越金) の内訳

(単位: 円)

内訳	金額
預金 みずほ銀行	9,421,354
内訳	
普通_1254954	9,421,354
(寄付預り口座)	
預貯金合計	9,421,354
その他資産	15,448,733
資産合計 (次期繰越金)	24,870,087

特別勘定 ロケットチーム世界大会支援

(単位: 円)

内訳	金額
預金 三菱 UFJ 銀行 (普通預金)	0
前期末残高	10,000
開設時入金	0
当期利息	10,000
当期末残高	10,000

2024 年度会計の原簿及び諸証拠書類を照合した結果、正確に処理されていることを認めます。

2025 年 4 月 29 日 監事 高橋 俊一 監事 伊藤 みどり
監事 月田 陽子

以上の通り報告いたします。

2025 年 4 月 29 日 会長 戸叶 司郎

IV. 3号議案 予算案の提案
2025年度同窓会運営に関する予算案
1. 収入

2025年5月24日

(単位：円)

収入内訳	2024年度 予算	2024年度 実績	2025年度 予算案	25予算- 24実績	25予算- 24予算	備考
年会費	6,000,000	5,928,000	6,000,000	72,000	0	2024年度納入会員2,964名 (対象者約18,000名)
入会金	840,000	828,000	840,000	12,000	0	2024年度卒業生入会138名 (@6千円)
利息	300	12,266	15,000	2,734	14,700	
寄付				0	0	寄付は基金会計に計上
広告料	360,000	270,000	340,000	70,000	-20,000	会報掲載広告料
当年度収入計(A)	7,200,300	7,038,266	7,195,000	156,734	-5,300	
前期繰越金(B)	27,231,133	27,231,133	27,990,026	758,893	758,893	
収入総計(A+B)=C	34,431,433	34,269,399	35,185,026	915,627	753,593	

2. 支出

(単位：円)

支出内訳	2024年度 予算	2024年度 実績	2025年度 予算案	25予算- 24実績	25予算- 24予算	備考
局運営費						
部活後援局	60,000	0	70,000	70,000	10,000	OB・OG会活動支援
広報局	43,000	43,793	56,000	12,207	13,000	会報取材費用等
資料局	10,000		10,000	10,000	0	資料室管理、デジタルアーカイブ維持管理
事務局	10,000	8,772	10,000	1,228	0	事務・会計・名簿管理・情報管理・総務庶務・法務対応・資料作成
小計	123,000	52,565	146,000	93,435	23,000	
事業費						
部活後援局	0	0	400,000	400,000	400,000	OB・OG会活動支援
広報局	1,940,000	1,870,000	1,950,000	80,000	10,000	会報制作費用
資料局	0	0	0	0	0	デジタルアーカイブ維持管理
	600,000	603,455	600,000	-3,455	0	名簿システム使用料
	150,000	150,380	150,000	-380	0	卒業記念品(校章ふくさ)
事務局	165,000	107,812	165,000	57,188	0	プロバイダー・サーバー利用料、IT環境整備等
	180,000	60,000	30,000	-30,000	-150,000	東洋文庫会費(現在工事中、26年再開予定)
小計	3,035,000	2,791,647	3,295,000	503,353	260,000	
事務運営費						
1.人件費	850,000	651,529	850,000	198,471	0	事務局員報酬(常勤3名)
2.消耗品備品費	890,000	787,598	890,000	102,402	0	会報宛名印字、封入セット、PC/WLAN/コピー機関連、プリンタ関連
3.光熱費	50,000	49,722	50,000	278	0	事務局電気料金
4.郵送料	1,564,000	1,305,318	1,594,000	288,682	30,000	会報発送・封入セット、委員 会案内状発送、切手他
5.電話代	70,000	53,719	70,000	16,281	0	事務局電話料金
6.振込手数料	600,000	508,366	600,000	91,634	0	郵便振替、銀行振込、自動引落手数料他(事務局)
7.会議費	65,000	75,884	65,000	-10,884	0	評議委員会懇親会費用補填、茶業等(事務局)
8.慶弔費	30,000	0	30,000	30,000	0	弔電、供花(事務局)
9.交通費	5,000	0	5,000	5,000	0	事務局員交通費
10.雑費	10,000	3,025	10,000	6,975	0	印紙代、合巻、カード年会費等(事務局)
小計	4,134,000	3,435,161	4,164,000	728,839	30,000	
予備費(基金除く)	50,000	0	50,000	50,000	0	
当年度支出合計(D)	7,342,000	6,279,373	7,655,000	1,375,627	313,000	
次期繰越金(C-D)=E	27,089,433	27,990,026	27,530,026	-460,000	440,593	
再計(D+E)	34,431,433	34,269,399	35,185,026	915,627	753,593	
当年度収支(A-D)	-141,700	758,893	-460,000	-1,218,893	-318,300	

IV. 3号議案 予算案の提案
2025年度基金事業に関する予算案
1. 収入

(単位：円)

収入内訳	2024年度 予算	2024年度 実績	2025年度 予算案	25予算- 24実績	25予算- 24予算	備考
寄付金	6,000,000	4,047,394	6,000,000	1,952,606	0	
利息	100	5,139	6,000	861	5,900	
当年度収入計	6,000,100	4,052,533	6,006,000	1,953,467	5,900	
前年度繰越金	27,610,366	27,610,366	24,870,087	-2,740,279	-2,740,279	
百周年基金残金(同窓会口座)	33,610,466	31,662,899	30,876,087	-786,812	-2,734,379	
百周年基金残金(紫友会口座)				0	0	
特別会計				0	0	
収入計(A)	6,000,100	4,052,533	6,006,000	1,953,467	5,900	
前年度繰越金(B)	27,610,366	27,610,366	24,870,087	-2,740,279	-2,740,279	
収入総計(A+B)=C	33,610,466	31,662,899	30,876,087	-786,812	-2,734,379	

2. 支出

(単位：円)

支出内訳	2024年度 予算	2024年度 実績	2025年度 予算案	25予算- 24実績	25予算- 24予算	備考
局運営費						
①交流局	416,000	69,695	356,000	286,305	-60,000	交流室事業
②教育支援局	15,000	9,875	15,000	5,125	0	教育支援局事業
③環境企画局	40,000		40,000	40,000	0	環境企画局事業(小石川の杜PJ)
④基金局	10,000		10,000	10,000	0	基金局事業(返礼品)
⑤伊藤長七研究委員会	239,000	88,247	139,000	50,753	-100,000	諏訪栗水会、小諸栗水会出張旅費、PTA研修旅行補助
⑥110周年事業	0	0	200,000	200,000	200,000	110周年事業 スタッフ交通費、会議費
小計	720,000	167,817	760,000	592,183	40,000	
事業費						
①交流局	3,022,000	2,056,243	4,021,600	1,965,357	999,600	交流室事業
②教育支援局	5,400,000	2,891,563	8,370,000	5,478,437	2,970,000	教育支援局事業
③環境企画局	1,020,000	885,500	1,020,000	134,500	0	環境企画局事業(小石川の杜PJ)
④基金局	1,300,000	132,360	1,300,000	1,167,640	0	基金局事業(パンフレット、返礼品)
⑤伊藤長七研究委員会	100,000	0	100,000	100,000	0	
⑥110周年事業	0	0	0	0	0	110周年事業
小計	10,842,000	5,965,666	14,811,600	8,845,934	3,969,600	
事務運営費						
1.人件費	1,520,000	659,329	1,160,000	500,671	-360,000	事務局員(常勤3名)、交流室(紫友スタッフ管理1名)
2.OPP封筒代	0	0	0	0	0	
3.宛名台紙作成・印刷費	0	0	0	0	0	
4.封入作業費	0	0	0	0	0	
5.局出し費用・郵送料	750,000	0	850,000	850,000	100,000	ダイレクトメール送料(基金局)
6.その他経費	0	0	0	0	0	
小計	2,270,000	659,329	2,010,000	1,350,671	-260,000	
予備費	200,000	0	200,000	200,000	0	
当年度支出合計(D)	14,032,000	6,792,812	17,781,600	10,988,788	3,749,600	
次期繰越金(C-D)=E	19,578,466	24,870,087	13,094,487	-11,775,600	-6,483,979	
再計(D+E)	33,610,466	31,662,899	30,876,087	-786,812	-2,734,379	
当年度収支(A-D)	-8,031,900	-2,740,279	-11,775,600	-9,035,321	-3,743,700	

税理士法人タックスソリューション

税理士 倉林俊男 015F

税金のこと
お気軽に
ご相談
ください。

〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西 2-3-11-506

TEL 03-6433-7503 FAX 03-3780-0933

紫友同窓会 役員名簿 (2025 年度)

	卒年・組	氏名	留任・再任・新任	分掌事項、備考
会長	029 C	鈴木 善博	新任	交流局担当 (暫定)
副会長	039 J	久光 一誠	再任 (2期1年目)	資料局・基金局担当、基金の再構築
副会長	032 I	富田 晴彦	新任	教育支援局・部活後援局担当、110周年行事
副会長	064 B	渡邊 和真	新任	広報局・事務局担当、オンライン・セミナー、紫友スタジオ、運営全般
	中等1期			
理事	023 C	古山 光久	再任 (3期1年目)	伊藤長七研究委員会 委員長
理事	027 C	木村 薫	再任 (2期1年目)	教育支援局 局長
理事	029 B	月田 陽子	新任	事務局 局長、ニュースレター主管
理事	030 H	笠原 盛泰	再任 (3期1年目)	交流局 紫友経済人交流会
理事	033 B	今村 郁男	再任 (2期1年目)	部活後援局
理事	036 D	松田 圭子	留任 (1期2年目)	広報局 局長、IT構築・会報・オンライン・セミナー
理事	049 A	山川神太浪	留任 (1期2年目)	交流局、オンライン・セミナー・グローバル懇談会 リーダー
理事	077 C	長谷川真緒	新任	教育支援局、オンライン・セミナー
	中等14期			
副理事	018 I	河井 興正	新任	相談役
副理事	019 E	伊藤 正俊	新任	相談役
副理事	021 A	岡村 幸二	新任	環境企画局
副理事	022 D	杉渕 武	新任	基金局
副理事	022 E	並木 隆	新任	広報局
副理事	028 C	小堤 康史	新任	(一般財団法人) 紫友会 理事長
副理事	035 C	虫明智恵子	新任	広報局
監事	019 E	高橋 俊一	再任 (3期1年目)	理事の活動および会計監査、 環境企画局、ホームページ
監事	021 G	鈴木由美子	新任	理事の活動および会計監査

紫友同窓会からのお知らせ

「紫友ニュースレター」をご存知ですか？

同窓会では、同窓生・同窓会・学校に関するニュース、セミナーをはじめとするイベント、出来事など様々な話題を皆様いち早くお伝えするため、メールマガジン「紫友ニュースレター」を月に1回程度発信しています。

同窓会へメールアドレスをご登録されている方（公開・非公開を問いません）に無料配信していますので、小石川のホットな話題を知るために、貴方もぜひメールアドレスをご登録ください。

【登録方法】(どちらでも登録可能です)

- ・ Web 名簿管理システムのマイプロフィールにメールアドレスを登録(非公開指定可)
- ・ 同窓会事務局 (下記メールアドレス) へご連絡 (jimu-kyoku@shiyu-dousoukai.jp)



特集

五中・小石川と戦争

はじめに 一冊のクラス文集から

2025年（令和7年）の夏、我が国で310万人以上という歴大な犠牲を払った第2次世界大戦（アジア太平洋戦争）の終結（敗戦）から80年の節目を迎えました。その戦争の末期、母校小石川の前身、東京府立第五中学校は、東京北西部を襲った山の手空襲によって校舎と講堂など全ての施設と創立以来の記録・資料は灰燼に帰しました。

戦後、新制小石川高校として再出発した母校がああ戦争とどう向き合い、被害の実態はどうだったのか、戦後の混乱期にその検証が後回しとなったのもやむを得ないことでした。

現在、同窓会事務局と学校の資料室には、旧制府立五中から新制都立小石川高校、小石川中等教育学校へと続く母校の歴史を伝える多くの資料や書籍が保管されています。それらは戦後の落ち着きとともに旧制五中卒業生と関係者によって寄贈などで収集されたものであり、失われた学校資料を補ううえで大変貴重なものです。

今回の特集では、戦争を経験した世代でも卒業年の異なる二つのクラス文集を紹介します。戦争が終結した昭和20年（1945）の4月13日と8月15日の記憶。それぞれが忘れることができない長い一日を回顧した

ものです。

そのうち一冊は、昭和5、6年生まれ（旧制26回生E組）が母校創立七十周年史編纂（1988年）に呼応し、43年の年月を経て回想した手記と資料の記録で、2003年に刊行されました。母校が焼失した夜、学校に当直した少年たちが生き延びた経緯や勤労働員のことなどが綴られています。

もう一冊は、大正9年（1920年）4月～翌年3月生まれ（旧制15回生E組紫園会）のクラス文集です。「ますらを」と名付けて数冊が発行され、資料室の書棚ケースの中に昭和59年発行の特集号が保管されています。ワープロ印字、簡易製本のこの冊子には、青春を戦争とともに生きざるを得なかった世代の20年8月15日を定点とする壮絶で生々しい体験が次々と語られています。

この二つのクラス文集は、80年前の戦争を体験した少年と青年たちが鮮明に留める集団的記憶そのものです。すでに同窓会が過去に発行した学校史の中にも取り上げられていますが、歴史の中で忘れてはならない時代について母校と同窓会に残された数少ない記録です。特別な夏に、“戦争を知らない”後輩同窓生に向けた先輩諸氏からのメッセージとしてお伝えしようと思います。



旧制五中 焼失した駕籠町校舎と外壁・鉄骨が残った旧講堂（昭和22年以降に理研屋上から撮影）

少年たちの4月13日

－『校舎焼失 空襲下当直中学生らの手記とそれに連なる回想』 石上会編（2003）を読む－

・その夜に

昭和20年4月13日午後11時、東京上空に襲来したB29、その数170機は大量の焼夷弾を投下して、豊島、小石川、淀橋、四谷など都心北西部の過半が焼失した。当初の軍事施設と工場から人家密集地へと目標をかえて下町一帯を焼き払い10万人が犠牲となった一月前の3月10日以来2度目の大空襲だった。

死者2,500人と記録されるこの夜に、母校校舎を守ろうと意気に燃え宿直していた3年生(当時14,15歳)生徒20数名がいた。本書は、その夜校内に宿直したG26回E組の級友たちが戦後に長い時間を経て、戦時の体験を回想した手記と資料からなり、戦時下の少年の心情や当夜の混乱等が冷静な筆致で記されている。

・旧制五中26回生E組の軌跡

昭和18年入学の旧制五中26回生は、戦争をまたいで昭和22年卒業の新制01期生でもある。学年は1クラス50名で5クラス250名だったが、東京に戦禍が及ぶと徐々に疎開などで地方に転校する級友が増えて、クラスの人員は2/3ぐらいに減っていった。



昭和19年8月「学徒勤労令」が発令され、2年の秋から1年生を除いて校舎内での授業は中止となった。「学徒勤労員」が始まると上級生は軍需工場へ、2年4クラスは大蔵省印刷局滝野川工場へ、残るE組は小石川区久堅町の日本書籍に配属された。

担任は戦後も長く教壇に立たれたマンモスという綽名の上野禮一郎先生(数学・1942～77年在職)。

・勤労動員先で

昭和19年12月、久堅町(現在は文京区小石川5丁目)の日本書籍で国定教科書の製本と発送に従事した。職場の工員さん達が兵役召集されて抜けた代用だった。

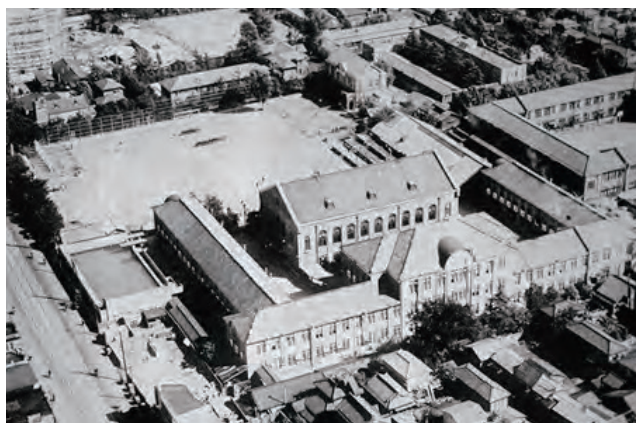
担任の上野先生が名簿から印刷、製本、発送の3つの係に割り当て、発送係はおおむね体が大きく力仕事

に向いていた。仕事は地下の倉庫で教科書を束ね箱に入れて発送する作業だった。工場には女子学生もいたが遠くから眺めていただけ、声も掛けられなかった。

学生は学業が本分と学校か先生どちらかが交渉して昼休みの授業が始まった。弁当を手早くすませて、残り時間一杯、上野先生が数学の授業をした。熱心な少年たちの姿に工場長は時間延長を認め、やがて2科目となった。忙しかったが充実感があつた。

・学校での「防衛宿直」

昭和20年1月、東京都は「学校防空指導要領」を各学校に通達した。これは空襲に備えて教職員と生徒が輪番で宿直し学校防空にあたらせるもので、五中でも2年の最終学期から学校まで徒歩30分で来られる者約10名が各組単位として交替で宿直することになった。3月からは講堂階下の教室に柔道場の畳を敷いた宿直所に、校舎防衛に燃える少年たちの意識の高揚もあって毎夜多数の生徒が駆けつけた。



校舎全景(昭和7年) 校地西側にE字形の木造2階(一部3階)の校舎と講堂を配置。校門(正門)は白山通り側。南側の屋内運動場(剣道場)と並ぶ東南角に「開拓館」がある。

・昭和20年4月13日の夜

その夜はE組20名とA組1名(故粕谷一希氏・元『中央公論』編集長、紫友同窓会長)が当直当番で、教職員は布施久通(生物)、森一郎(英語)、旭了雄(数学)の3名が宿直した。すでに空襲は毎夜のことであり、生徒たちは行動階に畳を持ち込み、空襲警報を知らせるサイレンにも慣れて着衣のまま横になっていた。

警報が鳴った夜11時ごろ、校庭に出ると南から飛来したB29が、数条のサーチライトに追われ対空砲火を浴びながら悠々と去っていく。校庭に造った防空壕に全員が集まり様子をみていると、隣の理化学研究所に先ず火の手が上がり、周囲や校舎に次々と火災が発生した。「ゴウゴウと機関車が迫る様な焼夷弾の落下音は、至近距離ではヒュッという金属音に変わる」

壕の目の前に落下音とともに爆弾が落ち、近くに立っていた級友のN君が体ごと飛ばされた。すぐ起き上がって、かすり傷もなかったのは奇跡的な幸運だった。「それは幸い不発弾だったが、小山の如く土砂を盛り上げ突き刺さった」

本館の職員室あたりに一つ二つ落ち、続いて剣道場(武道館)を焼夷弾が直撃し柔道場と図書館(*開拓館)に燃え広がった。当直先生の指揮の下、2台の手押しポンプを運び出して消火を試みるも、何かの不具合で筒先から水が出ず使い物にならない。

(*運動場東南角の「開拓館」は、母校創立からまもない大正11年(1922)に「財団法人紫友会」が建設寄贈した2階建洋風建築で、1階には修養道場(当時柔道場)2階は多くの蔵書があった図書館だった。



開拓館

・火の海の中の逃避行

消火を諦めた少年たちが先生の指揮で避難しようとしたとき、正門の至近に焼夷弾(爆弾?)が落下し、電車通りの反対側の洋服店が跡形もなく吹っ飛んだ。防火用水に衣服と頭巾を濡らし、先生を先頭に一団となって裏門(現在の正門の位置)から脱出する。

「駕籠町交差点は四辻全方向とも火の海」で熱風と火の粉が吹き荒れている。煙が地面をはって押し寄せる。強制疎開で広くなった都電通りの真ん中を火煙に包まれながら、無我夢中で巢鴨駅方面に逃げる。

目指したのは、当時学校農場があった荒川河川敷の土手だった。巢鴨駅から線路沿いに駒込駅で一息入れた。ここで荒川土手を目指す18名と上野の山へ向かう3名に分かれる。爆撃は繰り返され、通って来た駒込駅の駅舎も「花火のように輝いた」。

(荒川土手を目指した18名)

田端駅手前の崖をはい上がり王子方面に向かったが、都電通りは火勢強く飛鳥山には行けず、途中、滝野川から崖線上にある上中里駅に着き、一部は近くの平塚神社境内に逃げ込んだ。駅下の尾久操車場一帯は

一面の火の海だった。皆が疲れ果ててうずくまり、駅舎か境内の林で夜を明かした。

(上野に向かった3名)

田端方面から南へ向かうと道路は避難する人波で一杯になっていた。無意識のうちに谷中墓地の方向に歩くと、いつの間にか仲間は3人だけになっている。そのまま上野公園に向かい、行き着いた所は東京美術学校の守衛所だった。「ここで朝まで休んでいきなさい」と迎えてくれた部屋は暖かく、深い眠りに落ちていった。翌朝、背負い袋にあった弁当を3人で分けて食べ、焼け跡となっていた学校に帰った。学校で「君たちは死んだのかと思った」と誰かに言われた。

・一夜が明けて

「一面の焼け野原の中を、人々が思い思いの方角に歩いて行く。無表情のまま、力なく」。夜が明け少年たちは学校に戻った。木造校舎は完全に焼け落ち、講堂は周りの壁と鉄骨の屋根だけが残っていた。プール脇におられた成田喜英先生から『みんな無事だったか、よかったよかった。早く家に帰って休みなさい』と慰められ、挙手の礼をしたまま、涙にくれた。

・おわりに

手記の中からお一人の感想を引きます。

「戦争の最中であって我々は個々の中学生ではなく一群の集団として共同体(国家)の中に位置づけられていた。折から『防衛宿直』にあっていた20名の少年達は確率的には爆弾と猛火によってその時殆んど死んでいた。ただ僥倖だけがそれを救ってくれた」。

また、編者の村野氏は、文集がなかなか形にならなかった理由について、「体験自体、少年達には過酷な仕打ちであり、忌まわしい思い出」「無力にも校舎を守ることができなかった悔恨と自責の念」と記し、一方で、「この忘れ得ない自責の念は、学校への愛着のみでは解き明かせず、当時の我々が生まれながらに刷り込まれて来た、社会と公共に対する帰属感と責任感に発していることは間違いない」と述べておられます。

最後に、本書に貴重な記録を残された先輩諸氏のご芳名を列記します。感謝とともに関係の皆様には無断での引用となりましたことお詫びいたします。

原田稔、伊賀清治、川田勝巳、野澤健治、清水正嗣、斎藤雅之、藤田穰治、岩淵元、當山輝夫、村山進、護守久和、杉山庸夫、南澤正見、廣田榮治、濱中勇藏、川勝岳夫、杉田信太郎、坂本卓二、村野啓一郎、安中和彦、小沼敏、中村晃、布施正明、河村達雄

青年たちの8月15日

－昭和13年卒業15回E組クラス文集『ますらを』特集号「8月15日、その時私は」－から

・旧制五中15回E組生の軌跡

五中創立の2年後、大正9年(1920)4月～翌年3月生まれの旧制五中15回生は、昭和8年(1933)入学、学年は5組250名である。E組は4名が四年修了で上級校へ進学、昭和13年に42名が卒業し各々、旧制高校への進学又は浪人(補習科)の道歩んだ。

担任は佐藤輝実先生(数学)

戦争が徐々に忍び寄る頃、五中E組では勉学の傍ら、校技のサッカーに親しみ、校内剣道大会で優勝し、クラス文集「ますらを」を発行した。各自が「男らしく無邪気に品をよく」優秀な少年らしい未来を描いていた。しかし、上級校へ進学するにしたがって、否応なしに戦争へと突き進む国家体制に組み込まれていく。

戦後、時を経て刊行された3冊の「ますらを」は時代に翻弄され、生還した青年たちの体験記録である。

・「我々の小史」から

○昭和8年入学。五中は府内の普通小学校の席次が1、2番でないとい入れないといわれた。他の府立中学と違い、10歳代の少年を紳士扱いにする開校以来の伝統があり、二代落合寅平校長も踏襲していた。

○昭和10年、三年生に進級、教室は2階になった。S君が東京陸軍幼年学校に入学しクラスを離れた。

○昭和11年2月26日の大事件と翌々日の雪合戦は忘れられない。四年生に進級し、受験勉強に熱が入る。

○昭和12年3月、四修で4名が合格。(陸軍士官学校2、東京商大予科、慶応予医)4月五年生に進級、教室は3階西南側で眺望良し。修学旅行は関西一円を廻る。

○昭和13年3月、42名が卒業。少なくとも17名が受験浪人となり補習科に編入される。

○昭和16年、このころから兵役に服するものがでる。この年は3名が入営。12月8日、大東亜戦争始まる。

○昭和18年秋、戦前最後のクラス会。12月文科系学生が「学徒出陣」で陸軍入営、海軍入団。



・昭和18年10月21日「出陣学徒壮行会」で(参加したK氏の記録)

「朝から小雨のこの日、明治神宮外苑競技場での壮行会に慶大経済学部三年の私は出陣側で参加した。Y君とN君がスタンド側にいたはずである。足元は泥濘と水溜まり。その中で飛沫を上げながら東大(この中にI君がいた?)を先頭の第一陣、慶応を先頭の第二陣が校旗を掲げながら各校毎に分列行進し、……」

当時の新聞報道では出陣学徒77校〇〇名(実数は伏せ字)を107校6万5千名が見送ったとある。



・8月15日、その時私は

その日、当時24.5歳であった青年たちは病氣療養中の者を除けば、全員が軍務兵役に就くか何らかの形で軍事産業、軍事研究に従事していた。ある者は北方あるいは南洋の前線で、ある者は本土決戦を叫ぶ軍の中核や国内各地の基地で、そして物資乏しい病院や研究施設で。各々が与えられた位置で誠実に任務を果たしながら、理性ある青年たちは「敗戦」の現実を、周囲の混乱から一步引いて冷静沈着に受けとめた。

以下、帝国日本が戦線を止めどなく拵げ、遂に破滅に至ったその日、青年たちは一人一人がどこに居て、何をしていたのか、箇条書きで略歴を記す。

◎戦地で

- ・北支那方面軍司令部法務部(在北京)
- ・インド洋ペナン島基地で英軍上陸に備え陣地構築
- ・ジャワ島守備→独立運動の群集により武装解除
- ・海軍経理部工務課→朝鮮ソウル郊外の飛行場工事
- ・陸軍見習士官、ソウル南郊竜山の将校集会所
- ・近衛師団通信隊、九段の地下壕で通信傍受
- ・台湾守備部隊、マラリアに罹患し野戦病院に入院
- ・ビルマ戦線で負傷、タイ→ベトナムへ後送中
- ・蘭領インドネシア、スンバウ島で補給中継任務
- ・北千島列島占守島の柏原地区高射砲中隊
- ・中支派遣軍経理部教育隊兵長→中国漢口の兵舎

◎内地で

- ・近衛輜重聯隊→西へ移動し伯耆大山で沿岸警備
- ・岡山県津山市郊外駐屯地の中隊長
- ・海軍軍司令部(日吉)で米空軍の情報収集
- ・陸軍第一総軍司令部(市ヶ谷)兵器部軍曹
- ・海軍軍需工場監督→軍需監理部(東京)
- ・満州から本土に転属→九州→立川航空廠
- ・駆潜艇乗務7月沈没負傷→小樽海軍病院入院

- ・海軍技術中尉→高知県で療養中
- ・阪大工学部大学院生→関西学院大で教授の代講
- ・立川航空第2研究所で研究実験に没頭
- ・山口県防府通信学校教官→赤痢で海軍病院へ入院
- ・浜田聯隊入隊→鹿児島県川内市で陣地構築
- ・仙台の某研究所で軍事研究に従事
- ・陸軍、浜名湖館山寺で新兵器の開発研究
- ・川越陸軍病院に肺浸潤の疑いで入院、翌日は荒廃
- ・岐阜県各務原航空隊教育隊で少年飛行兵の教育
- ・海軍主計少尉、栃木県今市で地下工場・倉庫建設
- ・6月、中国から本土に転属→入間川基地
- ・陸軍水戸聯隊区司令部見習士官
- ・陸軍軍医見習士官

以上の略歴の背後には、その人しか語ることができない壮絶、苛烈な「個人史」があり、その記憶は終戦から40年を経ても思い起こすことはつらく、決して文字にしたいと記す方も多し。そんな級友たちに声を掛け、記憶を記録にした文集「ますらを」の中から戦場での回想の一部を紹介したい。関心をお持ちの方は、是非、原資料に当たられることをお勧めします。

(以下、年のみ記述し元号を省略)

(O氏) 18年秋、大学を卒業し海軍予備学生、翌年少尉任官、青森での海防艦乗務を経て千島列島最北端の占守島司令部に着任した。乗員70名の駆潜艇に乗務しアメリカの潜水艦と対峙する日々。20年7月、小樽沖合に浮上した潜水艦と上空に飛来した戦闘機に迎撃、乗員70名中67名が戦死した。脱出後の海中でフカに喰われて沈む者を見る。

(N氏) 19年秋、叩き上げで陸軍伍長に進級、占守島の港湾にある高射砲部隊で防空の任にあたった。この間、米軍爆撃に対する戦闘38回を数えたが、20年4月以降は攻撃も無く、降伏勧告チラシが撒かれる。

8月15日、玉音放送の詔勅が中隊長より伝達があり、酒や甘味品の配給があつて故郷を思い眠りに就く。翌16日ソ連軍が島に上陸、歩兵大隊との戦闘で両軍とも300余名が戦死した。17日停戦協定が成立、武器を引き渡して砂浜での幕舎生活を一カ月送る。9月19日、「日本本土へ帰す」との言葉を信じソ連の石炭船に乗船しシベリア某港に到着、抑留生活に入る。「小生の日本ダモイ(帰国)は、昭和23年8月10日であった」。

(T氏) 16年陸軍某聯隊入営。「地獄とはこのようなものかと思われる戦場から生きて還りました」。比島、中支、佛印、タイ、ビルマと引き回されて、戦争の馬鹿々々しさ、人間のみにくさ、日本軍、日本兵のやり

方に呆れ愛想が尽き、もうこんな戦争はやっておられるかという気持ちだった。インパール作戦中、ビルマ国境附近において右肩を負傷。雨と泥の中、飢餓状態で死屍累々白骨街道を通り抜け、サイゴンに後送途中、終戦を告げられた。「ああ俺は生きた」。

・戦死・戦病死された4名の学友

出征された級友のうち、戦死戦病死された方が4名おられます。「ますらを」には、その方々の経歴と詳細な状況が記述され、繰り返し追悼されています。戦後80年を経過した現在、あらためて先輩方4名の「戦場での死」とその意味に思いを致します。

○故松川安明氏 昭和18年9月東京商科大(現一橋大学)を繰上卒業、昭和19年3月海軍経理学校卒業、海軍主計中尉。19年8月25日グアム島=大宮島(日本占領時の名称)で戦死。

○故福田譲氏 昭和15年3月豊島師範二部卒業 陸軍大尉 歩兵第213聯隊の所属しビルマ戦線チンドウイン県モークで19年11月3日戦死。

○故出哲史氏 昭和18年11月東大文学部仮卒業 同年12月陸軍入営(学徒出陣)昭和19年9月東大繰上卒業 陸軍中尉 21年3月3日満州延吉で戦病死。

○故住田景保氏 昭和15年2月陸軍士官学校卒業第53期 陸軍中佐 関東軍情報部牡丹江支部所属。武装解除後、昭和22年4月8日シベリア、ハバロフスク州で戦病死。(栄養失調及び肺結核)

・おわりに

編集に携わった片山氏、亀田氏、野町氏がそれぞれに思いを寄せた編集後記の一文を引用する。

「この冊子を発行する意義について三人で話し合ったことがあります。小生としてはこの冊子が戦争を知らない世代の人達の一人でも多く目に触れることをひたすら願うのみです」。

登場した我々の大先輩にあたる青年達は、ご存命であれば105歳を超える御年である。戦死された4名の方の記述以外に、執筆された皆様の御消息を知るすべもありません。ここにご芳名を列記して貴重な記録を残されたことに深く感謝申し上げます。

下田与四雄、天野保雄、島谷敬一、田中力也、御巫(みかなぎ)清尚、亀田廣、青鹿明司、井関秀雄、川合竹次郎、中津宗明、大畑達郎、片山鐵中、赤城淳、川崎勝美、桑山則男、佐藤四郎、塚本泰造、永井隆、渋谷貞吉、野町右京、加藤健、榊原文三、伊藤清一、竹山幹夫、居初(いそめ)良雄、高倉真一、宮川精一、勝村肇、山崎和雄、中村育民、玉川一彦(順不同)

同窓生訪問

戦時下の「開拓」発行 と五中の青春

2025年4月8日 中村 稔さん (G21D)

母校の前身、旧制東京府立第五中学校（以下、五中と表記）の卒業生で、まもなく白寿を迎えられる中村稔さん（旧制 G21 期 D 組・昭和 14 年入学－昭和 19 年卒業）をさいたま市大宮公園近くのご自宅に訪問し、戦時下の五中生を中心にお話を伺いました。

中村さんは五中、旧制第一高等学校（以下、一高と表記）から東京大学法学部卒業、弁護士及び弁理士として、戦後の知的財産保護に関しての問題や法律整備に長く活躍されています。一方で、1950 年に第 1 詩集「無言歌」を発表して以来、詩作と文芸評論において膨大な足跡を残し、現代詩壇を代表する詩人のお一人として読売文学賞、朝日賞をはじめ多くの賞を受賞されています。（2010 文化功労者）

そして、ご自身の追想録「私の昭和史」全 5 巻（2004～2012 年）の刊行に続いて、昨年は続編にあたる「私の平成史」を出版され、現在は雑誌「ユリイカ」に「忘れられぬ人々」を連載され、本年発行の 3 月号、4 月号では五中在籍当時の同級生 40 数名お一人お一人を回想されています。

まさに豊饒という言葉そのままに今も旺盛な執筆と発信を続けられる中村さんに、子や孫の世代である後輩同窓生がお尋ねしたのは 80 年前の日本と母校の姿です。なお、今回は、岡田謙司さん（元埼玉県職員・020D）と福留真紀さん（日本近世史、清泉女子大教授・044C）が同行しました。並木隆（022E）



私の昭和史



中村稔さん 近影

◎中村さんは埼玉県大宮市(現さいたま市)のご出身で、昭和 14 年、地元の大宮北尋常小学校から府立五中に進学されました。

——僕が五中に入った頃には埼玉県から通っていた生徒は学年で 2 人でした。一人が私で、もう一人が北浦和の人です。生徒のほとんどが本郷、小石川の人たちで、埼玉の田舎から来る生徒なんてほとんどいなかったんです。今でこそ浦和、大宮や大宮よりもっと先の住居から東京への通勤、通学は当たり前ですけども、私の五中時代、大宮、浦和は東京から遠く離れた田舎の町でしたから、東京に通勤、通学する人はかなり稀だったんです。

◎かなりの遠距離通学になりますが、経路と時間はどのような感じでしたか？

——京浜東北線で通いました。今より駅の数は少なく北浦和はできたばかり、南浦和も西川口もありません。学校は 8 時に始まったから家をずいぶん早く 6 時半に出ましたが、今のような人混みじゃないから、行きも帰りも楽に腰掛けられました。駕籠町（現千石 1 丁目）に通うのはそんなにつらいことではなかったですね。学校帰りはぶらぶらと遊びながら、駕籠町から駒込へ出て、駒込から王子へ、王子から赤羽まで友達と歩いたことも何回かありました。つまり、まだ東京は混雑してなかったし、平和な時代でした。

同級生でも本郷、小石川に育った子どもたちにとっては、市電のあるところが東京で、市電の通っていないところは東京じゃないという感覚だったんです。駕籠町から市電に乗るとまっすぐ日比谷まで行くことができたし、終点には日比谷映画劇場という東宝の映画館がありましたね。遊びたいと思えば、後樂園でも上野でも池袋でもどこでも市電 7 銭で気軽に遊び歩いていくことができる時代だったんですね。それから入学した頃には、まだ購買部でいろんなものが買えたんです。あのチョココロネと似たようなものも売ってたし。

それを遊びで投げ合ってチョコレートがその辺の壁にくっついたりね。そんなことはよくありました。

◎ご著書では入学して間もない頃は埼玉弁をからかわれたそうですが、徐々に同級生の中に溶け込んで生涯の友となる級友たちとの交遊が描かれています。

——僕は五中D組がすごく好きなんです。今度の「ユリイカ」でも一年から五年まで全然変わらない級友50人の群像を書きたいと思って、40人ほどの思い出を書いたんですけど、ずいぶん詳しいでしょう。僕はクラス会の世話をしましたから、級友をかなりよく知っていますが、その分、他のクラスがどういう風潮であったかはほとんど知らないんです。D組の級長は、人柄がみんなから尊敬され、しかも、いつも成績が群を抜いていた中川一朗が務めていました。中川はとっても立派な人でしたね。

◎昭和15年、二年生に進級しこの年の「開拓」31号に詩「たそがれ」を、三年に進級されてからも「開拓」32号に詩「夕の曲」を投稿します。いつ頃から詩作を始められたのですか。

——最初は二年生の時に（開拓原稿募集の）張り紙を見て投稿しました。その時まで詩を書いたことなんかなかったのですよ。書いて投稿したら載っちゃったのです。三年生になったらまた張り紙を見てまた書いたら載っちゃったのです。



開拓32号（昭和16年12月発行）

◎昭和16年、三年生の時にご著書や同窓会がまとめた学校史にも出る「梅月事件」が起こります。上級の四年生による級友への集団制裁です。

——これも色々な機会に書きましたが、「梅月事件」というのは級友の高原紀一と小林実らが昼休みに学校横のあんみつ屋「梅月」であんみつを食べて学校に戻ろうとしたとき、通用口で待ち構えていた一年上のクラスの人たちに捕まって集団暴行を受けたのです。その頃は生徒だけであんみつ屋へ行くと補導協会に注意される時代だったわけですから、暴行した方に見れば正義感にかられてのことでした。ところが、五中の先生方は、あんみつ屋に行ったことを咎めるよりも、集団暴行それ自体に嫌悪感を覚えた方が多かったらしく、どうも処罰するのは具合が悪いとお考えに

なったのか。結局両方とも全くお咎めなし。校長先生が、こういう不祥事は二度とあってはいけません、という訓示だけで終わったのですが、それが五中の校風だったんだと思いますね。

◎日中戦争は泥沼化して膠着状態となり、世の中が軍国主義へと傾斜する中で、学内では授業の一環として配属将校が指導する教練や、富士の裾野での野営などが授業の一環として組み込まれていきます。軍事教練は厳しかったのでしょうか。

——三年、四年生くらいの時に富士の裾野に陸軍の演習場があって、そこに一晩泊まりで行きましてね、演習はもう適当にサボっていたんですけども、夜になると宿舍の売店で買物して、とっても歌の上手な高野隆という友達が出て、皆で楽しく合唱しましてね。僕は合唱には入らずに聞いていた方ですけども、あんな風に歌えるといいなと思っていました。だから富士の教練なんて中身は遊んでいたような気分がつよくて、厳しくしごかれたというような感じはなかったんですよ。多分それはね、配属将校も五中の校風に染まっちゃって、わりと自由を許す感じだったのかもしれない。僕は常に教練六点、体操六点で、成績が一番だった人とは程遠かったんですけど。でも売店で何を買ったんだろうね。あんパンとかさ、サイダーとか、かしら。

◎在学中の「開拓」(32・33・34号)をお持ちしました。これを拝見すると、四年生の時の33号に編集員としてお名前がでてきますが、「開拓」に関わる切っ掛けはどのようなことからですか。

——それも本当に誇るべき五中の伝統で、要するに前年の編集員からの申し送りみたいですね。四年生で編集に加わった人が五年の時には編集長になって、各組からだいたい仲間やなんかから編集員を適当に選んで編集したのですが、私が強調したいのは、この編集から発行に至るまで、学校側から一言も注文はなかったということなんです。全く生徒が自由に勝手にやって、学校は書いたものに検閲も何もなかったのですよ。そんな事ってちょっと今の学校でもないでしょう。当時の五中はそういう学校だったんですよ。

◎33号は昭和17年11月発行ですが、ページ数が200ページを超えるぐらいの内容があって、その内容も自由主義の考察あり、映画評論あり、本当に多岐にわたります。中村さんは研究「語感と詩の鑑賞」、詩「水鳥」、創作「草の炎」の3篇を寄稿されています。

——先ほど言ったように「開拓」はみんな生徒がやっていますが、頼んだのは井上校長先生の文章だけで、先生の寄稿が3篇あって、その一つに眞田幸男先生の文章があるでしょう。「膝栗毛小論」ね。眞田先生はこの文章の最後に、なぜ膝栗毛を書くか、今の時世に膝栗毛を書くのはいいことなのか、こういう戦時であつても読む価値があるんだと正面切ってわざわざ断ってるんですね。それがやっぱり五中の校風だったんだっていう気がしますね。眞田先生は戦後（1964年）校長に就任なさりますが、粕谷一希（五中26期A組、戦後「中央公論」編集長・評論家）はとっても先生が好きだったですね。



眞田幸男先生（後列左） 府立五中第20期卒業記念写真帳（1943年）より

◎この33号に「語感と詩の鑑賞」という評論をお書きになっています。少し引用しますと、「僕は現代の詩、殊に戦争の詩は苦手だ、まるっきり分からない。字づらもない。音楽もない。ただその中に息吹く逞しい男の精神ばかりが詩のようだ。…」とあります。当時の軍国主義の風潮の中で、隠すことなく率直に考えを述べています。

——同じ号に「草の炎」という小説を書いています。これは亡くなった高橋英夫さん（五中26期、ドイツ文学者）が入学後に読んで強く惹かれたと褒めてくださって、大変恥ずかしい思いがしました。今言われたそっちの方、「語感と詩の鑑賞」って、バカなことを書いたなっていう記憶しかないんです。



開拓33号（昭和17年11月発行）

◎少し話は逸れますが当時の歴史教育についてお聞きします。ご著書の中で歴史の成田喜英先生（1929～52年在任）の授業は情熱的で忘れ難い恩師、内容も「皇国史観」とはほとんど関係が無かったと書かれています。具体的にはどんな歴史の授業をされていたのでしょうか。

——僕は成田先生をととても尊敬しているんです。歴史の要点をプリントにさせていただいたことをよく憶えています。「皇国史観」によると歴史をどのように教えるか知りませんが、先生の授業が、客観的な事実に基づく授業であり、要するに主観が入るような教育じゃなくて、そのプリントは僕の歴史認識に大いに役立ちました。成田先生は戦後に東京の教員組合の副委員長をなさったと聞いたように思いますが。

◎そういう教育が当時できたことは、ある意味特別なことでしょうか。軍部が台頭してからは子どもたちを戦争に駆り立てるような教育が行われていたというイメージもあるのですが。

——そういうことはなかったと思いますね、五中では。例えば英語の教育ですと先生が担任の先生以外にもう一人おいでになったんです。だから終始2人の先生に教えていただいた。一人は担任の関口孝三先生（1924～49年在任）、もう一人は二年、三年の時が窪田鎮夫先生、四年、五年の時には高野仁太郎先生で、窪田先生は五中から旧制松山高校の教授になり、高野先生は五中から旧制水戸高校の教授におなりになりました。だから英語の授業を十分に受けていたのですが、なぜ戦争中に五中では英語教育に熱心だったのかその理由は僕にはわかりませんけど。

◎戦前の学制は、四年修了、五年卒業でしたが、四修で上級学校に進学する方もいるわけですね。学校では皆さん四年次に（旧制）高校を受験されるのですか。

——全員ではないと思います。模擬試験があってその結果から見込みのある少数の生徒が受験しました。だいたい誰がどこを受けるかという雰囲気があって、模擬試験の成績が最も上の方の生徒が旧制一高を目指すことになっていました。私のクラスは一高に受かった人が非常に多いんです。模擬試験では四年生、五年生、補習科（高校受験浪人対象）の全体で3学年まとめて、理科志望と文科志望に分れて、同じ問題をやります。中川も僕もだいたいいつも2、3番だったのです。中川は理科志望、僕は文科志望でしたが。だから中川も僕も四年で一高の合格は決まっていたと思われるんですが、二人ともこの時は試験に失敗して不合格でした。

これが「開拓」編集で一学年下になると、矢代静一（後に劇作家）や相沢諒（詩人・結核により自死）は私学へ四修で進学しています。彼らにしてみれば戦況が深刻になって早く大人の仲間入りをしたかったのではないかと思います。

◎翌年の34号（昭和18年10月発行）では、井上校長の巻頭言は悲壮感に満ちていますし、物資に乏しくなった影響でしょうかページ数も減っています。ミッドウェー海戦の敗北やガダルカナル島の撤退は国民に隠されますが、戦況は苦しいようだといざと伝わってきます。一方で、中学五年生として進路の選択と受験が控えていました。

——戦況について一部の人はこっそり情報を手に入れて話し合っていたということはあるらしいけど、一般的にはそういう話はあんまり出ませんでした。むしろ文科学生の徴兵猶予がなくなったことがもう大打撃だったですね。本当にみんなこぞって理科を受験することになったわけです。僕は理科を受けて合格する自信がなかったから、しょうがなくて文科を受けたんですが、まあ、当時の状況を考えて、徴兵されるのを避けたいというのは当然の考えかなとも思いますけれど。

一方で強い愛国主義を持って、今、自分が国のためにやんなくちゃダメだと海軍兵学校に行ったり、士官学校に行ったりした人がクラスにも2、3人はいました。でも大勢というか一般的な空気は全然文弱で、要するに大変逃避的でした。だから医学部に進んで医者には8人も9人もなっていますし、一高には理科へ入った人が7人も8人もいたので、ひどく多いんです。

◎戦時下の勤労働員についてはどうだったのですか。

——それは生まれた年、学年によりかなり異なりますが、私の学年では板橋にあった陸軍の被服廠に、そこでは軍隊の被服を貯蔵したり、運び出したり入れたりする所ですけど、何年か2週間くらいずつ何回か行ったとか、そんな程度でした。

19年4月に一高へ入ってからはもっと過酷な動員がありました。例えば授業が朝8時から1時間あって、

それから皆で隊列を組んで三菱電機の玉川工場まで行って、いろんな重労働をやりましたけれど。

◎五中を卒業して一高に入学する頃には日本の敗色は明らかだと思うのですが、一高の寮での暮らし、戦争の見通しや雰囲気はどうだったのですか。

——19年の暮れくらいかな、軍の査閲というものがあって、学内の視察に陸軍少将が来ました。それで我々が並んでいた時に、少将が我々学生に、この戦争は勝つと思うか負けると思うか、という質問をしたのです。そのときに、大西守彦という同級生が「勝たねばならぬと思います」と返事したんです。その当時、多くの一高生は負けると思っていました。しかし、査閲に来た陸軍少将に向かって、負けると思います、とは言えない。また、勝つとも言えない。「勝たねばならぬと思います」は、それはもう、当時の一高生の間で名回答だったと大変評判だったんです。その当時、我々はみんな負けると思っていました。だから、どうしたら戦争に行かないで済むかっていうことに一部の人は一所懸命でした。僕の友達の飯田桃（いいだもも、寮で同室、戦後に作家・思想家）なんかは、兵隊を逃れるために病気になったように思うんだけど。だから私の周りにそういうふうな徴兵逃れをした人たちは何人もいたんです。

◎その時に日本人はまだこの戦争は続けられると思っただけでしょうか。どうしてやめられなかったのでしょうか。

——本当にそうですね。本当にどうしてもっと早い時期に降伏しなかったか、例えば沖繩戦の前に何故降伏しなかったかといえ、私の考えでは、国内政治の問題として、また、国際的には外交問題として、難しいことだったのだろうと想像しています。当時、降伏などと言うだけで国賊扱いされ、跳ね返りの若い軍人に暗殺される虞れもあります。それでも一部の重臣たちが戦局を正確に認識し、降伏せざるを得ないと考えていたことは間違いありません。彼らは降伏すれば天皇制を維持できないであろうと恐れていたのです。降伏の条件として天皇制の維持を絶対に考えていたのだと思います。ともかく、当時の大日本帝国憲法第一条は「大日本帝国ハ万世一系ノ天皇之ヲ統治ス」とあったのですから。天皇あつての臣民であり、臣民あつての天皇ではなかったのです。

外交問題としては条件付き降伏を連合国との間で交渉しなければなりません。国際的に孤立していた日本としては、仲介してくれる中立国が見当たらなかつ



開拓34号（昭和18年10月発行）



府立五中第20期卒業記念写真帳
(1943年)より

たと思います。そこで、最後はソ連に仲介を頼むようなマンガ的な事態になりました。それで、原爆投下以前の降伏は、国内政治的にも外交問題としても難しかったと思います。しかし何人かの重臣が決死の覚悟で推進すれば降伏できたかもしれません。不幸にしてそんな重臣はいませんでした。

ポツダム宣言を受諾した時にも、天皇制は残してくれと確か条件をつけたはずですね。(連合軍、アメリカは) それを無視して日本に乗り込んできて、それで天皇制を残すかどうかということでは、占領軍の間で随分と議論があって、結局、象徴天皇制という形で残ったわけです。当時の上層部、指導者たちは、国民よりは天皇の方が大事だったんですよ。本当にそうなんですよ。

◎戦局は好転しないばかりか八方ふさがりの状況です。

——だから沖縄戦だってもう助けに来る見込みが全くなかったのです。海軍もなければ飛行機もない。ただ、沖縄にいた兵隊たちが負けるために、死ぬために戦ったわけです。なぜ戦ったかという、本土決戦を遅らせる、ただそれだけのために、死んだんですよ。女学生など市民も同じですから、本当に気の毒だと思いますね。全く無駄死にです。沖縄戦の前にもう降伏すべき時期が来ていたわけです。要するに、日本の国力とアメリカの国力があまりにも違いますよ。日本では飛行機を1機作るのも大変なことです。それで3月10日でも、B29が数百機来襲したのですからね。

全くどうにもしょうがないんだけど、そういうことはわかっていて戦争を始めたのですね。中国との戦争が膠着状態となり、石油がなくなって石油が欲しいからボルネオを占領して、あの太平洋戦争に入ってしまったわけです。だから本当に将来の見通しなしに、その場しのぎでどんどん、どんどん戦争を拡張していったんだと思いますね。

◎やがて東京のみならず各都市にB29が飛来し、その目標も軍事工場から全土の焦土化へと変わっていき、軍も一般も見境なく犠牲者が増えていきます。

——僕が一高に入る前の昭和19年の3月頃は、まだ五中は空襲にあつてないし切迫もしていませんが、その年の後半から東京に空襲が始まります。20年3月10日の大空襲の時は翌日に浅草に行って悲惨な状況を見ていますが、たとえば、当時、防空演習といえ、焼夷弾が落ちたらバケツリレーで水をかけて消す、そういう訓練のことだったのです。また、庭に穴

を掘った防空壕の中に身を潜めていられると言われたのです。僕はそういった指導者が処罰されるべきだと思いますね。つまり、3月10日の空襲で防空壕へ入った人はみんな蒸し焼きになったわけですよ。何百機かのB29がいったんに来るわけですから、バケツリレーなんかで消せるもんじゃないのです。だから、4月、5月の空襲の犠牲者が少なくなったのは、空襲になったら逃げるしかないと徹底したから、みんな逃げたので、死んだ人はぐんと少なくなったんです。そういうことを3月10日を回顧するときになかなか言わないですね。その当時の為政者が非常に無責任だったわけで、犠牲者に対する責任というものを、戦争責任というものを当時の為政者は取っていないのです。

一高に入った頃には日本は負けると思っていたけれども、ごくわずかな人を除くと兵隊に行った人はみんな生きて帰ってきましたね。死んだのは尾藤正明という一高に入ってからひどく仲良くなった同級生だけです。彼は20年の6月か7月頃に実家がある満洲に帰りました。東京は空襲が酷くて物が無い時に満洲は物資がすごく豊かだったんです。それで、奉天の実家に帰ってたまたま母校の中学に遊びに行ったら、お前何してるって先生から通告されて現地招集されました。8月8日に入営のため熱河省に出発、8月9日にソ連が侵入したのでソ連の捕虜になって、そのままシベリアのイルクーツク近郊の捕虜収容所でその年12月、肺炎になって高熱を出して死にました。それが戦争で死んだ唯一の僕の友達です。尾藤はさぞ無念だったろうと思うと胸が張り裂けそうになります。彼はまだ19歳だったのですよ。

この頃ですと兵隊に取られても、もう外国に行く船がなかったんです。だからみんな内地で、敵の上陸に備えて九十九里浜などで穴掘ってたんです。軍隊にはシャベルがなくてね。それで家からシャベルを持って来いと言われて取りに来たよと遊びに来たりして。シャベルで穴を掘ってその中に手榴弾を持って敵を待って、敵の戦車が通ったら手榴弾を放して、もちろん自爆して敵の戦車をやっつけるという陸軍のお粗末な戦術だったわけです。

◎ここに中村さんより6期上の15回生の方々が戦後に出したクラス文集があります。昭和20年8月15日に私はどこにいて何をしていたとのテーマで作られています。この中にはクラスの中で戦死された4名の方の情報が入っていて、その一人が五中時代からの友人のお一人、(故)出英利さんのお兄様である哲史さんなんです。

——（しばらくページをめくりながら）こういうのを作ればよかったですよね。

出の一番下に12か13歳違うの弟がいますね。出基人さんといって、僕は基チャンと呼んで今でもとても親しく付き合っているんですが、いや、基チャンも多分そういう文章をご存じないと思いますからコピーを取って基チャンに送ってあげたいなと思います。本当に感動しますね、ずっと上の同窓生の方たちがこんな熱い思いの回想を本にしているんですね。

◎20年には食糧不足が深刻化する中で一高の寮生活は敗戦の時点までずっと続いていたのですか。また、大宮のご実家とは行ったり来たりできたのですか。

——戦争中も戦後も交通にあまり不自由はありませんでした。戦後しばらくして我が家はここ（大宮）に帰ったんだけど、その前に父親が青森地方裁判所の所長になって赴任していたのですが、青森の官舎が空襲になって先に送った荷物はみんな焼けちゃったんですね。それで弘前に仮の住まいを見つけて、8月16日に我が家一同は上野から列車に乗り込んで弘前まで行ったんですけど、その当時でもちゃんと鉄道は動いていました。今は、大宮から青森まで3時間だそうですけど、私たちが弘前に行くのには、鈍行しかなくて大体24時間かかったんですよ。

◎8月15日の玉音放送は、どこでお聞きになりましたか？

——引越しの荷物を作って、大宮の家の庭に穴を掘って貴重品などを埋めたりなんかしてた時です。僕はその前からポツダム宣言を受諾することに決まったという話を聞いていましたから、早く父親のいる弘前に行こうと母に勧めていました。

私は勤労働員先の立川にいて、同級生で親友の中野徹雄から、彼の父親が中野登美雄という早稲田大学の総長で東條内閣の顧問をしている情報通だったので、12日ころにポツダム宣言受諾に決まったという話を聞きました。私はそこですぐその立川の寮から、荷物みんな置いたまま大宮の家に戻っちゃいました。

早く父親の所へ行こうと母を説得したのですが、引越しに手間取っているうち8月15日の終戦になったのです。親戚の女性や近所の女性たちが来て手伝ってくれていろんなことをしていたんです。その日の正午に放送があって、皆さん泣いてました。普通の日本人はいよいよ本土決戦のためのお言葉を天皇がおっしゃるんだと思っていたんです。

◎その時の率直なお気持ちは。

——僕はああ、よかったなあと。その前にポツダム宣言の報道が新聞に出た時に、こんな条件ならぜひ受諾してもらいたいと中野と話し合っていたんです。だから僕にはととても嬉しいばかりでした。それまでは、じきに戦死するものと覚悟していましたから。これから灯火管制なしに明るい電燈の下で本が読めるということが嬉しかったですね。本当に嬉しかったな、あのときは。

これで兵隊行かなくて済むことがとても嬉しかった。徴兵年齢は、本来20歳だったのが19歳に下がって、それから昭和20年には18歳まで下がった。私は当時18歳。昭和2年生まれ。早生まれです。それで徴兵検査の代わりに簡閲点呼というのを大宮小学校で受けて、第三乙種として召集令状がいつ来るかという状態でいたわけです。

今の官房長官の林芳正の父親の林義郎は私の一高の同級生で、代議士になり、大蔵大臣も務めました。彼は昭和2年生まれ。四修で、一高に入っていたのですが、18歳なのに召集令状が来て、島根県浜田の連隊に入営するために向かう途中で終戦になった。それでもその頃に入営した人たちは、外地の戦場に行く船がなかったから、内地にいたんで助かって生き延びたんです。

◎ここまで戦時から敗戦までをお聞きしましたが、私たち戦後生まれにはなかなか想像の及ばない実体験をもとの貴重なお話を伺うことができました。紙面の都合により詩の創作や当時の世相、文化についてのお話は別立てで掲載いたします。本日は誠にありがとうございました。



左から並木（O22E）、岡田謙司（O20D）、中村稔さん（G21D）、福留真紀（O44C）

満州からの引揚げ・ 離別・再会

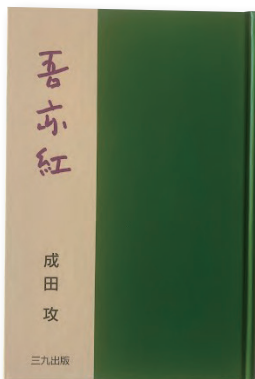
2025年3月27日 成田 ^{おさむ} 攻さん (014H)



成田さん 近影

会報の編集に10年間携わって、編者は各界各分野で活躍される多くの同窓生のお名前を知り、ときに面識を得ています。なかでも神野藤昭夫さん（国文学・跡見学園女子大名誉教授、014B）は2017年発行の会報45号にご寄稿をお願いして以来、ご著書や旅のお話など折に触れ何かと声を掛けていただいている先輩です。

ある年、神野藤さんから同期の友人の一人がこんな本を出しましたと、一冊の自叙伝（私家版）を紹介されました。成田攻（なりた・おさむ・014H）著『吾亦紅』（われもこう）。お借りしたその本は、戦中・戦後を生き抜き、時代に引き裂かれたある家族の歴史を綴ったもので、事実の断片を掘り起こして推理し、飾らずに心情が語られ、また、母校に関連した記述も多いなど読後ずっと心に残るものでした。いつかお話を伺って、許されるなら会報に紹介したいと願っていた機会がようやく訪れました。うるさい都会を離れて現在は軽井沢の別宅で愛犬と暮らす成田さん、昔日の思いを語るうちにお話は徐々に熱を帯びました。（並木隆 022E）



吾亦紅

◎成田さんは1944年（昭和19年）、日本軍が侵略して1932年に中国東北部に建国した「満洲国」のお生まれです。戦中・戦後の混乱と激動の時代を生き抜かれたわけですが、ご家族の構成と暮らしぶりをお聞かせください。

——はい、終戦時にはまだ1歳半でしたから、一家が満州でどのような暮らしをしていたかをはっきりと記憶しているわけではありません。父は終戦のわずか2か月前に最後の徴兵に駆り出され「日ソ戦争」に動員されて帰らぬ人となりました。母が持ち帰った写真に

は父と母、2人の姉と兄、それに末っ子の私の6人家族が写っています。一見幸せな家族写真ですが、昭和20年6月、母の表情が空ろなのは心に不吉な予感があったのかも知れません。



昭和20年の家族写真（左から父、兄、二人の姉、母と私）

◎お父様は府立五中2期卒で、同期である武田逸英さん（文筆業）の著書『狭間の早春 少年らの二十世紀初め』（1984）の中に、在学中の印象として「スポーツ万能の好青年であった」と人物評が残されています。——父がスポーツ少年であったと知り親近感を覚え嬉しく思いました。私が思い描いていた父のイメージと違っていました。父・芳賀篁（はが・たかむら）は五中の2期生で旧制松本高校を経て京都帝大を卒業したのですが、昭和恐慌のさなかで就職口がなく、結局は満州に渡り「満洲中央銀行」（略して中央銀行）に就職したようです。東京で見合いた母を満州に連れ帰り、転動を重ねながら37歳で牡丹江支店長になり、いよいよ人生佳境に入るかというところで兵隊にとられました。



狭間の早春

◎お父様は 1945 年 6 月に召集され、8 月 9 日に始まるソ連の侵攻、降伏（日ソ戦争）後の混乱の中で死去されました。

——「根こそぎ動員」と呼ばれたこの最後の召集では役所や警察の組織もヨレヨレの状態だったので、逃げ隠れて兵役に応じなかった人もかなりいたそうです。父は当時名の知れた国文学者（芳賀矢一）の子供だったので、家名を憚って応召するしかなかったのでしょう。父は社宅の前からバスに飛び乗り、母を振り返る間もなく出征していったと晩年に母から聞きました。父は戦場で死んだのではなく、武装解除後にソ連兵にシベリアへ強制連行される途中で「落伍死」と報告されています。父の死が厚生省から知らされたのは、終戦から 6 年も後の昭和 26 年でした。

◎「太平洋戦争」の中で最後の戦いである「日ソ戦争」とはあまり知られていないように思いますが。

——太平洋戦争は日本のハワイ真珠湾攻撃に始まり、一挙に南太平洋、東南アジアにまで拡大した戦線に兵站が追いつかず、敗退と玉砕を繰り返して兵員を消耗しつくし、ついには B 29 の空襲と広島長崎への原爆投下により国中が焼け野原となった無謀極まる戦争だった、と学校で学びました。

「日ソ戦争」は、ドイツの降伏後、ソ連が「日ソ中立条約」を捨てて昭和 20 年 8 月 9 日深夜に 157 万の大軍をもって満州、南樺太、国後、択捉に侵攻した、終戦までわずか一週間の戦争のことです。すでに兵力も軍備も消耗していた日本は多勢に無勢、軍民の死者 25 万人、その後シベリアに連行されて抑留中に死亡した者 7 万人もの犠牲を払い、北方領土（南樺太・千島列島）を奪われました。

◎もしも日本がもっと早く降伏していれば、どさくさ紛れのソ連の参戦もなく、亡くならずに済んだ方も大勢いたはずですね。

——本当にそうだと思います。連合国側が日本へ無条件降伏を勧告（ポツダム宣言）したのは 7 月 26 日、鈴木貫太郎内閣はこれを傍受して知っていたにも拘わらず無視し続けたというのだから、この間に亡くなった人達、広島長崎を含めて 53 万人の死は国が国民を見殺しにした犠牲だったわけです。阿南惟幾陸相が「国体の護持」（天皇制の維持）を主張して譲らず、閣議は何日も全員が黙りこくったまま時間が経過したとされていますが、それならばなぜそれを交渉してみようとしなかったのか？日本の政治の危機対応の稚拙さ、鈍さ、のろまさに改めてはらわたの煮え返る憤りを覚えます。

を覚えます。

◎終戦後、満州各地に入植した開拓民が日本本土へ帰還を目指した逃避行の中で多くの悲劇が伝えられています。ご家族は 8 月 15 日の終戦をどこでどのように迎えられたのですか。また、帰国までの道のりはどのようなものでしたか。

——ソ連軍の越境侵攻が伝わるや中央銀行の指示でいったんは朝鮮半島経由で日本への脱出を試みたようですが、朝鮮との国境の丹東から先へ列車が進まず、転じて新京（旧満洲国の首都、現在の長春）へ避難し銀行の社宅に収まりました。ところがソ連軍が囚人兵を先頭にやってきて略奪暴行の限りを尽くすだろうという噂が流れ、2000 人の日本人集団が激しい雷雨の中を夜陰にまぎれて飲馬河の土佐開拓村を歩いて目指しました。その雨の夜、母は 1 歳半の私を自分の身体に縛り付け、両手に兄と下の姉の手を 1 人ずつ布切れで結び付けた。9 歳だった上の姉からは、豪雨の中を一人で大人の足について行くのが命がけだったと後に聞きました。それが 8 月 14 日から 15 日の出来事であったことをずっと後になって『満州脱出』という本（武田英克 1985 中央公論新書）で知りました。（成田追記）

私たち一家が牡丹江駅からハルピン行き最後の列車に乗り込んだその手前でソ連軍機の機銃掃射を受けてトウモロコシ畑に置き去りにされ中国人に拾われた城戸幹少年、こと孫玉福の生い立ちを綴った『あの戦争から遠く離れて』（城戸久枝）（NHK ドラマ「遙かなる絆」2009）、朝鮮経由の脱出を目指して私たちの一便前の列車に乗って極寒の北朝鮮で越冬することになった地獄の体験を綴った『流れる星は生きている』（藤原てい 日比谷出版 1945）、8 月 14 日の深夜に私たちが稲妻と雷雨の中目指していた飲馬河の土佐開拓村でそのとき発生していた現地人による襲撃事件を綴ったのが『朱夏』（宮尾登美子 集英社 1991）。いずれもわが一家の逃避行のすぐ隣で実際に起きていた悲劇ですから、私たちの無事は紙一重の幸運だったのだと思います。母の必死な思いが一片の幸運を引き寄せたのでしょう。

◎まさに生死の境目を乗り越えて一家は翌年の秋に帰国を果たします。その頃の記憶はありますか。

——結局、新京の銀行の社宅で 1 年間順番を待ち、一家が引き揚げ船・興安丸に乗って帰り着いたのは昭和 21 年 9 月だったそうです。私の頭におぼろげながら記憶らしいものがあるのはこのあたりで、焼けるよう

な熱さとまぶしさと喉の渇きの記憶です。おそらく引き揚げ船の甲板上で日にさらされた状態で帰ってきたのでしょう。



「満洲国」の位置と主要都市（ ）内は現在の名称

◎帰国後、一家は名古屋市内に身を寄せますが、戦後間もない頃の暮らしはどのようなものでしたか。

——名古屋にいた母の実兄を頼って寄宿させてもらい、やがて近くの市営アパートに移り戦後の生活が始まりました。父と母のそれぞれの兄姉たちから支援金が寄せられたものの、昭和21年から22年にかけてのハイパーインフレは215%にも及んだそうです。父の残したわずかな貯金はたちまち底をつき、母のミシン内職では家計の足しにもならなかったでしょう。6年もの間、夫の消息が分からぬまま子供たちの空腹を芋がゆでしのぐ赤貧の日々だったようです。

この頃に、見かねた伯父が母に4人の子供のせめて一人でも養子に出して口減らしすることを勧めたのでしよう。母親がまともな仕事につくには手のかかる末っ子を手放す必要があり、養子に出すには幼い方が新しい環境に適應しやすいと考えたのは誰でも同じだったでしょう。つまり私が口減らしに選ばれたのは当然すぎる当然でした。

◎昭和25年4月、6歳になったばかりの攻少年は、名古屋から東京の雑司が谷の成田家に引き取られます。差支えない範囲でその経緯についてお話しください。

——とにかく戦後の日本は全国民が飢餓すれすれの時代でしたから、私が東京の成田家に引き取られ育ててもらえただけでもこの上なくありがたいことでした。ただ、私は誰からもよその家の子になるんだという説明を聞いていないまま、ある日突然、伯父さんに東京に連れて行かれたわけです。それから2、3日後に、養母から「実は私があなたの本当の母親なのよ」と言

われたんですが、6歳の子供にもそれが嘘であることはすぐに分かりました。

養父となった成田喜英は、昭和3年から27年まで五中、小石川を通して教員であったばかりでなく五中1期の卒業生でした。そうそう、私が小石川生だったころ英語の本多哲郎先生(1949-65在任)も五中18期生で、授業中折々に五中、小石川の伝統や伊藤長七初代校長が目指した校風などを話されました。その中で、昔は登校した下級生が先輩に対して「おはようございます、先輩」と挨拶するのが当然な時代であったけれど、五中では先輩の方から「〇〇君、おはよう」と声をかけ、後輩は「おはようございます、〇〇さん」と返すのが伊藤先生の教えであった、と聞きました。そうだったとすれば、当時、成田喜英は「芳賀君、おはよう」と声をかけ芳賀篁は「おはようございます、成田さん」と挨拶を返していたはずですが、それから31年を経て養父が私を入籍するときに、それが1年下級生だった芳賀篁の子供であることに気付かなかったはずはないでしょうね。

◎養父である成田喜英先生と養母はどのような方でしたか。

——教師としての養父は五中、小石川について書かれた本の中にはよく登場して、教え子からはかなり慕われた先生であったことが窺えます。ところが私が養子入りした頃の養父は戦後の新しい民主主義の立ち上げに情熱を傾け、一時は教壇を離れて労働組合運動に専念し、日教組の副委員長を務めて精力的に全国を駆け回っていました。家にいることはまれで、いたとしても大変気難しく寡黙で、私に関心を払うことはありませんでした。

一方の養母は対称的に性格の強い人であらゆることで高圧的に干渉し私を支配しようとしたので、私はどうしてもなじめませんでした。そういう親子関係は、私が早稲田大学を卒業して就職し結婚して家を出るまで変わらなかったですね。一方、心の底では実母を思う気持ちはつねのるばかりで、「母に見捨てられた」という劣等感に苛まれて懊悩する青春でした。私に2人の子供ができて養母との関係はうまくいかず、養父が亡くなった後に養子縁組の解消を告げられました。一生涯に二人の母から離縁された自分がとても哀れで、妻子に涙は見せられませんが、夜の護国寺へ行って漆黒の闇の中で一人オイオイと泣きました。しかしこの歳になってみると養父母にはつくづく申し訳ないことをしたなと思います。まがりなりにも私がこの歳まで生き延び人生の楽しみもひと通り経験できた

のも、あの両親あってなのですから。

◎社会人となりモービル石油を皮切りにいくつもの会社で華々しいキャリアを積まれていますね。

——私は新聞記者になりたくて早稲田大学で政治学を勉強したのですが、あいにく目指す朝日新聞ではその年に記者採用がなく改めてツキのなさを思い知らされました。それなら普通の企業に就職して地味に短い人生を送ろうと決め、外資の石油会社に就職しました。高校時代に論文コンテストに応募してアメリカの高校生の会議（ユースフォーラム）に参加した経験が、その後の外資企業や国際関係に携わるキャリアにつながったようです。米系企業では石油、クレジットカード、銀行の、英系では商社、製薬の経営に携わり、若い頃には某経済団体の国際課長を務め国際機関に関わった時期もありました。企業で担当した仕事は人事労務に始まり企業の再生、事業再編、合併、経営統合に及びました。私にはドライな人間関係や理屈の通る外国人との折衝が性に合ったようで、退屈しない多忙な職業人生を送ったなあと思います。

◎多忙な会社勤めを続けながらも、心の中ではいつか家族を探し出してご自身の記憶の空白を埋めたいと思われました。

——時間切れ、つまり母親が亡くなってしまわないうちに、自分の方から探しに行かなければいけないと思っていました。しかし多忙にかまけて実際にはなかなか立ち上がれなかったので、少し早めに会社を辞めて自分でコンサルティング事業を始めました。私には不思議な思い込みがありました。実際にはそんな約束はないのだけれど、いつかきっと一番上の姉が私を探し出して母親と再会させてくれる、という妄想を勝手に頭の中に描いてきました。自分が作った妄想だと解っていてもいつの頃からかそれを否定できずに本当に起こるような気がしていました。

◎長姉の奎子さんも生き別れた弟さんを探していたんですね。お兄さんから手紙が届き生母・文さんと家族の消息が判明します。

——57歳の頃に一人コンサルタント会社「HRソリューションズ」を始めて3年ほどしたある日、青天の霹靂、平成18年1月に実兄・惇から手紙が届いたのです。おそろおそろ開いた文面は、姉の奎子が一都二県5つの役場を回って私の居場所を探し当てたとのこと、母・文は今も存命だから一度会ってもらえないかとの問い合わせでした。しかも母は私の目白の自宅から車

で30分の埼玉県川口市の老人ホームにいたのです。その10日後に私は母を訪ね再会を果たしましたが、風邪で熱を出して点滴を受けていた母は思っていたよりずっと小さく、骨ばった手は氷のように冷たく「死に目にぎりぎり間に合った」と思ったほどでした。私61歳、母91歳。別れたのは私が6歳、母が36歳の時でしたから55年ぶりの再会でした。その10日後には奎子姉に伴われ名古屋へ赴き、惇兄と高槻から駆けつけた紀子姉と再会し、4人そろって父の墓参りをしました。

◎55年ぶりに再会を果たしたお母様とはどんな話が出来たのですか？

——母に残された時間は長くないと思った私は、足繁く母を訪ね昔の様々な事情と経緯を尋ねました。母の認知症と難聴は日を追って進み、会話は容易ではありませんでしたが、母はいつも機嫌よく私を迎え入れ誠実に質問に答えようとしてくれました。夜には奎子姉に電話して母との会話の詳細を報告して、姉の記憶と照合しながら少しずつ真相の解明ができました。姉が母の押し入れから見つけた13通の手紙やメモ類も確実な裏付けとなりました。おそらく母はもしいつか攻から詰問されたときには自分の口からは一切の釈明をせず他人から寄せられた手紙やメモを見せるにとどめようと考えて密かに残しておいたものと思われます。

その中に例外的に母が夫宛てに書いて舞鶴港に預けておいた手紙がありました。結局は宛先人に配達されることなく差出人の元へ戻されてきた悲しい手紙なのですが、黄ばんだ便せんに美しいペン字で綴られたぴったり300字の文章には、戦場から生還した夫に対する深いいたわりと、一日千秋の思いで待ちわびた妻のいじらしい思いと、父を待ちながら素直に成長している4人の子供一人ひとりの近況を一字の無駄もなく綴り、一家の在所を記し地図を添付して必ず名古屋駅へお迎えに参りますと結んでいる。私にとってはどんな文学にも勝る母の愛とやさしさにあふれた文章で、姉兄たちの了解を得て額縁に収め今も軽井沢の寝室に飾ってあります。わが家の何物にも代えがたい家宝です。見るたびに母が大変聡明で愛情豊かな人であったことを思い、「国を恨まず人を妬まずただひたすら自分の足元だけを見て歩いてきた母」(惇兄)の悲しい人生を思っただけで目頭が熱くなります。

◎ご自身の生き立ちについて、空白の歴史をご自身で埋めていかれたんですね。

——母と再会して3年後の初秋に私は兄を誘って満州

へ鎮魂の旅に出ました。父はシベリアへ連行される途中にグロデコボ近郊で落伍死したと報告されていましたが、私はむしろソ連領の手前で遺棄された可能性が高いと考え、綏芬河の旧国境通過点の遮断機の前で兄と並んで鎮魂の祈りを捧げました。周りは草深い丘陵地で地点を特定する根拠は何もないのです。その時に、ふと足元に紫の可憐な花を見つけ、「紫」の連想から亡き父が(紫友のサインを送って)「ここにいるぞ」と教えてくれたんだと納得したのです。牡丹江市では元中央銀行の建物を見つけ、父が座っていてであろう支店長室を外から覗かせてもらって胸にこみあげるものがありました。

母は再会して8年4か月も生き延び100歳と1か月で亡くなりました。その間私がホームに母を訪ねたのは130回以上にもなりますが、もちろん二人の失われた時間が取り戻せた訳ではありません。それは私にとっては「母に捨てられた」という長年苛まれた劣等感を払拭するために必要十分な時間であったし、母にとっては手放した子を取り戻して長年苛まれてきた呵責から解放されるために必要十分な時間だったと思います。ようやく母も私もわだかまりを解消して往生できる準備が整ったということですね。

私は母と姉兄の名前以外自分の出自と生い立ちについてはほとんど何も知らずに育ちました。養母は「実は私がお前の本当の母親なのだ」と言ってしまった手前、真相は何も語ってくれませんでしたし、私も聞くわけにいきませんでした。だから、ここでお話したことは再会後に母や姉兄から聞いて分かったことを本やインターネットから得た歴史的情報に照らし合わせて複合構成した“推定”自叙伝なのです。どうかご理解ください。

◎大変貴重なお話をありがとうございました。成田さんとご家族にとって戦争とは、戦後80年目の夏を迎え、その時代を生きてこられた感想をお聞かせください。

——太平洋戦争での日本の死者は軍民合わせて310万人、第2次世界大戦の世界全体では5,000万～7,000万人にもなるそうです。それによって悲しみを負った人々の数は更に5～10倍となるでしょう。そんな莫大な犠牲を払って人類が得たものは何かあったのでしょうか？戦争なんて金輪際するもんじゃないと皆が誓ったはずです。ところがまたぞろあの国はウクライナにいちゃもんをつけて侵攻し、毎日破壊と殺戮に明け暮れている。人類史上最悪のホロコーストで600万の同胞を失ったユダヤ人が、今度はパレスチナ人に対し容赦ない攻撃を続けている。これを人間の性(さが)

だと言ってしまったら、絶望するしかありません。

私は若い頃に内閣辞令により OECD（経済協力開発機構）や ILO（国際労働機関）の会議に臨んだことがあります。そこでは多くの時間と労力を使って統一基準を作り規制を条約化したのですが、様々に事情を異にする世界において意味があるのだろうかと思ったこともありました。今日では毎年何百もの国際会議が開かれて、世界の人々が集まって互いの事情や経験に耳を傾け合い、共通の認識と理解を文章化し、共有してゆく地道な努力を重ねています。主題は「多国籍企業の倫理綱領」であったり「長距離運転手の労働条件」であったりと平和とは直接関係ない課題でも、政治体制や民族宗教などの価値観の違いを超えた考え方を世界で確認して共有していくことこそが、争いのない恒久平和の基礎になると信じているからなのです。

ところが最近のニュースを見ていると、平気でウソ八百を並べて自分の主張を正当化し自国の利益最優先を声高に宣言し、勝手気ままな都合を一方的に押し付けて脅し、ひるむ相手にディールを持ち掛けるというヤクザまがいの大統領が現れて世界を大混乱に陥れているらしいではありませんか。しかもこの人、戦後の世界体制と平和維持機構を主導してきたアメリカの大統領なのに、多くの人々が忍耐と寛容をもって作り上げてきた調和と協調を平然とこき下ろし始めている。ウクライナや中東戦争の和平工作を装いながらレアメタル資源や大リゾート開発を取引しようとして世界の顰蹙を買っている。こんなやり方がエスカレートする先には、人類の繁栄と平安は極めて危ういと思わざるをえません。

数年前までの私は、世界は既に十分な知性と理性を備えているから、再び戦争の愚を犯すことはないだろうと確信していました。でも、この確信はウクライナと中東戦争の勃発によって裏切られ、ヤクザ大統領の出現によって大きく揺らいでいます。民主主義にもとると思えば黙ってはいられない真直ぐなアメリカ人（言論界やジャーナリズムまでも）が日和見に回ってしまい、世界の指導者たちもできる限り無難にやり過ぎそうと萎縮することに失望しました。それでも、最近発表された大統領就任100日目のアメリカの世論調査で、彼の支持率が39%まで急速に低下したことを知り、ようやくアメリカの良識が目覚めて動き出したのかなと感じています。あのようなモンスターを、内側からの制御によって手遅れにならぬ内に退場してもらわなければなりません。戦後私の世代が営々と努力して築いてきた平和の礎が確実に次の世代へ受け継がれ、さらに強化されるよう祈るばかりです。



インタビューを終えて

*音声ファイルの文字起こし協力 田嶋伸子さん (022E)

中村 稔さん

若々しく、力強いお話しぶりで、数々の貴重なお話をうかがうことができました。

その一つが、「梅月事件」です。生徒だけであんみつ屋へ行って問題視されること自体にも時代を感じましたが、そのこと以上に、正義感からであっても集団暴行に嫌悪感を覚えた先生方が多く、双方おとがめなしで、校長先生の訓示だけで終わった、というエピソードを「五中の校風」だったのでは、とおっしゃられていたことが印象的でした。うまく表現できませんが、当時の先生方のバランス感覚が私の中で非常にしっくり来て、「五中の校風」は、確かに私の小石川高校生時代にも受け継がれ、続いていたと感じました。

また、意外だったのが、当時の五中における教育のお話です。先生が作成したプリントで、客観的な事実に基づく歴史の授業が行われていたり、2人の先生から英語の授業を十分に受けていた、というお話に、私たちの時代とあまり変わらないような印象を受け、戦時下でも、五中には自由に学ぶことのできる環境と空気が存在していたことに、感動を覚えました。『開拓』の内容にも、学校側が一切検閲せず、生徒の自由に任せていたことも印象的です。

おそらく、そのような環境だったから、戦争に対しても、士官学校へ進学する者から、文科学生の徴兵猶予がなくなったことで理系に進もうと決断する者など、さまざまな考え方の者がいて、その思いをお互い否定することなく共存していたのでしょう。

そして、終戦の日。「じきに戦死するものと覚悟していましたから。これから灯火管制なしに明るい電燈の下で本が読めるということが嬉しかったですね。本当に嬉しかったな、あのときは。」非常に考えさせられ、最も心に残っている言葉です。(福留真紀 044C)

成田 攻さん

前文で記したように8期上の成田さんと編集子とは今回が初対面ではありません。もう7、8年も前のことですが、神野藤昭夫さん(014B)、鳴尾節夫さん(014H)、成田さんの同期3人組の雑司が谷から音羽までの散歩に誘われ一緒にしました。そのとき、成田さんが同じ青柳小学校の卒業生とわかり、戦後間もない頃の音羽と護国寺の話をお聴きしたのも何かのご縁でした。

それから間もなく、お借りした私家版のご著書「吾亦紅」を拝読し、数奇な生い立ちと悲惨な体験、「五中・小石川」とのつながりなど、ご自身の記憶と歴史を埋め合わせていく推理の過程一つ一つに驚嘆しました。いつか機会が持てたら本欄に登場願おうと、心ひそかに思い今回の訪問が実現しました。

今は軽井沢に隠棲し、ゆったりと愛犬との時間を過ごされている老紳士の成田さんは、ご自身と二つの家族の歴史を穏やかな口調で語り始めました。それがご著書に書かれたエピソードで、内容をオブラートに包んであったとしても、一つ一つ発せられた言葉は重く、いつしか肅然とした気持ちでお聴きしていました。

出生して間もなく生き別れ、記憶のかけらもなく写真でしか知らない旧制五中を卒業された父親のこと、幼い子供4人を引きつれた母親と一家の逃避行に引き揚げの記憶、戦後引き取られた養父養母との関係など、戦争に翻弄された芳賀、成田ご両家のプライバシーにかかわることをよくお話しくくださったとの思いです。

なぜ戦争が始まり、それをやめることができなかったのか、戦後の青空の下でずっと引きずっていた思いを、生母との再会と鎮魂の旅で果たした成田さんが今の世界をどう見ているのか、最後に書き加えられた現状に対する憂いと怒りの発露に、戦争を知らない世代の一人として言葉がありません。(並木隆 022E)

【特集 引用・参考文献】

- 『半世紀』(五中・小石川創立50周年記念誌 1968)
- 『立志・開拓・創作 -五中・小石川高の七十年-』(紫友同窓会七十年史刊行委員会 1988)
- 『立志 開拓 創作 百年の系譜』(五中・小石川百年史編纂委員会 2018)
- 『昭和二十年八月十五日 私』(昭和13年卒15回E組紫園会「ますらを」特集号 1984)
- 『ますらを』昭和62年度発行号/戦後復刊3号(昭和13年卒15回E組紫園会 1987/1992)
- 『校舎焼失 空襲下当直中学生らの手記とそれに連なる感想』(石上会編/さとう出版 2003)
- 『私の昭和史』(中村 稔/青土社 2004)
- 『故旧哀傷 五中D組群像』(中村 稔/「ユリイカ」2025年3月号・4月号)
- 『吾亦紅』(成田 攻/三九出版 [自家版] 2015)
- 『狭間の早春 少年らの二十世紀初め』(武田逸英/日本経済評論社 1984)
- 『昭和十九年都立五中一年生』(齋藤安俊/「紫水」3号 2004)
- 『五中・小石川の校舎物語』(「紫友同窓会報第41号」2013)
- 『日ソ戦争 帝国日本最後の戦い』(麻田雅文/中公新書 2798・中央公論新社 2024)

先生お元気ですか

岐阜の実家に戻って僧侶となる

1982(昭和57). 4~1996(平成8). 3在任 地理・現代社会 三浦真智

教員を辞めて出身地である岐阜の実家に戻りました。実家は浄土真宗本願寺派(西本願寺)の西順寺という寺院です。教員をしていた頃には迷っていた僧侶という生き方を選択することになりました。



三浦真智先生

そこで通信教育で仏教や浄土真宗の教を学び、得度する資格を得たのが1994年でした。すなわち僧侶になるには得度する必要がある訳で、一般に「修行」がないと思われる浄土真宗でも、得度のための「修行」はあります。浄土真宗本願寺派の場合には14日間缶詰の合宿研修があり、得度習礼(とくどしゅらい)と言います。

1994年12月に得度をした際に、法名を「釈真智」(しゃくしんち)と命名して貰いました。これに伴い、それまでは1文字の「真」から2文字の「真智」という本名に改名しましたが、読みは同じく「まこと」としました。僧侶や神官になった際には家庭裁判所は改名を認めてくれます。

僧侶になってさらに教師という住職になる資格を1998年11月に取得しました。そのために、浄土真宗本願寺派の場合は教師教習(きょうしきょうしゅう)という10日間缶詰の合宿研修という「修行」を受ける必要がありました。

教師の資格を取得して数年たって父から継職して2003年4月に住職になりました。住職になって法事や葬儀や月参り(月命日のお参り)を中心になって担うようになりました。2014年5月には、住職を連れ合い(妻)に譲って、坊主となって住職を補佐しています。

僧侶になるための仏教や浄土真宗の勉強をしていく中で、親鸞の生き方に学ぶ必要があることを自覚しました。親鸞は専修念仏への弾圧を体験する中で時の権力への批判姿勢を明確にしていました。この生き方に学ぶとともに地理・現代社会を担当していた問題意識とあわせて社会とかかわる浄土真宗の僧侶としてのありようを追求してきました。

そのために積極的に様々な社会運動にかかわってきました。最初は大学の卒論で対象にしていた岐阜県徳山村(当時)に計画されていた徳山ダムの建設中止を求める会の運動に参加したのです。社会運動の中でも、特に釈迦の教えである「兵戈無用」(ひょうがむよう、軍隊も兵器も用いることなし)を実践するべく非戦平和運動にかかわってきました。東西本願寺を結ぶ非戦平和共同行動の実行委員会に参加したり、沖縄の辺野古新基地建設反対で現地に行ったりもしました。

このように私の生き方は釈迦や親鸞の教を原点にできています。そのためには社会運動にかかわるだけでなく、聴聞や読書や勉強会を通じて思考を深化させる努力を続けています。皆さんにも生涯が学習であるとして勉強を続けて欲しいと思います。



在職時(1980年)の社会科担任団・後列左三浦先生(033期卒業アルバムより)





吾が校友の精神を

「何とかなるぞ。ぽ～ん！」 —スコットランドの「歌」を訪ねて—

(034G) 高松 晃子さん

土足の時代

1982年3月卒です。80年代初頭の小石川は、まだ校舎内を土足で歩き回っていた時代。中庭のテニスコートから教室までは約3歩、まさに「地続き」でした。気持ち的にも、休み時間と授業時間は「地続き」で、みんな飲み物をどーんと机の上に置いたまま、先生の授業にチャチャを入れながら勉強していました。先生を「さん」付けで呼ぶ習慣も残っていました。それだけ、お互いの間に信頼関係が成り立っていたのでしょう。

休み時間になればどこかで誰かが何かを食べていました。私は音研の昼練習があったので午前中の20分休みに「早弁」をしまし、10分休みであっても裏門からダッシュしてセブンイレブンに「スラーピー」を買いに行く強者もいました。「スラーピー」とは、当時のセブンイレブンで売っていたフローズドリンク。さすがに10分で飲み切ることは難しかったですが、今と違って授業開始時刻と同時にいらっしやる先



高松さん 近影



80年代初頭の校門と校舎

生は極めて稀でしたから、なんとなくどうにかなっていたのかもしれませんが。そんなおらかな時代に、立志・開拓・創作の精神を植え付けられた私の座右の銘は「たいていのことは何とかなる」。

歌は家宝

小石川音研での経験をもとに、総合大学の音楽科に進学しましたが、そこで自分の研究テーマにしたのはクラシック音楽ではなく、庶民的な音楽。特に、イングランドやスコットランドの伝統音楽にハマりました。スコットランドには、先祖代々音楽を伝承していて、それもなかなかの腕前の流浪民たちがいます。彼らの現地での呼び名は、「ジプシー」でも「ロマ」でもなく「トラヴェラーズ」。以前、差別的な呼称で呼ばれていたことに反発して、もっと中立的な名を使うよう、彼ら自身が提案した呼び名です。彼らがどんな歌を伝承していて、どんな演奏が「よい」とされるのかを知りたかった私は、「何とかなれー」とばかりにスコットランドに渡り、まずはエディンバラ大学の先生に一人の女性トラヴェラーを紹介してもらって、そこから芋づる式に人脈を開拓していきました。そう、開拓です。小石川精神です。

演奏の評価尺度を知るには自分が習って歌って聞いてもらうのがいいだろう、ということで、気の合うトラヴェラー数人に「弟子入り」して歌を教えてもらいました。そこでは、小石川音研と大学音楽科で学んだ発声は通用しませんでした。地声で真っ直ぐ、所々に風変わりな「コブシ」を入れます。そうしているうちに、あることに気づきました。トラヴェラーたちは、私に歌を教えることは厭いませんでしたが、口を揃えてこう言いました。「この歌は、私たちの前で歌うことは良いけれど、他の家族の前ではダメよ。」「～さんはこの歌のこの歌詞を知りたがっているけれど、教えないでね。」どういうことか？これは？

トラヴェラーたちは、昔は年間を通して移動生活を送っていました。生きるために、季節ごとに仕事を求めて移動するのです。移動は拡大家族単位で行われました。家族の結びつきが非常に強い、でも、移動するためには身軽でなくてははいけませんから、モノはできるだけ少なくする必要があります。「家宝の壺」なんかでは困るわけですが、その代わりに「歌」ならどうでしょうか。だんだんわかってきました。歌は記憶に

刻まれた「家宝」だったのです。目に見えないのですから、盗まれることもなければ失くすこともありません。家宝を継承するために、みんなその家に伝わる歌を真剣に学び、上手になり、そして忘れません。彼らが良い音楽家として高く評価される理由がわかりました。



歌うトラヴェラー

予約者リストは語る

スコットランドは「国」ではありません。英国の中の一つの地域です。しかし1707年までは独立国でしたから、今でも特色ある気風をもち、状況が許せば独立をを考える人も多くいます。統合直後の18世紀前半は特に、スコットランド王家の正当性を主張する人たち（ジャコバイトと呼ばれます）を中心に何度も反乱が起り、そのたびにイングランド軍に鎮圧されました。もっとも大規模な、そして最後の反乱は1745年の「カロードンの戦い」で、これが完全に制圧されたのち、しばらくスコットランド人はバグパイプを吹くことも、ダンスを踊ることも、チェックの服(キルト)を着ることも、とにかくスコットランドらしいことは一切禁止されてしまいました。関わった多くのジャコバイトは、死罪か、よくて監獄送りになりました。

今の私は大学勤めをしていて現地調査をする時間がなかなかとれないので、トラヴェラーの研究はお休み



スコットランドの首都エディンバラ遠景

中です。その代わりに、18世紀前半のスコットランドで出版された楽譜の予約出版について研究しています。予約出版というのは、楽譜の出版を予告し、予約者を募って前もって出版資金を確保する方法です。予約者の名前は楽譜に掲載されますから、地主や政治家や貴族などにとっては良い宣伝になります。予約者リストには、歴史の本に出てくるようなビッグネームもたくさん見つかります。「ジャコバイト」として鳴ら

An Alphabetical LIST of the Subscribers Names.		
A	Alexander Bruce of Kinnaird Esq.	John-Oliver Cromwell Esq. a Books,
THE	Mr. James Burns,	Thomas Craik Esq.
	James Aitken, A. B.	Alexander Cunningham of Craighead Esq.
	James Anderson Esq.	Captain David Cunningham
	Mr. James Anderson Writer in Edinburgh,	Mr. Alexander Cunningham Writer in Edin.
	Mr. Walter Andrie Writer in Edinburgh,	Mr. James Cunningham Writer in Edinburgh,
	David Auldman Esq.	Edwin Thomas Colclough,
	Mr. Adam Auldman Surgeon.	
B	The Rt. Hon. the Lord Balfour, a Books,	
	The Right Hon. the Lord Boyd,	
	Miss Henrietta Baillie of Levingston,	
	Mr. Alexander Baillie, a Books,	
	Mr. John Balfour Bookbinder in Edinburgh,	
	Ronald Bane of Thory Esq.	
	James Balfour Esq.	
	Samuel Ball Esq.	
	R. B. Barber Esq.	
	Mr. George Barrington,	
	Andrew Bell of Craigfield Esq.	
	David Black Esq.	
	John Blackwood Esq.	
	Charles Bellingfield Esq.	
	Hamilton Blair of Blair Esq.	
	Mr. Thomas Blair Merchant in Dundee,	
	Miss Euphane Boucher	
	Mr. John Boucher Writer in Edinburgh,	
	Mr. William Boucher,	
	Gabriel Bowes Esq.	
	Robert Boyd Esq.	
	Archibald Broun of Blairford Esq.	
	Mr. John Brown Merchant in Edinburgh,	
	Mr. Alexander Brown Merchant in Edin.	
	Mr. Thomas Brodie Writer to the Signet,	
	Mr. Alexander Bruce of Kinnaird Esq.	
	Mr. James Burns,	
	William Matthew Burn Esq.	
C	The Rt. Hon. Earl of Cromarty, a Books,	
	The Rt. Hon. Lord Crawford,	
	Mr. Alexander Cockburn of Lauriston Barr.	
	Mr. James Carnegie Barr.	
	Malin Cameron of Kinnaird,	
	Miss Bell Campbell,	
	James Campbell Esq.	
	Mr. John Campbell,	
	Mr. James Campbell Writer in January,	
	Mr. William Campbell	
	Mr. John Carfrae,	
	Mr. James Carruthers,	
	Miss Carmichael,	
	John Carmichael jun. of Saltoun Esq.	
	Mr. George Carmichael Merchant in Edin.	
	Susan Chamberlain Esq.	
	Mr. William Chyze,	
	John Clark, M. D.	
	Mr. William Cleghorn,	
	James Colquhoun Esq. Lord Provost of Edin.	
	Mr. Francis Congdon Surgeon in Edin.	
	Mr. James Coulter,	
	Mr. Richard Cooper Ingraves in Edinburgh,	
	a Books,	
	Mr. Thomas Craik, A. M.	
	Mr. Patrick Craik Merchant in Edinburgh,	
	William Cress of Niddry Esq.	
	Alexander Cress Esq. a Books,	
	Henry Crawford of Almonac Esq.	
	Mr. Thomas Brodie Writer to the Signet,	
	Mr. William Crawford Merchant in Glasgow,	
	John-Oliver Cromwell Esq. a Books,	
	Thomas Craik Esq.	
	Alexander Cunningham of Craighead Esq.	
	Captain David Cunningham	
	Mr. Alexander Cunningham Writer in Edin.	
	Mr. James Cunningham Writer in Edinburgh,	
	Edwin Thomas Colclough,	
D	The Rt. Hon. the Marquis of Drumlayrig,	
	The Rt. Hon. the Earl of Dundee, a Books,	
	The Rt. Hon. Lord John Drummond,	
	The Hon. Hew Dalrymple of Drummae, one	
	of the Secretaries of the College of Justice,	
	My Lady Dick,	
	James Charles Dally Esq.	
	John Davidson of Whitburn Esq. a Books,	
	Mr. John Davidson,	
	Mr. Yealy Davidson,	
	John Deuchar of Drummae Esq.	
	Samuel Dickson Esq.	
	Mr. Richard Dickson Surgeon to the Fulling	
	Man of War,	
	William Douglas Esq.	
	Mr. John Douglas,	
	Mr. John Douglas Surgeon in Edinburgh,	
	Robert Douglas Esq.	
	Mr. William Douglas,	
	James Duns of Leith Esq.	
	William Duke Esq.	
	Thomas Earl Duke Esq.	
	George Drummond Esq. one of the Com-	
	missioners of his Majesty's Excise,	
	Adam Drummond, M. D.	

楽譜予約者リスト (1740年出版)

していた人たちも名を連ねています。ただし、それは1745年より前に出版された楽譜で、それ以後の楽譜には見つけられません。歴史上の出来事として知っていることが、楽譜を通してリアルに実感できます。

15分で終わった卒業式は人生の起爆剤

外履きを手からぶら下げて裸足で講堂に立ち(椅子はなかったと思います)、15分で終わった小石川の卒業式から40年以上が経ちました。勤務する大学では、先日、ガウンを着用してちゃんと椅子に座り、2時間以上も続く厳かな卒業式が挙行されました。それも確かに心に残るものですが、「何とかなるぞ。ぼーん!」とあっけなく放り出された小石川の卒業式、実はあの「ぼーん」が、その後の人生の起爆剤になっているのだと今、わかりました。あとは「鳥人間コンテスト」のように、水面すれすれでも落ちなければいいんです。これからも少しずつ燃料を継ぎ足しながら、新しい景色を楽しんでいければと思います。



聖徳大学学位記授与式で

進む道を「創作」する

(053G) 藤原(野村) なつみさん

立志・開拓・創作

小石川高校での楽しい思い出は両手では数えきれないほどたくさんあり、3年間で出会えた友人たちは今もかけがえない宝物である。きらきらと輝く記憶とともに私を支えてくれているのは「立志・開拓・創作」の校是である。



野村さん 近影

まず志を立て、次に道を切り拓く。続く三つ目が「創作」というのがとてもいいと思う。誰かが示した道を行くのではなく自分自身が進む道を「創作」していこう。私がそう考えられるようになったのは、間違いなく小石川高校で過ごした3年間と校是のおかげである。

私は高校卒業後、回り道を含めた約20年間を経て、2021年に博士(環境学)の学位を取得し、現在は福岡県の大学で教員を務めている。今回の寄稿のきっかけは、博士論文をもとにした拙著「サステナビリティの隘路—『持続可能な消費』の実現はなぜ難しいのか」を上梓したことであった。貴重な機会に感謝しつつ、現在に至るまでの道のりを振り返ってみると、それはまさに「立志・開拓・創作」の連続だった。

文系だが、環境問題を学ぶ

高校時代は日々剣道部の練習に燃え、行事週間になれば体育祭と創作展の準備に燃えていた。昼休みは部活の昼練習に行くことが多かったが、クラスの友人と過ごした時間が特に楽しく心に残っている。20分間の休み時間には早弁をしながら、部活のない放課後にはコンビニで買ったパンやお菓子を食べながら、くだらない話をして笑い転げるのが最高に楽しかった。将来の夢や進路について語り合うこともあった。小石川高校で過ごした3年間は、環境問題に対する社会的関心が高まっていた時期でもあった。1997年には国連気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)が京都で開催され、マスメディアではダイオキシン問題が報道さ

れていた。卒業を迎えた2001年には環境庁が環境省へ改組した。そうした中で、私自身も自ずと環境問題の解決に向けて学びたいと考えるようになっていた。

環境問題は今でこそ学際的領域として認識されているが、当時は「環境問題の解決をめざすなら理系に進むべき」というのが一般的な考えであった。しかし、残念ながら私の理系科目の成績は壊滅的であった。折しも環境問題の解決には理系だけでなく文系を学んだ人材が必要になると言われ始めていたことから、1年間の浪人を経て得意な文系科目で受験し、上智大学法学部地球環境法学科に進学した。大学卒業後の進路についてはっきりとした意思があったわけではない。学びたいことを学んだ先にきっと何かが見つかるだろうと漠然と考えていた。



高校時代の体育祭。クラスカラーはオレンジ

研究したいが、いったん諦める

大学での学びは充実しており、さらに研究を続けたいと望むようになった。しかし、当時の私の問題関心は、「どうして消費者が『ふつうに』暮らしているだけで、気候変動や自然破壊の問題を引き起こしてしまうのだろう」という点にあり、環境法を学ぶだけでは解決は困難に思えた。研究したい問いはあるのに、問いを考えるために何を学べばよいのかわからなかった。

そもそも大学院に進学する経済的余裕がなかったこともあり、研究の道はいったん諦めて東京都内にあるシンクタンクに就職した。このときも、志を持ち続けていればいつかその先に道は拓けていけると楽観していた。剣道部の顧問だった窪谷徹先生に、「研究者に向いている、研究者になれ」と言葉をかけていただいたことも、私の根拠のない自信の支えになっていたと思う。

立志：研究者を志す

社会人になってからも研究への希求は強まるばかりであった。その頃、東北大学が社会人向けに在職のまま修士号（環境科学）を取得可能なプログラムを開設していることを知った。修了後のキャリアプランの見通しがあったわけではないが、様々な業界で働く社会人が集まって学ぶのは楽しく刺激的で、研究を続けたいという思いをあらためて強くした。

2011年3月に大学院を修了した後は、結婚を機に仕事を辞めて夫の勤務地である名古屋に転居した。別居して東京で仕事を続ける選択肢もあったが、悩んでいる中で東日本大震災が起こったことが私の気持ちを後押しした。職を失うのであれば思いきって研究の道に進みたいと夫に相談したところ、意外にも「いいね、好きなことをやりなよ」と大賛成だった。ちなみに夫は、浪人時代に同じ予備校に通っていた小石川の同級生である。人生に無駄はない。

開拓：研究の道に進む

幸運にも転居先の大学で研究員の職を得ることができた。いくつかの研究プロジェクトに携わる中で、研究テーマとして輪郭をあらわしたのは「食の消費行動におけるサステナビリティ（持続可能性）」であった。

時代が進むにつれて環境問題への理解は深まり、環境配慮や省エネをうたう製品やサービスは増えてきたものの、ごく当たり前の暮らしが環境問題を深刻化させているという構造は変わらなかった。主婦でもあった私の率直な気持ちは、「でも、それって消費者だけのせいじゃないよね？」であった。仕事や家事、育児に追われる消費者が、せわしない日々の中で持続可能な消費を実現していくのは困難ではないだろうか。と

りわけ、食の消費についてはその多面性ゆえに問題が複雑化しているように見えた。多くの消費者がサステナビリティの重要性を理解しながらも、実際には持続可能性に配慮した消費者にはなれないというジレンマをどのようにとらえ、打開したらいいのか。いよいよ具体的になってきた問いに向き合うため、2018年に名古屋大学大学院環境学研究科に進学した。

創作：進む道を「創作」する

博士後期課程では環境社会学を専攻した。研究に取り組む過程で、「持続可能な消費」をとりまく議論が社会学分野において本格化したのは2000年代以降であることを知った。振り返ってみれば、私が大学生だった頃にはまだ進むべき道は存在していなかったのだと思う。大学院在籍中に夫の福岡転勤があり、新型コロナウイルス感染拡大が起こった。想定外のことが続いたが、どうにか無事に博士論文を書き上げ、大学教員の職を得ることができた。

現在の研究テーマは、食のサステナビリティである。食の研究は、ごく最近まで栄養学や農業経済学の領域に限られていた。最近、食と社会の関係性に着目する新たな学問領域の発展に向けて、諸先輩方と学会や研究会で議論を始めたところである。ふと気がつけば、これから進む道を「創作」する側に立っていた。

まだまだ道は半ばである。今年も年末に小石川のG組のみんなと集まって「いい1年だったね」と笑い合えることを楽しみに、日々精進しながら道を創り続けていきたい。



著作と論文

特別寄稿

Principal Ito Choshichi and Fifth Middle School: An Overseas Perspective

(伊藤長七校長と旧制第五中学校：海外からの視点)

(マンチェスター大学准教授) **ピーター・ケイブ (Peter Cave)** さん



ケイブさん 近影

紫友同窓会報に寄稿の機会をいただき大変光栄に思います。私は戦前・戦時期日本の学校教育に関する研究を行っていますが、昨年紫友同窓会に連絡し、今年

1月に初めて小石川高校を訪問しました。そこで、戦前の東京府立第五中学校に関連する貴重な資料を拝見し、お話を聴くことができました。なぜ私がこのよう

な研究をしているかということの説明の前に、簡単な自己紹介をさせていただきます。

私はイギリスのマンチェスター大学の准教授として、日本の教育や近現代社会について研究しながら、学部生に日本語や日本の社会、歴史、文化のことを教えています。イギリスには日本に興味を持つ若者が比較的に多く、マンチェスター大学に入学した学生の中で毎年50人くらいが日本語・日本文化 (Japanese Studies) を専攻しています。(入学者の中には海外の国籍を持つ留学生も少なくありません。) 日本語・日本文化を専攻する学部生は、ほとんどみな三年生の時に日本の協定大学で1年間留学します。

私をはじめて日本に行ったのは、昭和時代の終わりのころでした。正確に言うと、昭和62年(1987年)でした。その年、日本政府による語学指導等を行う外国青年招致事業であるJETプログラムが始まり、800人以上の若き外国人が(主に)英語指導助手として日本各地の中学校や高等学校に派遣されました。私もその一人として滋賀県立八幡商業高校に配属されました。英文学を専攻した新卒の私は日本語を全く理解しなかったのですが、同僚、生徒、友達の助けもあり、自分で勉強してなんとか少しずつ理解できるようになりました。日本への興味もわきましたので、滋賀県に3年間滞在した後にイギリスの大学に戻り、さらに日本語や日本文化のことを勉強して社会人類学の博士課程に入り、現代日本の小中学校のエスノグラフィー(密着参加に基づいた研究)を博士論文としてまとめました。その後、9年間、香港大学の日本研究学科に助教授として務め、2007年に現職に着きました。

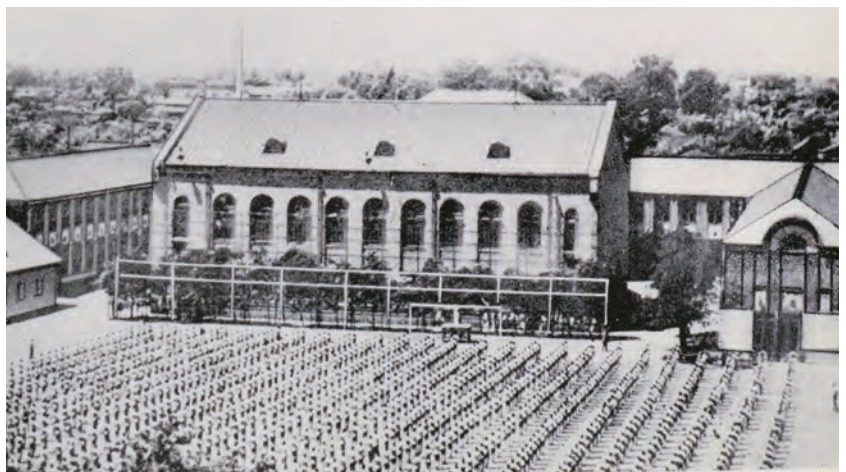
長い間、現代日本の学校教育(特に小中学校)に絞って研究を進めましたが、15年ほど前から近代日本の学校教育や子供たちの生活にも興味を持ち研究対象にしました。まずは戦前、戦時期の学校教育を経験していた高齢者の方々にオーラル・ヒストリー(口述史)のインタビューをして回想を記録しました。また、その背景を理解するために多くの歴史書や学術論文を読みましたが、その結果、英語による20世紀前半の日本の学校教育に関する学術書や論文が少ないということに気づきました。そこで、そのテーマについて本を書こうと思い立ち、文献や資料を集め、現在は執筆の最中です。

興味深いことに、日本の学校教育の成立期である明治時代については英語の学術書も比較的多いのですが、大正期、昭

和初期の学校教育については、断片的な研究しかありません。教育史を含めて明治時代の歴史は大変面白いのですが、20世紀のはじめまでの学校教育(特に中等教育以上)の就学者は比較的少なかったです。そして、明治41年(1908年)に義務教育が12歳まで延長された時点では、終戦まで続いた戦前の学校教育制度は出来上がってはいません。昭和の波乱万丈の歴史を作った人物の多くは、大正期から昭和初期に整えられた制度の下で教育を受けたことを考えると、その時代の教育の実態を知らなければ合わせて20世紀日本の歴史が十分に理解できないことがわかります。

大正・昭和初期の中等教育の歴史を書こうとすれば、伊藤長七校長と東京府立第五中学校の教育実践を抜きにして語れません。戦後日本の学校教育しか知らない人たちが初めて戦前の教育のことを学ぶと、各中学校の校風の多様性や校長先生の校風への影響に驚くことでしょう。したがって、その多様性を十分に描くことは重要です。「スパルタ教育」で規律を維持していた中学校もあれば、生徒の自治を重んじた中学校もあったということを明確にしなければなりません。その中で、生徒の自主自律を珍しいほど重視した伊藤長七校長と府立五中が存在したことは特に意義があると考えます。戦前の中等学校教育の多様性を示すからだけでなく、学校教育の可能性を明らかにするからでもあります。

小石川高校の学校史やそのほかの資料を読みながら、私は伊藤校長の人格や視野の広さに感服しました。それに加え、五中の卒業生がいかに学校で過ごした日々を温かく覚えていたことも印象的でした。中学校の時、よく遊びながらよく学んだ、そして人生の良い友達をたくさん作ったという人が大変多かったようです。自分も教育者としてはそのような教育環境を築きたいと思います。



五中全景 1941年(昭和16年)当時

紫友同窓会のみなさま、こんにちは。2025 年度も小石川 PTA 会長を務める村上雅彦と申します。どうぞよろしくお願ひします。紫友同窓会のみなさまには、日頃より現役小石川生ならびに現役保護者に対し、格別のご配慮・ご支援をいただいていると実感しています。この場をお借りして篤く御礼を申し上げます。

小石川では 2025 年度がスタートし、中等教育学校になって区切りの 20 期生を迎え、全 6 学年が「立志・開拓・創作」の伝統を胸に日々の学校生活を送っています。それでは 2024 年度の PTA 活動を振り返り、いくつかご報告します。

PTA 懇親会

2024 年度も 5 月に開催しました。今回も学校隣接の文京グリーンコートを会場に、110 名を超える方々のご参加をいただきました。現役保護者を中心に校長先生をはじめ教職員のみなさまのご参加も賜り、伊藤博子さん（伊藤長七先生ご令孫）の乾杯のご発声で開会しました。学年の枠を越えて大いに交流を深め、盛り上がりました。先生方からは普段保護者会などでお会いする時とは違うお話をご披露いただき、先生同士の明るいツッコミ合いもあり、発見の連続でした！

PTA 日帰り研修旅行

11 月、観光バスを 1 台借り切り、日帰りバスツアーを挙りました。行先は諏訪。そう、伊藤長七先生のふるさとを訪ねる旅です。コロナ禍による中断を挟み数年ぶりの開催となり、現役保護者・元保護者・紫友同窓会から多数参加しました。諏訪大社、長七先生とゆかりの深い渡辺家住宅（大臣 3 人を輩出）、諏訪湖畔の片倉館などを訪れました。渡辺家住宅の近くの資料館では当代の渡辺文雄館長から直接レクチャーをいただき、たいへん充実した一日となりました。渡辺千秋伯爵（宮内大臣）は東京で、伊藤長七先生をたいそうかわいがり、育てたそうです。

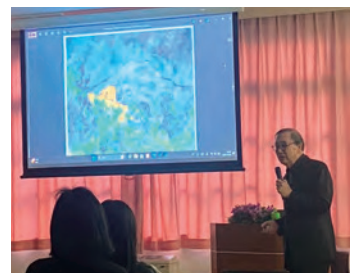
PTA 研修旅行
(渡辺館長の講話)



渡辺家住宅の
見学

PTA 講演会

12 月、恒例の PTA 講演会を開催しました。今回も紫友同窓会のご協力で小石川 O B の建島哲さん（たてはた・あきらさん、1966 年卒・元国立国際美術館長、元京都市立芸術大学学長、現埼玉県立近代美術館長、草間彌生美術館長、多摩美術大学名誉教授）をお迎えし、「リベラルアーツとしての美術」をテーマに講演いただきました。スライド上で絵画など様々な美術作品を示しながら、その作品の持つ意味、本質についてご説明いただき、保護者としては「大学受験科目以外の領域にも目を向け、感性を磨く意義は必ずある」と再認識するすばらしい機会となりました。



PTA 講演会

こんなことも

- ・ 6 月には「お散歩企画」を行いました。2024 年は 7 月に新紙幣発行を控えていましたので、その直前に渋沢栄一翁ゆかりの王子・飛鳥山を半日で巡りました。途中にある和菓子の名店「関の甘納豆」にも立ち寄りました（このお店は小石川の現役教員である関先生のご実家です）。
- ・ 9 月の体育祭にて、今回も熱中症予防のために冷えたスポーツドリンクを全生徒・教職員に提供しました。前年度に続き近隣の本多酒店様の多大なるご協力をいただきました。
- ・ 11 月の授業公開時、初の試みとして「受験生応援企画」を実施しました（小石川では入試を検査と呼ぶので「検」の字を使っています）。PTA ブースを設け、小石川受験を考えている小学生とその保護者向けに、相談コーナー、記念写真撮影サービス（小石川の制服を着て校長先生パネルと）、出来上がるとミニ制服になる折り紙コーナーなどを企画し、大盛況でした。
- ・ 親時の会（おやじの会）は引き続き、学校敷地での草取り、スポーツ、ボードゲーム、山登り、食べ歩きなどの各分野で活動中です。
- ・ 合唱サークル「こいしかわカンターレ」（略称こいカレ）も練習を重ね、ますます力を着けています！PTA 懇親会や、文京区立昭和小学校での合唱祭で素晴らしい歌声を披露しました。

すべてをご紹介しきれないのが残念です。今回はこのへんで…。

旧職員だより

今できる最大限のこと

—「高校生花いけバトル」の思い出—

都立向丘高等学校 国語科 五味亜希子

10年間、小石川中等教育学校でお世話になりました、国語科の五味です。在任中、最後の数年間は、華道部の生徒が同窓会の支援をたくさんいただきました。この場を借りて御礼を申し上げます。



小石川では中学1年生から高校3年生までの、人生で最も多感な時期を過ごす生徒たちとともに過ごすことができ、教員人生の中でも非常に貴重な経験をさせていただきました。特に、最後の6年間は、14期生の担任として1年生から6年生まで持ち上がりで生徒の成長を見守ることができたのは、何よりの喜びです。

途中、コロナ禍を経験し、休校や分散登校、学校行事の中止・縮小、宿泊行事の相次ぐ中止など、困難なことも多くありました。ですが、どんな時も前を向いて、「今できる最大限のことをして楽しもう」としていた生徒の姿に何度も励まされ、また、そこから多くのことを学びました。

また、部活動では、華道部の顧問を8年間ほど務め

ました。華道部は数年前から生徒の希望により、花いけジャパンプロジェクトが主催する「全国高校生花いけバトル」に参加しています。花いけバトルは、5分間で即興で花を生け、その完成度を競うという競技です。華道の文化を多くの人に知ってもらい、日本の花文化の発展に寄与するために9年前から始まりました。

関東大会のエントリーは誰でもできるのですが、小石川の生徒の才能は素晴らしく、在任中に2回の関東大会優勝、2回の全国大会出場、2回の全国選抜大会出場を果たしています。最初に優勝した時には、まさか勝ち残るとは思わず、華道部の指導をしてくださっている草月流の先生と慌てたことをよく覚えております。その時の生徒たちがよい伝統を作ってくれたおかげで、後輩たちも積極的に大会に参加するようになりました。

全国大会は毎年香川県で開催されており、出場が決まった後、生徒の旅費につきまして、同窓会から多大なるご支援をたまわりました。2回目の出場の際は、おかげさまで全国優勝を果たすことができました。ネットニュースにも取り上げていただきましたので、目にされた方もいらっしゃるのではないかと思います。花いけバトルに参加することによる生徒の成長は目覚ましく、同窓会の支援があってこそその成長であったと思います。

勉強だけではなく様々な才能を発揮する生徒とともに過ごせた小石川での経験は、かけがえのないものでした。10年間、ありがとうございました。

かけがいのない経験と たくさんの感動

東京学芸大学付属国際中等教育学校 教諭

小川 一美

ゆかりの皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

11期生が2年生の時に着任して以来8年間、小石川中等でお世話になりました。その間いろいろな方に助けていただき本当に感謝しています。

11期では後期生から3年間、18期では前期生の1年間だけ、担任として関わらせてもらい、生徒の皆さんからはたくさんの刺激をもらいました。

11期生が5年生の時にコロナに見舞われ、新学期

当初は分散登校でクラス全員がそろわなかったこと、海外修学旅行はもちろんのこと国内修学旅行も実現できず、創作展でもさまざまな規制を受けたこと、改めて思い出されます。しかし、卑屈になることもめげることもなく、自分たちの力で学校生活を創り上げていたように思います。社会が不安定だった時だけに、ある日生徒に「これから就職するときとか先行き不安に感じない？」と聞いたら、「先生、今の時代これがあれば何だってできますよ！」とスマートフォンを高々と掲げた生徒の姿が忘れられません。きっと、今現在もこれからも、己の才覚を武器にそれぞれの人生を切り拓いていることと確信しています。

18期生との思い出といえば、やはり創作展と合唱発表会などの学校行事でしょうか。早朝や放課後、休日の当番など、一緒にいる時間をとおして徐々にクラ

旧職員だより

スが出来上がっていく濃密で豊かな経験をさせてもらいました。合唱発表会の頃は、離職するかどうかの選択に迷っていた時期でもあったので、旧2年D組の自由曲「あなたへ」の歌詞は、私の心に強く響くものがありました。順風満帆ではなかったけれど、合唱委員や指揮者・伴奏者の熱い思いとクラスみんなの思いが交互に行き来しながら出来上がった、素晴らしい合唱曲でした。小石川での最後の担任、最後のクラス、一生忘れることはありません。皆さんからかけがえない経験、たくさんの感動を味わわせてもらったこと、ありがとうございました。

今こうして小石川での生活を離れてみると、都立小石川中等教育学校がいかにか稀有な学校だったかと思われ知らされます。生徒の質の高さはもちろんのこと、高度な教育、さまざまな挑戦ができる土壌や機会、本当に多種多様なことやものが溢れていました。そのような知性ある場に関われたことは、私の人生の貴重な財産です。これを糧に、まだまだみなさんに負けないように、私も実現したい夢に向けて挑戦し続けます。

最後になりましたが、小石川の皆さん、紫友同窓会の皆様のますますのご活躍とご多幸を祈念いたします。

小石川での7年間

都立八丈高校 教諭 山崎 悠賀

小石川には平成30年度に着任し、初任校としては長めの計7年間お世話になりました。1年間広報部を担当し、2年目より中等14期生の担任として6年間、生徒の成長に携わることができました。現在は東京から南へ約300kmにある、八丈高校で教えています。それまで私立校に勤めていた私にとって、都立校という環境から学ぶことは多々ありましたが、その中でも特に「教える」ことの本質的な喜びと、自らもまた成長させられていることを実感した小石川生活でした。



小石川で初めて教壇に立った日、生徒からの鋭い質問に私は歯が立ちませんでした。私の予想を遥かに超えてくる小石川生のハイレベルな疑問と刺さるような目線に、私は驚きと畏れに近い感情を抱き、自分の未熟さを思い知らされました。小石川で教壇に立つとはこういうことなのだと思ってもって実感した私は、その経験以降、教材研究をこれまで以上に入念にするようになりました。すると、準備を丁寧にすればするほど、授業の中に議論が生まれ活発で面白いものになり、スポンジのように知識を吸収して自分のモノにしてゆく生徒の成長を実感するとともに、自らの成長もまた実感でき、教職という仕事の面白さを体感しました。

小石川生活の中で、私が生徒に言い続けてきた言葉があります。それは、「やらずにする後悔とやってからする後悔なら、やってからする後悔のほうが価値がある」ということです。小石川では大会やコンテスト、海外留学など様々な経験に参加し挑戦する機会に恵まれていますが、小石川生は皆多岐に亘る興味関心を持っていて、学業や課外活動で多忙なあまり、興味を惹かれる何かがあっても理由をつけて手を挙げなかったり、失敗するのを恐れたりして挑戦しない生徒もいます。「何かをやらずにあとで『やっときゃよかった』と後悔しても、その時間は決して帰ってこない。でも何かをやってから『やらなきゃよかった』と後悔したとしても、同じ間違いを繰り返さないようにするか、失敗したときの心構えなど、そこからは次につながる学びが必ずある。」小石川生諸君にはこれからも迷ったら、恐れず果敢にチャレンジする姿勢を大切にしてほしいと強く願っています。

最後に、小石川で特に思い出に残っていることをいくつか列挙します。表彰式が非常に長くて驚いたこと。自身のJICA経験を小石川フィロソフィーやグローバルカフェで生徒に還元できたこと。コロナが直撃してオーストラリア語学研修に行けず、いろいろ苦労したこと。そこから新たなものを生み出す小石川生の発想力とパワー。顧問だった剣道部と吹奏楽部。担任団4人変わらず、6年間チームを組めたこと。卒業式の日、生徒の6年間の成長をひしひしと実感できたこと。7年間、振り返れば大変な日々も良い思い出です。また在職中は剣道部・吹奏楽部をはじめ、紫友同窓会の皆様には多大なるご支援を頂戴いたしましたこと、感謝申し上げます。今後も小石川生の活躍を心よりお祈りしています。

2025年度大学入試合格者数(現浪合計／現役)

(R7.4.9現在)

国公立大学	現浪	現役
北海道	7	6
東北	1	1
筑波	8	8
千葉	4	3
埼玉	1	1
お茶の水女子	1	1
東京	16	16
東京科学	7	6
東京学芸	1	1
東京藝術	3	1
東京農工	2	2
一橋	3	3
横浜国立	3	2
電気通信	1	0
都留文科	1	0
信州	2	2
京都	6	5
神戸	1	1
富山	2	0
山口	1	0
九州	1	1
国際教養	2	1
会津	1	1
前橋工科	1	1
東京都立	2	2
横浜市立	2	1
大阪公立	1	1
国公立大学合計	81	67

上記、国公立大学・大学校のうち

医学部医学科	現浪	現役
信州	2	2
富山	2	0
千葉	1	0
山口	1	0
横浜市立	1	0
防衛医科大学校	2	2
合計	9	4

私立大学	現浪	現役
青山学院	16	15
麻布	2	1
岡山理科	1	1
学習院	9	8
神奈川	1	1
北里	5	5
杏林	2	1
慶應義塾	29	24
工学院	4	3
國學院	3	3
国際医療福祉	1	1
国際基督教	1	1
国士館	3	3
駒澤	1	1
芝浦工業	18	16
順天堂	6	5
上智	24	23
昭和女子	1	0
成蹊	1	0
成城	5	5
聖路加国際	1	1
専修	4	3
玉川	1	1
多摩美術	1	1
中央	26	22
東海	1	0
東京医科	1	0
東京家政	4	0
東京女子	1	0
東京電機	1	1
東京都市	9	9
東京農業	6	6

文部科学省所管外の大学校

大学校	現浪	現役
気象大学校	2	2
防衛医科大学校	2	2
防衛大学校	1	1
合計	5	5

私立大学	現浪	現役
東京薬科	3	2
東京理科	58	47
東邦	1	0
東洋	19	18
日本	10	8
日本獣医生命科学	9	5
日本女子	2	2
日本女子体育	2	2
日本体育	1	1
文教	1	1
法政	17	11
星薬科	3	3
武蔵	1	1
武蔵野	2	2
武蔵野美術	4	2
明治	59	50
明治学院	4	3
明治薬科	3	2
明星	1	1
立教	33	30
早稲田	63	50
私立大学合計	485	402

上記、私立大学のうち

医学部医学科	現浪	現役
杏林	1	0
順天堂	1	0
東海	1	0
東京医科	1	0
東邦	1	0
合計	5	0

海外大学	現浪	現役
テンプル大学	1	1
合計	1	1

同期会・クラス会

013 G クラス会

日時：2024年4月20日（土）12時～15時
場所：文京区本郷ホテル機山館、参加人数：18名
幹事：齋藤靖男、飯田 汎、阿部（栗山）エツ

2022年に予定していた「傘寿記念クラス会」はコロナ禍で開けなかったため、あらためて傘寿を祝いました。そのうえで、今回をもって最後のクラス会とすることにしました。政治から経済に関心に移る昭和30年代に在学した生徒が集い、当時の思い出話に浸り、未来に思いを馳せた貴重なひと時を過ごして、締め括りました。なお、会費の残金は、同窓会の「みらい基金」に寄付しました。



【開催後記】 4月の同期クラス会から八ヶ月経った、年末12月に横浜・川崎地域の在住者が集い、最終同期クラス会の幕引きを行いました。懐かしく過去を顧み、未来に思いを馳せて一文を残しました。

もはや戦後でないと言われた昭和30年代になり、私達は駕籠町の立派な校舎で勉学に勤しむことができました。時代は政治から経済に関心に移る昭和33年～36年に在学した生徒が集い、当時の思い出話に浸り、現代社会の憂いを語り、未来に思いを馳せた貴重な一時でした。4月の最終クラス会の開催以降も、小人数での集いが催されたとのこと、卒業後60年余りの激動の時代を振り返り、後進の方々の未来の一層の発展を期します。

「戦後時代パラダイムに生きた意義」

◆ 高校入学当時の時代風景

昭和33年晩秋（高1）、皇太子妃の発表に次ぐ、翌34年4月のご成婚式、国を挙げての慶事に新時代の到来を感じました。この頃、天皇ご一家は空襲で宮城の被災した終戦前の時期以来、皇居内の御文庫（防空用建物）に住まわれておられました。厚いコンクリートで覆われ、湿気が多く、健康に気遣われて側近がしばしばご住居の新築を進言しましたが、国民が貧しい社会を配慮さ

れた陛下はお許しにならなかったのです。漸く吹上御苑内に御新居の新築を許可されたのは昭和35年（高3）です。竣工時には、心よりお喜びになられたと伺います。古代の仁徳天皇の民の竈（かまど）の話のように、天皇のお人柄と国柄に品性を感じた高校時代でした。昭和35年には岸信介首相の下で日米安保改定が行われ、国中が反対で騒然となりましたが、お蔭で今日に至る平和社会が到来します。

そして同年池田勇人首相により所得倍増計画が出され、社会の関心は政治から経済に遷ったのです。

◆ 高度経済成長から挫折の発端

〔戦後 前半40年の興隆〕

その後の高度経済成長時代に次いで、地球環境の時代を経て、80年代には技術革新の進展が経済社会の発展に寄与します。わが国が経済大国の途を進む中で、米国に貿易赤字をもたらすと、戦後40年を迎えた昭和60年、先進5カ国による「プラザ合意」がなされ、米国製造業を守る円高ドル安路線で日本は急激な円高になり経済の潮目が変わります。政府による低金利政策のもとで、バブル景気が発生して国民の心を財テクに走らせました。

◆ 平成時代に变化した国民の心性

〔戦後 後半40年の衰退〕

平成期に入る80年代末期に世界は冷戦の終結を迎えます。戦後の40年間、冷戦下に緊張感一杯に、実直な国民がまじめに働き、世界がうらやむ経済大国となったのも束の間、土地の値上がり総量規制で、一転バブル崩壊に陥ります。企業業績は落ち込み、不良債権処理が遅れ、景気回復しないまま消費税を引き上げるとデフレに陥ります。

2000年代に、政府は行政改革や構造改革に挑みますが、経済の効率化を誘う製造業の海外移転などグローバル社会風土の中で、長期不況から抜け出せず、今日に繋がるのです。長い停滞の理由は、経済に限定したことでなく、90年以降から顕著に、日本国民の心性劣化が見られるのです。無気力、自己中心、公精神の喪失です。わが国は古代から共同体を大切にしてきました。他者を尊ぶ“利他の精神”あつての経済活動です。社会の長期不況の理由を挙げれば、様々なことが思い当たります。

負の心性の蔓延（自分本位、贖罪意識、無責任など）、誤った歴史観と経済政策、共同体意識の希薄化、グローバルイズム・株主資本主義、海外生産に伴う国内産業の疲弊、近隣諸国の発展と国内イノベーションの不発などです。こうした変化の中で、他人への気遣いが希薄化し、自分本位になり過ぎた観があると言えましょう。

◆ 平成長期不況時代からの脱却

〔新時代パラダイム転換への挑戦〕

政権交代で混乱する 2011 年、未曾有の東日本大震災が日本を襲い、再登板の安倍政権下に敷かれた経済政策により長い円高不況は終わります。7 年余の長期政権下で、政府主導の国力回復過程に入るも社会基盤は盤石とはならず、社会道德の混乱からの甦生なくして停滞は抜け出せません。

その第一歩は、95 年の戦後 50 年談話からの脱却です。真実でない歴史に基づき、以後の政権がこれを踏襲し、談話が定着した観があります。戦後 70 年談話で正そうと試みましたが、周辺国に気遣い、同政権も 50 年談話を踏襲せざるを得ず、戦争を知らない子供達にこれまでの謝罪慣行を残してはならないと、国際社会を説得し幕引きをしました。歴史の真実を伏せては贖罪意識を払拭できません。

二番目は、失われた過去の誇りの回復です。20 世紀前半は日本の活躍で人種間差別が撤廃され、戦後の地球社会に至福の文明をもたらしました。後半は、資源のない国でも、勤勉・実直に働くことにより世界一になれることを実証した功績を誇りとすべきです。

◆ 令和新時代にかける期待

〔日本文明 未来への挑戦〕

文明評論家の村山節氏は東西文明 800 年交代説を世に出し、西暦 1200 年以來続いた西洋文明優位が崩れ、2000 年が文明の交代期に当たると言われ、現下の世界にはその予兆が伺われる。日本が未来の東文明 800 年の盟主であるには、新たな目覚めが必要です。人材育成大転換への時機到来です。

国内外に難問が山積する中で、日本人の心に火を点け、未来に生きる後進の方々と共に“立志・開拓・創造”の躍動感を体感できれば、この上ない喜びとなりましょう。
(文責 飯田 汎)

015 E クラス会

日 時：2025 年 4 月 2 日 (水)

会 場：巢鴨 カフェ・ポート・グラスゴー

出席者：16 名 秋元、大井、石島(大木)、小原、金山、栗山、藤田(黒沢)、駒野、高瀬、鷹野、戸叶、長洲、竹内(野村)、刈屋(原田)、石川(平井)、脇田

幹 事：戸叶、大井

卒後 60 余年。今回は、80 歳突破を記念して 3 月誕生の最後の一人を待って催されました。本会は、23 回目を迎え、近年では年に一回開催されています。

会場は、巢鴨駅からの通学路に近接のカフェを選び 12 時より開催。俄かの風邪とか足腰の痛みで遠出は勘

弁など直前まで出欠表明に多少の動きはありましたが、最終的な参加者は、逝去 (10 名)・不明者 (4 名)を除いたメンバー 36 名中 16 名でした。

カフェの丸テーブル、角テーブルにそれぞれ 4 人、5 人、6 人に別れて着席、早速お喋りが始まりました。

先ず、前回の開催以降に逝去された 2 名に献杯、80 歳を無事に突破した一同の乾杯と進み、大皿に盛られた料理を取りに立つ者は暫くの間は無く、皆話に夢中。その内容といえば専ら誰にでもある日常の不具合とその対処法高校時代のエピソード、欠席者の動向などでした。続いて各人の近況報告に移りました。ほぼ物心ともに充実したハッピーライフの下で賢く爺婆に徹した日々の様子がかがえました。

その中で、つい最近、癌の手術を受け抗がん治療を続けているとか毎日 20 錠 (サブリン?) 服用しているとか明るい口調で語られたのが印象的でした。予定の歓談時間はフル 3 時間、歳相応に食が細り酒量も落ちるところか、大皿は完食、空瓶が床に列をなし皆元気そのもの、ゆっくり過ごせたお蔭で二次会は無し。

次回幹事 (脇田、石川 (平井)) も決まり来年の再会まで健康維持を誓って解散となりました。



017 H クラス会

2024 年 10 月 19 日にクラス会を東池袋のイタリアン「何駄感駄」で行いました。

参加は 16 名でしたが、12 時半～午後五時近くまで 2 次会も兼ねて行いました。マイクをまわして今の自分を、今何をして一日を過ごしているかなどをお話し頂きましたが、こんなにも自分の話をするかと思うくらい色々お話くださり、一回一周して再び 2 回マイクをまわして二度も御自分のお話を生き生きとお話し頂き、あつという間に時間が過ぎてとても楽しいひと時でした。

そこで幹事さんの了承のもと、その時の集合写真と我がクラスのスター、鳩山由紀夫氏の写真を同封いたしました。掲載していただけたらありがたいです。

また、来年も 10 月にクラス会をやる予定であります。なお、担任の山名盛義先生は数年前にお亡くなりになり残念です。色々な個性を持ったクラスメイトを持ってとても幸せです。
(中村紀美子)

追伸 誠に勝手ながら「何駄感駄」とは私が家族経営をしております東池袋（有楽町線）に在るお店です。



020 B クラス会

日 時：2024年11月16日（土）15時～18時
場 所：京橋千疋屋レストラン「BIWAWA」
出席者：17名 幹 事：戸田（鏡）典子

2008年の開催以降、ほぼ毎年この時期に級友T君とのご縁でこのお店でクラス会を行って来ます。十数回に及ぶ開催で出席者も徐々に固定化してきましたが、本年は数年ぶりや初めての出席者もいて例年を上回る人数の賑やかな集いでした。

お店ご自慢のフレンチのコース料理・フルーツ等を堪能しつつ、近況報告などを語り合いましたが、本年度後期高齢者となる私達、運転免許更新時の認知機能検査を受検済みの数名からの体験談などホットで関心の高い話題も有って盛り上がり、楽しいひと時を過ごしました。

既に8名が鬼籍に入り、健康面などから常連メンバーの連絡が途切れたりしてる昨今ですが、出席者同士「来年またね…」などと声を掛け合い、翌年もこのお店で開催予定のクラス会に元気で会える事を各々心に期して散会しました。（発起人：野村春紀 記）



021 G クラス会

あと半年もすれば後期高齢者に仲間入りする我等21G組メイト。立冬も過ぎた2024年11月12日、『会える時に会おう』を合言葉に17名が「紫友スタジオ」目指して参集しました。

この日は、『献杯で 始まる会や 秋深し』（吟歩）のとおり7月に心不全で逝去した円谷千恵子（旧姓野村）

さんを敬い偲ぶひと時からスタートしました。故人のご子息がおいで下さり、晩年の様子を伺いながら全員でご冥福を祈りました。

その後はスタジオの室内所狭しとテーブルを囲み、仕出し弁当や飲物を胃袋に流し込みました。卒後60年近くを経て、やれ変わったの、変わらないのとお互い持ち上げつつ、褒め殺し気味に近況報告花盛りで、歓談の時は瞬間に過ぎてゆくのです。

また大事なことは、気兼ねなく旧友との交流ができ、安心して使わせてもらえる「紫友スタジオ」の有難味を痛感した機会でもありました。

『進むたび 逃げ行く雲よ 天高し』

吟歩が詠んだ清々しい秋の一日、ほろ酔いメンバーは暮れなずむ中、また逢う日まで元気でと家路への歩を進めました。ここに掲載した俳号「吟歩」の正体は三瓶幸司さんです。（鈴木由美子 記）



030 D クラス会

日 時：2024年5月25日（土）
場 所：鮎いち 巣鴨店
出席者：15名 幹 事：村川雅彦

今から15年前の2009年2月、「50歳になる前にクラス会を始めましょう！」と立ち上げた030D組のクラス会ですが、今年も5月25日に巣鴨で開催しました。コロナの影響もあってしばらく開催を見送り、昨年4年振りに再スタートしたものの、参加はわずか8名。それが今年は15名も集まって、賑わいをみせました。クラスは46名でしたので、3分の1が参加したことになります。これは、コロナの間は企画、延期の連続だったにもかかわらず、連絡を取り続けてくれた幹事の村川君のおかげです。本当に感謝感謝です！

会合では、近況報告での〇〇自慢から懐かしい高校時代の思い出まで、話題は尽きることなく、3時間がアツという間に過ぎました。

さすがに見た目は少し(?)変わりましたが、人となりは昔のまま変わることがありません。変わらないといえばお酒の量も。年齢を考えればそろそろセーブしなければならないところですが、やはり年に1度の顔合わせとなれば徐々にペースも上がり、写真のようにテーブル

同期会・クラス会

の上はグラス、ジョッキの山となりました。来年は全員が65歳となり、サラリーマンであれば定年を迎えている年齢。さらに参加者が増え、また新しい話題で盛り上げられることを楽しみにしています！（記：西海枝 徹）



034 C クラス会 還暦祝賀・追悼花火

日 時：8月3日（土）19時～20時半

場 所：第65回いたばし花火大会

出席者：5名+F組1名 幹 事：井坂

034期生の還暦を祝って「尺5寸玉」花火を打ち上げました。本来は昨年の予定でしたが、火災で大会が中止となってしまったための再挑戦でした。皆の見守る中で小石川の校歌が流れ、無事、私達の還暦祝賀花火が上がりました。



044 B クラス会

日 時：2024年10月12日（土）18時～21時半

場 所：ニューオータニイン東京「舟茶屋」大崎

出席者：10名



昨年同時期に開催した時と比べて参加者は減りましたが、その分みんなと濃密に会話できて良かったと、好評でした。お昼からは、女子数名で事前に女子会も開催して、大変盛り上がりました。

044 E クラス会

日 時：2024年7月27日（土）18時～21時

場 所：魚や池袋店

出席者：28名+オンライン1名

幹 事：石川、後藤

50歳を過ぎ、さすがにここらで腰をあげないともう集まらないのではないかと危機感もあり、1年前に開催日を勝手に決めた女子グループから端を発して、四半世紀ぶりのクラス会開催となりました。場所は小石川生懐かしの池袋ロサ会館内。クラスの女子19名・男子30名のうち、出席は男女各14名ずつの計28名、そこに北海道在住の穂積くんがオンラインで参加しました。

とにかく久しぶりということで、名札が欲しいという要望があつて用意しましたが、顔を見ればあつという間に高校時代を思い出すことができました。

まずは酔っ払う前の綺麗な状態で、澤田くんのカメラによる記念撮影を済ませました。

乾杯は村井くんにお願ひし、はじめの1時間は出席番号順に、碇さんから自己紹介。卒業して32年、見た目も高校時代の面影はあるとはいえすっかりおじさん・おばさんですが、話す口調は変わりません。途中席替えもして3時間があつという間でした。

出席が叶わなかった担任の岩田先生に、一言ずつメッセージを書いた色紙を作成。幹事も決めて、次回開催を3年後の2027年7月某土曜日で決定。再会を約束しておひらきとなりました。

今回参加できなかった人、連絡がつかなかった人は、ぜひ次回開催時にお会いできたら嬉しいです。もしこの記事をご覧になったらぜひとも紫友同窓会事務局までメールで問合せいただき、後藤までご連絡ください。待っています。



2025年度に同窓会 HP に届いたクラス会報告

037 Bクラス会

日 時：2025年5月5日（土） 17時～22時

場 所：トラットリア イタリア 文京店

出席者：18名 幹 事：矢野／川瀬、高畑、小林

クラス内結婚した幹事2名の結婚式二次会以来、32年ぶりのクラス会でした。来年還暦学年同窓会の準備を進めており、名簿を整備する中で30名に連絡が付き、久し振りに18名が集いました。18名中3名は遠方から宿泊付きで参加しました。



まず「0次会」として、今回存在を知った紫友スタジオを使わせていただき、当時の写真と現在を見比べながら、のっけから昔話に盛り上がりました。17時からの「一次会」はトラットリアイタリアで。その後、公式にアナウンスしていた「二次会」を22時過ぎまで。さらにこのあとも、一部の同級生は日付が変わるまで巣鴨で騒いでいました。来年は 秋予定の還暦学年同窓会の前に、再びクラス会を実施する予定です。（矢野 記）



016 Bクラス会

日 時：2025年5月23日（金）

場 所：グリル満点星 新宿店

出席者：15名 幹 事：渡辺直彦

コロナ禍で2019年5月以来延期していたクラス会を、6年を経て漸く開催しました。今年は卒業して60年が経過し、年齢が80歳になる節目の年であり、15名（二

次会参加を含む）の出席を得て、久し振りの再会を喜び皆で語り合いました。

話題は健康・仕事・趣味などのほか、在校時の懐かしい思い出話に花が咲き、楽しいひとときを過ごすことができました。今後はこうした公式的なクラス会には終止符を打ち、親しい仲間同士が小規模で集まれる形式に適宜変えていくこととして散会しました。

（文責：渡辺直彦）



030 Aクラス会

日 時：2025年5月31日（土） 17時～

場 所：神保町 Italian Dining Quirinale

出席者：12名 幹 事：武部信隆

コロナ後に再開されたクラス会、今年も高齢者2年目を記念して、12名の参加で行われました。来年も5月最終土曜日に開催予定です。

012 Eクラス会

日 時：2025年6月19日（木）

場 所：KKRホテル東京 レストラン「芙蓉」

幹 事：庄司、前川

卒業後65年目のクラス会、出席者は上塚、木村、中島、山崎、行田、井戸、庄司、前川の8名でした。1年振りでしたが、それぞれの経験を語り合う合間に、US スクールの話から人の生き死にとの出会い、日本の学位システム、混沌する世界情勢まで。良い仲間達と出会ったことを思い起こす時間が過ぎました。



022期 第四同期会報告

古希もとっくに過ぎた我ら 022 の集結地は、若き日の想いが詰まる「六義園」とその周辺に決まった。さわやかな五月と呼ぶにはやや暑すぎる 2025 年 5 月 21 日、題して「僕たち、私たちの園遊会」はスタート。



六義園心泉亭で (A 組(上)・H 組(下))

まばゆい新緑の下、午前中はクラス毎に集合して懐かしい園内の散策を楽しみ、お借りした茶室「心泉亭」では E・H 組有志による新茶とお菓子のサービスがあった。老人にはなにより日陰と水分が必要、外の景色と居心地の良さと合わせて、予想以上の好評を博した。

午後は文京グリーンコート内の中華料理「海外天」に会場を移し、長野さん (A) 持参の鐘の音を合図に第四同期会は勝見君 (B)、鈴木さん (H) の司会で幕を開けた。参加者は予測をはるかに上回り、会場目いっぱいの 87 名だ。前日まで店との交渉や座席の配置に別府君 (A) が尽力した。

まずは逝去者への献杯、続いて幹事会会長代行の柳川 (G) が前回までの会長を担った塚田成二郎君 (H) への謝意を伝えて乾杯！「僕たち、私たちの園遊会」は開宴した。心尽くしの料理と酒を堪能する中、今回、前回までのお約束『病氣・孫・介護』の話をしていない』を取り払ってお土産に配った名簿とフォトブックを片手に、興に乗った者がテーブルを動き回り、そこかしこに思い出話の輪が広がる。歓談が佳境に向かう中、司会陣が“部活よもやま話”へとタクトを振った。



まずは昨年創部百周年を祝った伝統のサッカー部。杉測君 (D) のリードで所属した面々が思い出を語り、ラグビー部と野球部が加わってのグラウンド争奪秘話。さらに卓球部、水泳部も参戦してグラウンドの土のニオイ、体育館の汗のニオイ、プールのニオイが懐かしい。



サッカー部の面々

続いては、孤高の数理研が 1968 年の創作展で展示したタタミー豊分ほどもある大きな「ビー玉計算機」の逸話へと。西村君 (B) の片手を使った巧みな導入もあって一気に二進法の世界へワープする。何か凄いことやっていたんだ。



数理研の紹介

掉尾を担ったのは軽音楽研究会。話よりもやっぱり演奏を！と司会陣が促すと、浅見君 (A)、天野君 (I)、大勝君 (D)、渡邊君 (I) の即席クワルテットで口三味線ならぬ口ラップが始まった。

曲は“In the mood”甘美なグレン・ミラーのサウンドが会場に響き渡ると中庭の「リトルストーンズ」が甦り、参加者の手拍子そしてエンディング、Bravo! 場内興奮に包まれる。



リトルストーンズの口ラップ

トリを務めた並木君 (E) の同窓会からのアピールを心に納めて♪人生の扉♪フルコーラス。またな！またね！名残惜しくも終宴！撮影班、栃久保君 (H) の集合写真には、満ち足りた顔が並んでいる。すべてのプログラムを終え 2 次会へと向かう道すがら、ようやく深緑のさわやかな風が参加者の頬を撫でた。

(文責 G 組 柳川弘行)



司会の横内(鈴木)さんと勝見君



お土産のフォトブック

クラブ つながり

ジャズマンにして心理学者 望月 昭さん 逝去

軽音楽研究会

テナーサクソ奏者で我がリトルストーンズのコンサートマスターだった021E望月昭さんが2021年10月にご逝去されていた事が分かりました。

望月さんは、我々022期が一年生の時のコンサートマスターであり、直接の指導を受けた一年先輩でした。まったくの素人だった我々を随分と公平に扱ってくれました（ご本人は相当うんざりしてたと拝察します）。



艶やかな音色と輝くコーンのテナーを持った、オトナじみた、東京っ子のユーモアと知性を兼ね備えたインテリでした。最先端のアイビールック、顔立ちは日本人離れて、髪はややカールのかかったおしゃれな印象。常にユーモアを忘れない独特の語り口で、スウィング・ジャズのメロディやハーモニーを表現しながら教えてくださいました。「楽器は動くアクセサリ」が口ぐせで、重いテナーサクソを持ち歩くことも厭わない、軽快なフットワークの持ち主でした。

望月さんの企画により、中庭でのジャズコンサートをたびたび開催しました。また芸能祭では、軽音研演奏のコーナーの司会を務められました。我々が1年の芸能祭の時、それぞれソロを取る時のフレーズをアド



旧校舎中庭での演奏（1967年）・前列右から2人目、望月さん

リブならぬ書きリブで作曲され、それは、ブルー・ノートを散りばめたカッコいいフレーズでした。高校2年でブルー・ノートの何たるかを知っていたのですね。

長野県白馬村での夏の合宿では、5日間の期間のうち、ジャズ演奏の練習に疲れると、望月さんの提案で半日を使って近くの青木湖に遊びに行き、みんなでポート遊びに興じました。その切り替えの速さは見事でした。



発見された録音テープ

2018年に我々が2年の時（1968年）の芸能祭の録音テープが天野君の自宅で発見され、彼がそれをデジタル化し、鈴木君と渡邊君でCDを作り同期全員に配布しました。MCを務めてくださった望月先輩にプレゼントしたいと、立命館大にコンタクトしましたが連絡先を教えてくださいませんでした。それがいまでも悔やまれます。この頃から闘病生活だったようです。

高校卒業後は御尊父と同じ道に進まれ、大学、大学院で、父子二代にわたり、心理学を研究されました。「対人援助論」という新しい分野を開拓され、その分野に大きな足跡を残されました。心理学博士（慶應義塾大学）。その後立命館大学及び同大学院の心理学教授として、また立命館大学・人間科学研究所所長として活躍されました。近年は同大学の名誉教授。関西の心理学関係者は望月さんのご逝去を悼み、追悼文集が出されました。その目次を見るだけでも、多くの人々に慕われていたことがわかります。享年71才。

もうそろそろ小石川のジャズの世界に戻ってきてくれるのではないかと期待していただけに、その早い逝去が惜しまれます。

合 掌 22期 Little Stones メンバー一同



茶道部創部六十周年記念茶会

茶道部

小石川茶道部同窓会として、2024年5月12日、文京区護国寺で開催の東京茶道会で懸釜をしました。

2015年4月に茶道部創部五十周年を記念して護国寺で懸釜をしてから約10年、月日の速さに驚きながら準備に取り掛かりました。今回も東京茶道会の理事をされている佐藤文昭先生（故佐藤節先生の御子息）のお力で懸釜が実現しました。そして今回の懸釜で心強かったことは、創部五十周年の茶会を機会に茶道部同窓会「むらさきの会」が復活し、また、「むらさき」の集いの中で、ほぼ隔月にお稽古を続けてきたということです。コロナ禍等10年近い間にはいろいろなことがありましたが、高校卒業生ばかりでなく中等教育学校卒業生もメンバーに加わりお稽古を続けてきました。

お茶会をめざし点前を担当する者は、2月から毎月1回集まってお稽古を重ねました。席中の亭主は現在もお稽古を続けている者が、お運びは現役の生徒さんた



ちも担当しました。また、洗い物などの水屋仕事を担当した者も「むらさき」の集いで顔を合わせた同士でした。

床の掛物は、大徳寺第512世浩明老師筆「萬歳緑毛亀」です。

“亀は万年”と言われますが、その長生きした亀は緑色の毛が生えてくるという長寿を寿ぐ言葉です。創部六十周年を祝い、さらに茶道部が発展してほしいという気持ちをこめて掛けました。

青貝唐子蒔絵の香合や唐子遊の茶碗などのお道具は、茶道部で集まって先生を囲んでお稽古に励む姿を思い浮かべて使いました。お菓子は、学校近くの榮泉堂岡埜製で紅餡の薯蕷饅頭。「嘉辰」と銘をつけました。和漢朗詠集の一節「嘉辰令月歡無極」(かしんれいげつかんきわまりなし)よりとりました。大意「このめでたくよい時節にあたり、私たちの喜びは果てしがありません」というもので、創部六十周年を喜ぶ気持ちをこんなふうに表示してみました。

当日は天候にも恵まれ、たくさんのお客様に楽しんでいただきました。

小林(石井)篤子(031D)



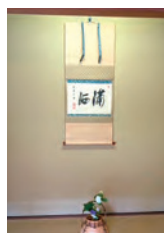
創部六十周年記念茶会を催して

都心に位置しながらも庭園の中から外のビルが見えなくなるほどに木が生い茂り、入場したとたんにタイムスリップしたのではないかと思わせてくれる六義園。2024年7月6日、自然と日本文化を感じられる素敵な日本庭園のお茶室で、茶道部創部60周年を記念する茶会を開催しました。

当日は天気良くて気温も高かった中でもたくさんの方にお越しいただき、拙いながらもお客様に茶と菓子をお出しできましたことをたいへん嬉しく思っています。

当日は初代顧問の佐藤節先生から頂戴した掛物「瀟洒(しょうしゃ)」を飾りました。

そして、道具は前顧問の宮本啓子先生ゆかりの茶器と創部当時の眞田幸男校長先生が名付けられた茶杓「紫苑(しおん)」を使用しました。このように茶道部の創部から現在に至る歴史を伝える道具を使うことができたこともとても貴重な体験でした。



また、当日の菓子は普段の茶会で菓子を取り寄せているいせや製の「清流」でした。名前からも見た目からも皆様に涼しさを感じて

いただくことができました。そして、茶銘は「小倉山」でお詰めは小山園でした。こちらは、普段から茶道具や抹茶でお世話になっているももや商店で購入しました。

私たち茶道部は現在、16人の部員で活動しています。開催当時、入部したての一年生は稽古が充分ではありませんでした。また、参加できなかった部員もいて人手が足りず、一人一人の仕事量が多くなってシフトの偏りもありました。そんな中でも無事に開催できて、引退後にもかかわらず手伝っていただいた六年生やしっかりしていて頼れる部員達には感謝しています。

最後に、暑い中、私どもの茶会に来ていただいたお客様の皆様には大変ありがとうございました。茶道部はこれからも一年一年積み重ねられるように精進していきますので、見守っていただけたら嬉しいです。

茶道部部长 五年 天野陽菜



紫友美術会

紫友美術会の主行事である定期展覧会は、昨年8月17日～22日の6日間、第十回以来24年ぶりに、文京シビックセンター・アートサロンで開催しました。猛暑の中ではありませんでしたが、会員14名の作品31点が並び、場所柄もあり区役所での帰りに寄られる方を含め、500人以上の来場者をお迎えできました。昨年から文京区の社会教育団体に登録できましたので、様々な催しにシビックセンターのアトリエや学習室を活用して、広く区民へのアプローチができるものと思います。24年前の第十回の際は、大勝恵一郎先生の個展を組み込み、元気に御指導くださり大いに盛り上がったことが思い出されます。



その他の活動としましては、今年3月には、上野の西洋美術館で開催された「西洋絵画どこから見るのか？」の観賞会を持ち、観賞後は、館内レストランで、印象や感想、時代背景の考察など語らいを交え楽しい食事会を持ちました。

また、5月31日(土)にシビックセンター学習室で、総会及び講演会「時空を超えた旅ーシリア・アレppoからフランス・アルビへー」(講師:並木隆さん (022E))を開催しました。アジアを中心に世界各地を旅している並木さんが現在も戦禍の絶えない中東シリアへ2004年に旅行し、



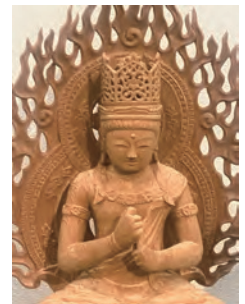
そこで偶然出会った友人を訪ねて2023年南仏アルビへの旅を興味深くお聞きしました。

今後もスケッチ教室や美術の勉強会、日帰りスケッチツアーなど企画し、又、主要な美術展覧会から選択して、観賞会を行ってまいります。

今年の定期展覧会は、10月28日(火)～11月2日(日)まで、京橋ギャラリー「くぼた」で開催します。今年も9月の創作展に展示される在校生の作品を美術科の森永先生とご相談して、何点か出品をお願いしようと考えております。若い在校生の力作は、会員にも刺激となりますし、展覧会の活性化が図れるとよいと思います。会員も新規入会の方も含め、昨年以上の賑わいのある定期展覧会を目指しています。

同窓会員の中で、日頃より芸術に親しまれている愛好家の皆様へ、ジャンルを問わずご自身の創作した作品を展示する機会を持ちたい方、美術館などで作品を鑑賞し、その感想を誰かと語り合いたい方、「紫友美術会」は人生を豊かにするゆるく気軽な集まりです。興味をお持ちの方は是非ご参加ください。申し込みは、別掲のとおりです。

岡田謙司 (020D)



人生を豊かに、充実の時を！ 紫友美術会へ

定期展覧会
スケッチツアー
美術館探訪 など



問い合わせ、入会申し込みは

shiyu.bijyutsukai@gmail.com

上野国立西洋美術館での鑑賞会



小石川 つながり

1. 紫友まち歩き

～2003年の母校創立85周年記念イベントに結集した同窓生世代を中心として、このつながりが消えてしまうのはもったいないと2005年から始めた「まち歩き」。今年で周り巡って20年になりました。コロナ禍による中断からも復活して、今では040以降の世代も多く参加しています。

紫友まち歩きはこれからも頑張りましょう！～

● 2004年度紫友まち歩きの実施状況

2024年度は第102回から第107回の6回が実施されました。

- ・2024年5月第102回「地下神殿龍Q館と首都河川・治水の歴史～江戸から現代まで～」

何回か予定されていても実施できなかった首都圏外郭放水路の防災地下神殿「龍Q館」のまち歩きが、貸切バスを利用して実施されました。なかなか見学の予約が取れない人気施設ですが、案内人は、洪水対策施設である地下神殿見学に加え、江戸から現代までの首都河川の治水の歴史訪問を企画し、ほぼ歩かないまち歩きでした。

参加者：19名、案内人：柴田知彦（017D）

懇親会参加者：14名



- ・2024年6月第103回「相模野に螢を求めて」
夕方集合、少し暗くなってから片道20分ほどの歩きと現地での螢見学のまち歩きでした。

参加者：4名、案内人：松永文昭（017D）

● 久しぶりに京都での紫友まち歩き開催

- ・2024年12月第104回「京都・比叡山巡り「光る君」と横川の僧都を巡る旅」(2024年12月1日～3日)

京都と奈良のまち歩きは参加者も多く、今までも好評なイベントです。

今回は比叡山と高野山を巡ろうという第1弾でした。



勝林寺の紅葉→

- 1日目：宇治紫式部像、興聖寺や源氏物語ミュージアム、平等院「鳳凰堂内」他

- 2日目：比叡山の横川地域の四季講堂（元三大師堂）他、東塔地域の根本中堂他

- 3日目：東福寺臥雲橋や国宝三門、光明院や勝林寺安井金比羅宮や六道の辻の碑他

暖冬のためか紅葉が遅れて、好天のなか最高の見頃でした。写真を見てください。

2025年5月21日には第2弾の高野山のまち歩きが実施予定です。

- ・2024年12月第105回「渋谷区公共トイレ巡り」

映画「Perfect days」は、公共トイレの清掃人を主人公にした映画で、ベネチア映画祭でも話題になりました。そこでまち歩きのテーマとして案内人が今回は6カ所のトイレ巡りを提案。好天の中、バスも利用して、のんびりとしたまち歩きになりました。

参加者：18名（途中2名参加）、案内人：浅見真一郎（011G）懇親会参加者：14名



・2025年1月第106回「超高層のあけぼのからスーパーツールへ」

虎ノ門から神谷町、麻布台界隈の現在の超高層ビルを見学しながら、超高層ビルに向けての1960年代から現在までの建設業界のチャレンジなどの話を聞きました。目の前にそびえる建物、さらに最高階から眼下の景色を楽しむまち歩きでした。

参加者：20名、案内人：荻原行正（018A）
懇親会参加者：15名



なお、まち歩きの報告書は公開されています。URLは以下です。

https://www.shiyu-dousoukai.jp/archives/a_dousousei/a_hito_koto/machi/index.html



●紫友まち歩きへの参加方法

：040期以降の参加者も増えています。あなたも参加しませんか。

次回6月か7月予定で、第109回「最新トイレ巡りその2と庭園美術館（旧朝香宮邸）」が計画されています。参加希望の方は、紫友まち歩きのメーリングリストに登録することにより、開催メールや実施内容などが送られるようになります。

紫友まち歩きに参加希望の方はお手数ですが、世話役の柴田知彦（017D）さん宛に参加希望のメールをしてください。メールアドレス：shibata@skm.co.jp

017D 小林偉昭

・2025年4月第107回「お花見千鳥ヶ淵の花吹雪」

「千鳥ヶ淵の花吹雪」と名打った企画でしたが、3月30日の満開後、花冷えと菜種梅雨が続き満開状態が維持されて、今日は絶好の「花見日和」でした。

参加者：18名、案内人：柴田知彦（017D）・吉田健（017A）・山崎祐子（017A）、懇親会参加者：14名

巣鴨で1番のズボン屋

Sun Matsumiya

たくさんのズボンの
中から運命のズボンを
見つけます♪



021G 松宮初枝



店舗 HP



2. 紫友経済人交流会

●第6回 紫友経済人交流会開催報告

令和7年6月14日（土）、第6回紫友経済人交流会が38名（7名初参加）によりJJK会館（東銀座）で開催されました。今回は、東京大学名誉教授、東京大学先端科学技術研究センターフェロー 御厨貴先生（022H）お迎えし「戦後80年を振り返る。～小石川時代を振り返りながら～」のテーマでご講演をいただきました。

冒頭、土屋会長のご挨拶があり、本日の講演テーマに因んで、新旧の大阪万博の状況を引用され、個人が色々な思い出を持っておられる旨を話されました。



御厨先生のご講演では、まず2025年が「戦後80年」「昭和100年」という節目であるにもかかわらず、メディアの関心が薄れている現状に違和感があると述べられました。現政局については、自民党の石破茂政権が少数与党でありながらも意外と強い背景として、動きの乏しい立憲民主党と、実務的に政策交渉を進める国民民主党の取り込み方に自民党は気がついたこと、さらに岸田文雄前首相による派閥解体が、無派閥の石破首相にとって追い風となっていると解説いただきました。またトランプ大統領の再登場を、備えを怠った幕末のペリー来航と重ね、日本が対米外交の備えを欠いていることに危機感を示されました。その一方で、明治期に陸奥宗光が「イギリスで200年かかった議会制を日本では20年で成し遂げる」と述べ実行したように、日本には短期間で変革を成し遂げた気概にこそ可能性があると言われました。

次に、近・現代の日本政治史研究に取り入れられた手法である“オーラル・ヒストリー（当事者から話を聞き取り、記録としてまとめるこ

と）”の体験を率直にご披露いただきました。後藤田正晴氏や石原信雄氏らの証言を記録するオーラル・ヒストリーの経験がご自身の歴史観を形成したとのことでした。

もともと高校2年生の時、校友誌『開拓』編集長を務め、自ら書いた論文が朝日新聞の目に留まり、政治・経済担当の川野健二郎先生から、東京大学法学部で政治史を学ぶように勧められ、その後の人生の方向が決まったエピソードをご紹介します。

最後に、現在は朝日新聞の書評委員として活動され、川本三郎氏の「陽だまりの昭和」や関川夏央氏の「昭和的」について書評をお聞かせいただきました。



一方、交流会では、恒例の笠原幹事長の乾杯に続き、来賓の鈴木善博紫友同窓会長よりご挨拶いただきました。鈴木会長は5月24日の評議委員会で新会長に選任されました。新体制で紫友同窓会をさらに盛り上げていきたい旨の決意を披露されました。最後に小石川物理研ロケット班が“ロケット甲子園2024”に優勝しパリで開催される世界大会に出場する旨説明され、資金面も含め応援のご依頼がありました。



第六回 紫友経済人交流会

その後、新規参加者に自己紹介を頂いた後、3人の方に5分程度のPRをお願いしました。最初の登壇者は城谷晃一さん（028A）で“生成AIで新ビジネスを創出しよう”のテーマで生成AIの課題と可能性を解説され、ご自身が代表をされている“Needs Explorer, Inc.”のサービス内容のご説明をいただきました。



次に登壇された高瀬創研さん（041H）は昨年の会報52号の特集「我ら・小石川・農業人」に紹介された方で、はるばる長崎から参加されました。自分のやりたいことは何かを突き詰め2014年4月に退職後、長崎に一人でご自宅を建てられ、自然野菜の自給と販売を目的に“いいもり自然農園”を設立、運営されています。



最後に金澤秀之さん（043B）が登壇されご自身が代表をされている「かなざわ社労士事務所」のサービスをアピールされました。当事務所は助成金を専門に扱われており、人材採用に関する助成金の解説とともに専門家の適切なアドバイスで正に助成金を受け取ることの大切さを説明いただきました。



和気あいあいの懇親の場を2時間満喫し、最後は野村副幹事長の中締めで散会となりました。豪放磊落に楽しいお話を聞かせていただいた御厨貴先生、ご参加頂きました皆様に改めて御礼申し上げますと共に、今後とも本会へのご理解ご協力をお願い申し上げます。

紫友経済人交流会 事務局長 大村 仁
(031H NTC コンサルタンツ代表取締役)

「銀座の隠れ家」として銀座で26年
小粋な和服美人のお洒落なお店

「こ 輪」



銀座 8-6-20 銀座八番館ビル6階(並木通)
TEL: 03-3573-0770 中尾 輪子 (042H)
korin-nakao@nakawa.co.jp

同窓生関係者の皆様へ

広告出稿のお願い

「紫友同窓会報」は「五中・小石川」を卒業された同窓生、中等教育学校に通う現役生、新旧教職員など本稿に関わる皆様へ向けて毎年、1万8千部以上を発行、配布しております。

社会の各方面で活躍されている同窓生の皆様へ

会報の広告は、母校小石川と同窓会へ応援の気持ちを伝え、あわせてご自身のお名前や事業活動を同窓会及び学校関係者にさりげなくアピールできる唯一無二の媒体です。

次の母校創立110周年に向けて、貴方の広告出稿をお待ちしています。

* 広告料 (ご参考=2026年度予定額)

A4全頁 10万円、1/2頁 5万円、1/3頁 3万円、
1/4頁(縦横可能) 2万5千円、1/8頁(名刺大) 1万円

* お問い合わせは紫友同窓会事務局まで

* 初出稿の際には事前の相談から版下作成等のお手伝いも出来ますのでお気軽にご連絡ください。



3. 中村稔さんと 岡田謙司さん(O20D)の対話

(26 ページ、「同窓生訪問 (中村稔さん)」から続く)

岡：さいたま文学館 (埼玉県桶川市) の開設 (1997・平成9年) にあたっては色々ご指導をありがとうございました。今回、「紫友同窓会報」の取材に同行しまして10年ぶりにお伺いしました。



中：当時、僕は日本近代文学館の副理事長をしていたのですが、全国に公立私立の多くの文学館が建てられた時期だったので、文学館はどうあるべきかについて考えることが多かったのです。そこで、埼玉県が県立の文学館を建てるといので、僕は色々注文を付けたのですが、そのため、ずいぶんご迷惑をおかけしたことでしょ。

岡：私は当時、県の職員として担当を命じられて、県出身作家の資料収集の苦労など多くの思い出があります。また同じ頃に中村先生と先年亡くなられた歌人の篠弘先生 (昭和20年入学03・1933-2022) が母校の大先輩であること知り、ご著書『私の昭和史』も何度か読み返しておりました。

今回、雑誌『ユリイカ』3月号、4月号に連載されている「故旧哀傷・折多喜郎・五中D組群像」および「故旧哀傷・中川一朗・五中D組群像」を拝読しました。

『私の昭和史』でも有名無名を問わず多くの人物が登場しますし、「五中D組群像」でもざっと数えて37.8名の同級生のお名前が出てきます。一人ひとりの思い出を語っておられますが、その並外れた記憶力にもとても驚きました。

中：記憶力とおっしゃるけれど、僕は戦後になってずっとクラス会の世話をしていましたから。同級生の方々の消息をかなり良く知っていたのです。D組の多くは理科系、僕は文科系ですが、要するに、五中が好きなんです、D組が好きなんですよ。

それから、『ユリイカ』にも書きましたけど、五中の四年から五年に上がる時に、「花札事件」というの

がありました。その年の3月の春休みに防空演習があって、クラスの一部の人、僕と仲が良かった連中ですが、講堂の警備を命じられました。その時に講堂の奥、厚手のカーテンで仕切られた中で、五年生が花札をやっていた、と先生に告げ口されて、僕の親しい仲間が次々に教員室に呼び出されたのです。僕は一高の試験に失敗してすっかり落ち込んでいたので、その春休みの防空演習をサボっていたからその事件に巻き込まれなかったんですけどね。

岡：その事件と顛末というのは、やっぱり「五中」らしいですね。

中：結局、やった大人たちが口裏を合わせて英語カードをいじっていたのだと言い張ったために、大ごとにならず終わったのですが、その後、我がクラスの代表が告げ口をした四年生のクラスに出向いて謝らせたいです。代表って言っても我々の代表と決めたわけじゃなくて、本人が代表だと名乗っただけの話なんですけどね。いったい、花札と英語カードを間違えるなんてことは、ありえないですよ (笑)。戦後にことの真相がわかってみると、四年生の告げ口が本当だったわけですよ。ところが、告げ口された方が単語カードだって頑張ったので、先生方が助かった面もあるんじゃないですかね。ご真影奉安所のカーテンの中で、防空演習中に、花札を引いていたというんですからね。真相が暴かれたら、学校側の責任にもなりかねなかった、と思うのです。

岡：五中二年生の時に初めて詩を書いて『開拓』に投稿されましたが、お兄さんの影響もあって中学2、3年の頃までに『現代日本文学全集』(改造社版、円本全集と呼ばれ広く親しまれた) をあらかた読まれたと。

中：今でも持っていますけれど、その中の1巻『現代日本詩集・現代日本漢詩集』を耽読していました。巻末の解説 (「明治大正詩史概観」) を北原白秋が書いていましてね、萩原朔太郎よりはもうちょっと後の時期の詩まで入っています。この白秋の解説はなかなかいいものでして、僕は、本気で僕の生涯の最後の仕事として北原白秋論を書いてみようかと思うくらいに、白秋を尊敬しているんです。

今の現代詩人は、朔太郎以降の現代詩しか読まない人が多いと思いますが、僕はその前の島崎藤村から蒲原有明や薄田泣菫などを非常によく読みました。その辺が今の現代詩人とちょっと違うんじゃないかなと、



思いますね。薄田泣菫の詩など、とっても言葉が難しいですよ。けども、とってもいい詩ですよ。「公孫樹下にたちて」とかね。いろいろ。

岡：詩作以外にどのような趣味や娯楽がありましたか。

中：まず相撲はラジオで聞いていただけですが、双葉山が69連勝で終わり、安芸ノ海に負けた時の放送を憶えています。1年2場所制（春場所と夏場所だけ）でしたが、ラジオ放送にずいぶん熱中しました。ただ、これは小学校のころのことで、五中では相撲が話題になったことはなかったと思います。

野球は六大学が全盛で、職業野球と呼んでいたプロ野球は、『読売新聞』だけが記事にしていました。新聞の記事も夏の中等野球は『朝日』、春の選抜と都市対抗は『毎日』とすみ分けていたのですが、野球好きな父に連れられて職業野球を何回か見ています。とりわけ父はセネターズが最頂で、法政出身の荊田久徳という内野手の華麗で敏捷なプレイが印象的でした。

岡：映画もよくご覧になっていますね。当時の五中には特に制限はなかったのですか。

中：『ユリイカ』に書いたとおり、私たちは映画少年でした。『キネマ旬報』のベストテンに入った映画を観るためにいろいろの映画館を訪ねました。あの時代ですが、学校側から映画をみるのを制限された覚えはまったくありません。黒澤明が「姿三四郎」(1943年公開)で、木下恵介が「花咲く港」(1943年公開)でデビューしたのがほぼ同時期で、前者のカメラワークの綺麗だったこと、後者の上原謙の喜劇的才能に吃驚したものでした。上原謙は戦前の典型的な二枚目だったから、小沢栄太郎とのコンビが実にユニークでした。

黒澤は「姿三四郎」以前に『日本映画』という雑誌に「達磨寺のドイツ人」というブルノ・タウトをモデルにしたシナリオを発表していたので、名前を早くから知っていました。この雑誌に、伊丹万作が「静臥雑記」という随筆のような映画評を連載していたので愛読していました。その意味では、伊丹万作が私に映画の見方を教えてくれたと思っています。「無法松の一生」(1943年公開)は伊丹万作のシナリオ、稲垣浩監督で、坂東妻三郎、園井恵子出演の映画ですが、これを見た時の感動は忘れられません。

岡：いずれも昭和18年の公開ですから、五中五年生の時にリアルタイムでご覧になっているのですね。こ

れが翌年春に一高（文科）に入学すると、戦争がより身近に、ご自身の周りに迫って来ますが、その頃の気持ちはどのようなものでしょうか。

中：それは漠然とですが（近いうちに必ず兵隊に採られて死ぬことになる）という気分をつよく持っていました。僕が戦争の意味を考えるようになったのは、一高に入ってまもなくの頃ですね。戦後に宗左近（詩人・仏文学者・1919-2006）という名前で詩人になった上の学年の古賀照一さんが入賞することになり、その壮行会が古賀さんの家であった時に、僕はいいだもと一緒にでかけたのですが、そこで、白井健三郎さん（文芸評論家・フランス文学者・1917-98）と橋川文三さん（政治学者・評論家・1922-83）との大論争が起こったのです。つまるところ（最後の投げ所は）橋川さんは人間であることよりも日本人であることが先だという立場。白井さんは日本人であるより前に、人間であることが先だという立場でした。それで橋川さんが白井さんに、お前、ぶった斬る、と怒鳴ったのに、白井さんは平然としていた。（白井さんの）日本人であるよりも人間であることが先だってことは、無意味な戦争の為に人間としての尊厳を犠牲にして死ぬことはできないってということなんですね。一方、日本人であることが先だっていう橋川さんの立場は、要するに国難に殉じて死ぬのは日本人である以上、当然だということでしょう。橋川さんは当時の日本浪漫派に影響されていたのです。それで橋川さんは戦後になってから、日本浪漫派研究っていう立派な著書をお書きになったけど、その当時からの考えをご自身で突き詰めていったのです。

僕としては、そういう場ではじめて自分の生き方を突き詰めて考えるようになったっていうか、それまでは気分として厭戦的でしたが、思想として反戦的ではなかった。白井さんの影響で思想として反軍国主義になった、そういう感じがします。

岡：先ほどの戦時下の学校生活のお話から視野を広げて、当時の世相や趣味のことまで伺いました。お話は汲めども尽きぬ感がありまして、伺いながら98歳という御年になられていることがまるで信じられません。我々後輩としまして、今後とも精力的な執筆活動を続けられることを願っております。本日はありがとうございました。

中：はい、やっぱり五中ですからね。立志開拓創作ですよ。

事務局だより

事務局長 月田陽子 (029B)

事務局は、029B 月田陽子、030A 清水潤子、035G 駒田晴美の3人で担当しています。原則、火・金曜日が在室日ですが、その他の日はメール、留守電、FAXでご用件を承っています。お気軽にご連絡ください。

ホームカミングデー

本年度も学校創作展に合わせた開催を検討中です。決まりましたら同窓会 HP でお知らせします。

名簿の変更について

引越しや改姓などによる登録情報の変更がある場合には、変更内容を、事務局までメール、電話、Faxでご連絡ください。

なお、会報が届いていない方は名簿上住所不明となっています。周囲にそのような方がいらっしゃいましたら、ぜひ事務局に連絡するようお声がけください。(WEB名簿の公開機能は停止中です。詳しくは、P14【WEB名簿の停止について】をご覧ください。)

会費の納入について

紫友同窓会の運営は同窓会員の納入会費によって成り立っています。財政運営状況を健全に維持するために、2014年からは毎年2,000円の会費を納めていただくことになっています。納入には下記の4種類の方法があります。

- ① 郵便局：会報の宛名台紙に印刷された「払込取扱票」をご利用ください(振込手数料は同窓会負担)。
- ② 銀行振込：紫友同窓会口座にお振り込みください(振込手数料はご負担願います)。
※振込の際は、「卒業回または卒年次」「クラス」「お名前」を必ずご記入ください。(記入例 030A シユウタロウ)
- ③ コンビニ支払・スマホ決済：2022年度より導入しましたので、宛名台紙に印刷された「払込取扱票」をご活用ください(振込手数料は同窓会負担)。
- ④ 口座自動引落とし：毎年振込の煩わしさを解消するため「口座振替サービス」を導入しています。口座振替依頼書はホームページに掲載していますが、見られない方は事務局にご連絡いただければ郵送いたします。今年度分からの口座振替を希望される方は、事務処理の都合上10月15日までにお申し込みください(振替予定日は11月27日です)。

東洋文庫ミュージアムの利用について

年会費を納入された会員の方は、無償で同施設の観覧、利用ができます。利用希望者は、事務局にて会員証を発行しますので、初回利用日の2週間前までに事務局へご連絡ください。

なお現在、同ミュージアムは施設工事中のため、2026年1月頃まで休館となります。ご注意ください。

紫友スタジオ

百周年記念事業の目玉として取り組んだ「紫友交流室」で、リアル交流の活動拠点となる「紫友スタジオ(収容人数：約20人)」を開設しています。場所は、不忍通りをはさんだ学校の向かい側、1階にキャピタルコーヒーがあるビルの地下です。クラス会、会議・セミナー、楽器練習等に、ぜひご活用ください。

《紫友スタジオ利用の手引き》

<https://www.shiyu-dousoukai.jp/100shuunen/studio/stdio-manual.pdf>

紫友文庫

会員の皆様から寄贈された同窓生・小石川に関する著書を「紫友文庫」と名付け、配架しています。一覧はホームページでご覧ください。閲覧・貸し出しは事務局までご連絡ください。また、ご著書の寄贈もお待ちしております。

評議委員について

同窓会と会員をつなぐパイプ役として、各クラスから1~3名の方を評議委員として選出していただいています(評議委員の一覧はホームページを参照ください)。

評議委員には、クラスを代表して同窓会の運営・活動へのご意見等をいただいています。欠員のあるクラスは、クラス会幹事など実質的に活動されている方にお引受けいただき、事務局へご連絡ください。また、評議委員会への出席率向上のため、可能であれば各クラス2名以上の方を選任いただくようお願いします。

「紫友みらい基金」へのご寄付のお願い

母校創立百周年を契機に、母校支援・同窓生交流促進等の「新しい同窓会活動」がスタートし、活動を継承する基盤として百周年募金の残余金を原資に「紫友みらい基金」が創設されました。基金充実のため、百周年後10年間でさらに1億円の募金を目標としています。会員・客員の皆様のご協力をお願い致します。基金名称：紫友みらい基金

1. 募金の目的

- ① 教育支援活動
- ② 交流促進活動
- ③ 小石川の杜プロジェクト（内容見直し中）

2. 募金目標額 1億円（2019年～10年間を想定）

【返礼品の贈呈】

一口5,000円以上のご寄付に対して、同窓会またはご協賛いただいた同窓生提供の物品・サービスを返礼品として贈呈いたします。右記、返礼品一覧表の該当カテゴリからご希望のものを1点お選びいただき、お申し込みください。

※ご寄付1回毎に贈呈し、期間内に何回でも可。
 ※当基金への寄付は、税の優遇措置・控除対象には該当しませんので、あらかじめご了承ください。

【ご寄付と返礼品の申し込み方法】

- ① 郵便局：会報の宛名裏面に印刷された「払込取扱票」をご利用ください（手数料は同窓会負担）。返礼品については、払込票の「通信欄」にご希望の品のコードをご記入ください。
 （例）A-1 希望
- ② 銀行振込を利用されて紫友同窓会口座にお振り込みされる方は、下記枠内のQRコードよりご希望の返礼品をお選びください。

※年会費2,000円と合算した額をお振り込みください。振込金額のうち、会費2,000円を超える金額が「紫友みらい基金」へのご寄付となります（会費が優先的に納入されます）。

【返礼品提供ご協力者の募集】

返礼品提供にご協力いただける方を募集しています。ご協力いただける同窓生の方、またはそのような方をご存じの方は、ぜひ事務局までお知らせください。

【返礼品一覧】(2025年6月現在)

※最新情報は同窓会HPでご確認ください。

カテゴリ A (寄付額 5,000円以上 10,000円未満)

- A-1 野老朝雄さん (040E) 意匠マグネット (紫)
- A-2 懐かしの校舎イラスト絵葉書セット (紫)
- A-3 オリジナルマスクケース (紫)

カテゴリ B (寄付額 10,000円以上 20,000円未満)

- B-1 スマホホルダー “elastiX” (塚)
- B-2 和柄小物 (文庫ブックカバー) (窪)
- B-3 ロワイヤルヴェルジュ (蒲萄調味料) 1本 (中)
- B-5 新潟胎内黒川農産のコシヒカリ 1kg (安)
- B-6 書籍「我らは伊藤長七の教え子だった」(紫)

カテゴリ C (寄付額 20,000円以上 50,000円未満)

- C-1 和柄小物 (名刺入れ) (窪)
- C-2 蒲萄ジュースとヴェルジュセット (中)
- C-3 クリエーションファーム産 赤ワイン 1本 (中)
- C-5 新潟胎内黒川農産のコシヒカリ 5kg (安)
- C-6 小石川百年史 3部セット (紫)

カテゴリ D (寄付額 50,000円以上)

- D-1 クリエーションファーム葡萄狩りセット (中)
 (ワイン+ジュース+ヴェルジェ各1本)
- D-2 ショコラ房商品詰め合わせ (伊)
- D-3 久右衛門邸ランチコース 1名様食事券 (伊)
- D-4 新潟胎内黒川農産のコシヒカリ 10kg (安)
- D-5 カシミアストール (百周年記念制作品) (紫)
- D-6 ペンションムーミンパパ 1名宿泊券 (太)

※黒川農産のお米は2025年米を予定しています。

※協賛同窓生等の略称

紫友同窓会 = 紫、塚田憲さん(017D) = 塚、
 太田善万さん(021G) = 太、窪田慎三さん(022D) = 窪、
 中村良行さん(029F) = 中、伊藤紀幸さん(035E) = 伊、
 安城守英さん(053F)・あゆみさん(058D) = 安

会費・寄付の振込先「紫友同窓会口座」

【郵便局】口座番号 00110-2-11869

加入者名「紫友同窓会」

【銀行】みずほ銀行駒込支店 普通口座 0629241

名義「シユウドウソウカイ」

※振込の際は、必ず「卒回または卒年次」「クラス」「お名前」をご記入ください。（記入例：030A シユウタロウ）

※使途を指定される寄付は「お名前」の後ろに下記の数字を付記してください。（記入例：030A シユウタロウ-2）

教育支援活動（教育支援口⇒1）交流促進活動（交流活動口⇒2）

※問い合わせ 紫友同窓会事務局 原則として、火曜と金曜の10時から17時まで在室

Tel/Fax 03-3945-1961（留守電あり）

メールアドレス jimukyoku@shiyu-dousoukai.jp

銀行振込の方向け
 返礼品申し込みQRコード→



○逝去者一覧

前号の発行以降に事務局にご連絡いただいた方々です。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略)

卒クラス	逝去者氏名	逝去年月日	卒クラス	逝去者氏名	逝去年月日	卒クラス	逝去者氏名	逝去年月日	卒クラス	逝去者氏名	逝去年月日
旧職員(家庭)	大町 淑子	2023.3.22	03A	初川 修一	2024.3.19	07B	青木 秀之	2025.3.12	015H	吉田 徹	2023.11.20
旧職員(生物)	下河 嗣朗	2024.5.7	03B	吉田禎一郎	2025.3	07C	福島 利夫	2022.7.28	016B	和田 誠一	2023.11
旧職員(保体)	藤田 幸康	2025.1.14	03C	半田 慎雄	2024.10.31	07F	丸田 康穂	2024.1	016C	長嶋 憲一	2024.7.9
旧職員	山下 龍二	2011.3	03C	藤井 正明	2017.8.31	07G	田島 信弘	2021	016D	田上 幹樹	2024.8.8
旧職員(家庭)	稲葉 ふみ	2024.7.13	03C	増田 実	2023.10.18	07H	花澤 豊伸	2016.9.10	016E	中西 一雄	2023.12.17
旧職員(化学)	長谷川俊明	2025.1	03D	原田 穰	2024.7.25	07H	横瀬 弘志	2024.9.12	016F	小林 淑恵	2022.3
五中 17A	長島 喬	2024.12.24	03F	近藤 嘉明	2025	08C	川村 知哉	2024.1.4	016G	石川 盛士	2025.2.2
五中 18B	高崎 英雄	2023.12.21	03F	佐藤 徹	2011.1.2	08C	高橋佳代子	2024.5	017E	野島 健児	2013
五中 18D	堀江 良雄	2024.3.13	03G	石川 治郎	2021	08C	松元 驥一	2023.4.10	018C	五十嵐徹也	2025.3
五中 19C	山口 勝也	2023.10.16	03G	台 博	2020.9.15	08E	小川善次郎	2021.2.15	018G	二宮 元彦	2021
五中 19E	上保 利則	2023.9.30	04B	関島善三郎	2019	09E	林 秋雄	2022	018J	愛沢 豊重	2024.4.2
五中 20B	佐藤 忠一	2024.7.29	04B	高橋 康之		09F	荒井 徹	2024.1.27	019C	持田 洋美	2023.12.20
五中 21A	俵藤 正克	2024.6.22	04C	島田 尚三	2024	010A	佐藤 隆司	2024.8.17	019E	山本 俊夫	2024.10.30
五中 21B	中村 繁	2022.2	04C	田村 武男	2020	010A	森屋 茂雄	2024.9.30	019H	草野 順子	2023.9.5
五中 21C	宮崎 達雄	2024.9.30	04D	遊馬勝次郎	2024.9.24	010D	小山 行直	2024.8.2	020H	横山みね子	
五中 21E	野上 芳美	2024.3.15	04F	川村 一郎	2023.6.19	010D	高橋 幸夫	2023.12.22	020H	田中 幸子	
五中 22C	岡上 忠夫	2019.2.25	04F	瀧内 慎雄	2023.6.2	011A	大塚 融	2024.10.15	021B	樋口 芳雄	
五中 22C	太田 敏治	2020.6.28	04G	高木 英也	2024.10.9	011A	大村 好久	2023.4.1	021D	今井 透	2024.5.15
五中 22D	濱野 恒雄	2024.8.7	04G	浜口 義曠	2021.8.31	011B	池埜 紀慶	2021.12.23	021E	望月 昭	2021.10.1
五中 22D	横田 剛男	2024.6.23	04H	柿沼 信義	2024.3.25	011C	伊藤 敦之	2024.4	021G	円谷千恵子	2024.7
五中 23B	畑 英次郎	2023.8.4	05A	佐々木純一	2023.2.24	011C	小林 逸郎	2024.5.14	021H	多田 花子	2024.10
五中 25A	鈴木 至誠	2024.6.27	05B	鈴木 澄男	2024.3.2	011H	青山 正男	2024.4.18	021H	藤田 武	2024.10.20
五中 25B	高柳 誠一	2023.1.23	05C	小林 裕	2024.3	011H	柴田惣一郎	2023	022A	松永 信	
五中 25D	齋藤 和彦	2018	05D	本多 滋	2019.3	012B	高橋 匡司	2024.1.30	022E	宮下 修	2023
五中 25E	森 和久	2024.10.14	05E	増島 淳隆	2024.8.25	012D	松原 秀之		023B	橘田 秋彦	
五中 25	中村 幸男	2024.3.25	05G	栗生 敏明	2024.5	012D	柳生 忠義	2024.1.29	023B	久貝 正巳	2019.8.4
五中 26C	森 啓一	2024.9.19	05H	内藤 満義		012E	関矢 英士	2023.12.15	023H	高田 綾子	2018.6.8
01A	倉持 二郎	2020.3.22	06D	速水 明憲	2024.6.10	012F	小沢 征行	2024.2.28	025B	岩城真理子	2025.6.1
01B	杉 和		06E	岡野 薫	2024.1.4	012H	中沢 新吾	2017	025B	松本 清二	2024.8.18
01D	近藤 八郎	2023.10.25	06E	田畑 紀子	2024.5.26	013D	鈴木 俊郎	2017	027I	加藤 孝司	2024.4.3
02B	関 三雄	2023.12.17	06E	西尾 幹二	2024.11.1	013F	熊木 大吾	2023.11.4	028H	池田由美子	2023.11.27
02D	山本 幸雄	2024	06F	加藤 喜市	2024.4	014C	戸部 勝亮	2024.7.4	029I	大同 久明	2024.7.1
02E	大門 啓治	2024.5	06F	高原 康彦	2025.6.3	014F	日下部康明	2023.4.28	030B	荒井 政美	2023.10.20
02E	早川 一雄	2024.4.20	06G	佐野 弘藏	2022.2	014H	田中 祥子	2024.9.25	030D	宮内 栄吉	2024.1.7
02E	別府 哲雄	2024.4.21	06G	鈴木 諱	2022	014H	榊山 襄	2024.11.4	032E	埋田 和美	2024.8
02F	長崎 史朗	2024.8.4	06H	小野 章一	2023.10.12	014H	三宅 康雄		034I	白井 徹	2024.5
03A	青山 貞夫	2024.11.29	06H	水野 悦子	2023.12.1	015E	加藤 将己	2024.3.1			
03A	三橋 淳	2024.8.12	06H	水野 基	2023.11.30	015H	久保田 敦	2025.4.13			

表紙の言葉 「エナガ団子」

内山 懋 (うちやま つとむ) (011)

冬から春の林を散策していると愛らしいエナガの群れに出会うことがあります。ジュリリ、ジュリリ、と鳴きながら枝から枝へと移動していきます。

そんな彼らが枝に一行に横に並んで押しくらまんじゅうしてることがあります。

エナガだんご、と言われてます。

どんな意味があるか分かりませんが、なんとも愛らしいほっこりした気分になります。「絵になるな！」と思いその姿をデッサンしてみました。できた図を眺めていますと小鳥たちの姿が昔の仲間のように見えてきて親しみと懐かしさが湧いてきます。エナガだんごではなく同窓生だんご、とでも名付けてみたくなりました。

そんな訳で作品としては未完成ですが、紫友会報に投稿いたしました。この未完成のイメージデッサンに筆を重ねてもこれ以上のものができる自信がありません。体裁を気にして過度の説明を加えたり、修正に塗り重ねて焦点がぼやけてしまう失敗を随分繰り返してきました。

「そこで止め！」と諭してくれる先生か神様が居てくれたら……いつも思います。この未完の「エナガ団子」、どう油彩作品に仕上げていくか、悩ましい限りです。

編集後記

○同級生の鈴木善博新会長から真摯で丁寧なお誘いを受け、逡巡の末に今号から同窓会報のお手伝いすることになりました。大学卒業以来30年以上出版社勤務だったとはいえ、おもに小説の編集をしていた私にとって冊子作成は未経験。精力的に動かれる並木さんのもて学びつつ、校正中心の作業に励みました。並木さんと同じ小学校出身だったのも、何かの縁かもしれませぬ。

○卒業以来半世紀ぶりに学校の敷地内に足を踏み入れ、紫友会館の変わらぬ佇まいに懐かしさを感じるとともに、校正を通して同窓生の方々の多方面に亘るさまざまなご活躍、在学生との熱心な関わりなどを知り、紫友同窓会の大きな意義を感じています。携わっている方々、お疲れさまでした。 草野頼子 (029C)

○会報グループに加わって10年、退職後は前任の岩瀬恵子さん (025I) から編集長の名を引き継いで9年、今号で小生の編集作業はいったん区切りとします。この間、計10冊の「会報」を発行しましたが、勝手に記事が集まるわけではなく、A4判64ページ2段組を満たすには、常時アンテナを高く張り、伝手を辿って時の話題や人物を見つけることが必要でした。それでも、小石川の名でお願いすれば、どなたも快く引き受けてくださり、『同窓生訪問』には毎回、多彩な人物が登場しましたし、『吾が校友の精神を』にご寄稿は途絶えませんでした。

○まさに光陰矢の如くの10年、古くなった自宅PC上には会報に関わった同窓生皆様とのやり取りが大切に残っています。中にはもうお会いすることができない方々もあって、恐る恐るした原稿の督促や直しのお願いなど、みんなが思い出となりました。

○今号の特集『五中・小石川と戦争』はいかがだったでしょうか。意あって力足らず、素人の独り相撲の感があります。中村稔さんと成田攻さんから貴重なお話も伺えました。前号までの相棒だった故嶋沢裕志さんへ、企画は何とか形になったよと伝えます。

○同窓会も戸叶前会長から鈴木新会長へバトンが引き継がれました。これからは気ままに事務局を訪れ、皆さんとたわいのないおしゃべりを楽しむつもりです。

「また来てる」なんて、言わないで。 並木隆 (022E)

紫友同窓会会報 第53号

2025年7月31日 発行

発行：都立小石川中等教育学校 紫友同窓会

事務局：〒113-0021 東京都文京区本駒込2-29-29

都立小石川中等教育学校内

TEL・FAX 03-3945-1961 (留守電アリ)

(原則火・金曜日の10時から17時まで在室)

メールアドレス jimu-kyoku@shiyu-dousoukai.jp

※同窓会事務局のアドレスが変更になりました

ホームページ <https://www.shiyu-dousoukai.jp>

(または“紫友同窓会”で検索)

印刷所：株式会社 木元省美堂

非売品

ピアニスト
桑原志織 デビューCD

お申込み pfspica@gmail.com



ブラス
シューベルト
リスト

特別価格【3000円】送料無料

世界三大音楽コンクール
エリザベト王妃国際
2025 Finalist 入賞!!



【紫友同窓会の皆様、いつも温かい応援を有難うございます♪】



トラットリア・イタリア文京店

東京都文京区本駒込2-28-10 文京グリーンコート1F

JR駒込駅 徒歩8分 三田線千石駅A3出口 徒歩5分

営業時間 11:30 ~ 22:30 / 150席 (個室2) / 年中無休 / 駐車場あり

yoyaku@kyoei-kikaku-group.co.jp



www.kyoei-kikaku-group.co.jp



ハードフル・コミュニケーション

晴れ着の丸昌

本紙ご持参で 10%割引が受けられる

卒業袴レンタル

池袋店

袴を着て
最高の
思い出を!

何着でも
ご試着可能!!

カタログ



店舗アクセス



衣裳のご準備はお済みですか?

- フルセット 19,800円~
- 着付先ご紹介出来ます

〒171-0014

東京都豊島区池袋2-39-2

☎ 0120(870)511 9:30 ~ 18:00 火曜定休

<https://www.haregino-marusho.co.jp/>